

一般国道 11 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 別宮北遺跡・別宮北古墳群

2010.9

香川県教育委員会  
国土交通省四国地方整備局

一般国道 11 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

## 別宮北遺跡・別宮北古墳群

2010.9

香川県教育委員会  
国土交通省四国地方整備局



別宮北古墳群1・2号墳（西から）



別宮北古墳群3～5号墳（東から）



別宮北古墳群 2 号墳出土 馬形埴輪頭部

# 序 文

別宮北遺跡・別宮北古墳群は香川県坂出市西庄町に所在する遺跡です。一般国道 11 号道路改良工事に伴い、国土交通省四国地方整備局からの委託を受けた香川県埋蔵文化財センターが平成 18 年度に発掘調査を行いました。その結果、別宮北遺跡では中世の掘立柱建物跡を含んだ多数の柱穴跡群や土坑等を、別宮北古墳群では古墳時代中期末～後期にかけての 6 基の円墳からなる古墳群と円筒埴輪を中心とした遺物を検出しました。なかでも別宮北古墳群は、これまでこの地域では知られていないかった古墳時代中期の古墳であり、綾川下流域における前期古墳から後期古墳への首長墓級の古墳の変遷を理解するうえで重要な意味を持つ発見となりました。また、1・2 号墳の周溝から出土した埴輪の中に見られる馬形・家形等の形象埴輪は、葬送儀礼の一端をリアルに垣間見せてくれる貴重な資料であるとともに、当時の人々の造形力の素晴らしさをしみじみと感じさせてくれる美術的価値の高い資料とも言えるものです。

別宮北遺跡・別宮北古墳群の整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成 19 年 12 月から 4 か月の期間で実施し、ここに「一般国道 11 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 別宮北遺跡・別宮北古墳群」として刊行することになりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 9 月

香川県埋蔵文化財センター

所長 大山 真充

# 例　　言

1. 本報告書は、一般国道 11 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告で、香川県坂出市西庄町に所在する別宮北遺跡（べっくうきたいせき）・別宮北古墳群（べっくうきたこふんぐん）の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体となり、香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査は、下記の期間で実施した。

期間：平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

担当：文化財専門員・宮崎哲治、佐々木和裕

調査技術員・藤井菜穂子、中村大地（役職名は当時）

4. 調査に当って、下記の関係諸機関等の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

国土交通省四国地方整備局、坂出市教育委員会、地元自治会、地元水利組合

5. 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は宮崎哲治が行った。

6. 報告書の作成に当っては、以下の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。（五十音順、敬称略）

藤川智之、山内英樹

7. 報告書で用いる方位の北は世界測地系の北であり、標高は東京湾平均海水位（T.P.）を基準としている。また、遺構は原則として下記の略号により表示しているが、整理の結果、調査時に付した略号と性格が一致しない遺構には「」で表示している。

SA 桁列跡	SB 掘立柱建物跡	SD 溝状遺構	SK 土坑
SP 柱穴跡	SR 自然河川跡	SX 不明遺構	

8. 遺構断面図の水平線上の数値は、標高値（単位m）を示している。

9. 石器実測図中、平面図中の濃いトーン部分及び輪郭線の周りの実線は摩滅痕を、輪郭線の周りの点線は潰れを表す。なお、現在の折損は黒く塗り潰している。

10. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1993 年版』による。

# 本文目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査・整理の経過	2
第3節 調査・整理の体制	3
第2章 立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	8
第1節 地形と土層序	8
第2節 別宮北遺跡	8
1. 捨立柱建物跡・柱穴跡	15
2. 溝状遺構	20
3. 土坑	20
4. 自然河川跡	23
5. 包含層出土遺物	24
6. まとめ	24
第3節 別宮北古墳群	27
1. 1号墳	27
2. 2号墳	38
3. 3号墳	60
4. 4号墳	63
5. 5号墳	63
6. 6号墳	64
7. まとめ	66

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	第22図 SR01出土遺物(1/2)	24
第2図 遺跡位置及び周辺の遺跡(1/30,000)	5	第23図 包含層出土遺物①(1/4・1/2)	25
第3図 溝査区位図(1/2,500)	9	第24図 包含層出土遺物②(1/2)	26
第4図 C区遺構配図図(1/100)	10	第25図 1号墳平面図(1/100)	28
第5図 A・B区遺構配図図(1/250)	11・12	第26図 1号墳断面図(1/100)	29
第6図 溝査区土層断面図(1/80)	13・14	第27図 1号墳内・外周溝遺物出土状況図(1/100)	31・32
第7図 SB01平・断面図(1/80)・出土遺物(1/4)	16	第28図 1号墳出土遺物①(1/4)	33
第8図 SB02平・断面図(1/80)・出土遺物(1/4)	17	第29図 円筒埴輪各部名称模式図	33
第9図 B区柱穴跡兼横番号図(1/100)	18	第30図 1号墳出土遺物②(1/4)	34
第10図 B区柱穴跡出土遺物(1/4)	19	第31図 1号墳出土遺物③(1/4)	35
第11図 SD08出土遺物(1/4・1/2)	20	第32図 1号墳出土遺物④(1/4)	36
第12図 SK02平・断面図(1/40)	20	第33図 1号墳出土遺物⑤(1/4)	37
第13図 SK02出土遺物(1/4)	21	第34図 1号墳出土遺物⑥(1/4)	38
第14図 SK03出土遺物(1/2)	21	第35図 2号墳平面図(1/100)	41・42
第15図 SK04平・断面図(1/40)・出土遺物(1/4)	21	第36図 2号墳断面図(1/100)	43
第16図 SK07・09出土遺物(1/4)	22	第37図 馬形埴輪周辺遺物出土状況図(1/20)	44
第17図 SK08平・断面図(1/40)	22	第38図 2号墳出土遺物(1/100)	45・46
第18図 SK10平・断面図(1/40)	22	第39図 2号墳出土遺物①(1/4)	47
第19図 SK11平・断面図(1/40)	23	第40図 2号墳出土遺物②(1/8)	48
第20図 SK12出土遺物(1/4)	23	第41図 2号墳出土遺物③(1/4)	49
第21図 SR01断面図(1/40)	23	第42図 2号墳出土遺物④(1/4)	50

第 43 図	2 号墳出土遺物⑤ (1/4) ······	51
第 44 図	2 号墳出土遺物⑥ (1/4) ······	52
第 45 図	2 号墳出土遺物⑦ (1/4) ······	53
第 46 図	2 号墳出土遺物⑧ (1/4) ······	54
第 47 図	2 号墳出土遺物⑨ (1/4) ······	55
第 48 図	2 号墳出土遺物⑩ (1/4) ······	56
第 49 図	2 号墳出土遺物⑪ (1/5) ······	57
第 50 図	2 号墳出土遺物⑫ (1/6) ······	58
第 51 図	2 号墳出土遺物⑬ (1/6, 1/4) ······	59
第 52 図	3 号墳平・断面図 (1/100) ·出土遺物 (1/4) ······	61
第 53 図	4 号墳平・断面図 (1/100) ······	63
第 54 図	5 号墳平・断面図 (1/100) ·出土遺物 (1/4) ······	64
第 55 図	6 号墳平・断面図 (1/100) ·出土遺物 (1/4) ······	65

## 観察表

形象埴輪観察表 ······	68 · 69	石器観察表 ······	83
円筒埴輪観察表 ······	69 ~ 74	鉄器観察表 ······	83
土器観察表 ······	75 ~ 82		

## 写真図版目次

卷頭図版 1	別宮北古墳群 1 · 2 号墳 (西から)
	別宮北古墳群 3 ~ 5 号墳 (東から)
卷頭図版 2	別宮北古墳群 2 号墳出土 馬形埴輪部
図版 1	別宮北遺跡 1 A 区全景 (西から) B 区全景 (西から)
図版 2	別宮北遺跡 2 A 区北壁土層断面 (南東から) A 区北壁土層断面 (南から) B 区南壁土層断面 (北西から) B 区中世遺構検出状況 (西から) B 区中世遺構完掘状況 (北から)
図版 3	別宮北遺跡 3 B 区中世遺構検出状況 (南から) B 区中世遺構完掘状況 (北から) B 区 S.D. 18 断面 (東から) A 区 S.D. 20 全景 (南から) A 区 S.D. 20 断面 (南から) B 区中世土器出土状況 (西から) B 区中世土器出土状況 (南から) B 区中世土器出土状況 (東から)
図版 4	別宮北遺跡 4 C 区全景 (北東から) C 区全景 (北東から) C 区南壁土層断面 (北西から) C 区 S.R. 01 検出状況 (北西から) C 区 S.R. 01 完掘状況 (北西から)
図版 5	別宮北古墳群 1 B 区 1 · 2 号墳完掘全景 (西から) B 区 1 · 2 号墳完掘全景 (東から)
図版 6	別宮北古墳群 2 A 区 3 ~ 5 号墳完掘全景 (東から) A 区 3 ~ 5 号墳完掘全景 (西から)
図版 7	別宮北古墳群 3 1 号墳検出状況 (南西から) 1 号墳埴輪出土状況 (南西から) 1 号墳埴輪出土状況 (南東から) 1 号墳完掘状況 (北西から) 1 号墳完掘状況 (西から)
図版 8	別宮北古墳群 4 1 号墳埴輪出土状況 (北から) 1 号墳埴輪出土状況 (東から) 1 号墳埴輪出土状況 (東から)
図版 9	別宮北古墳群 5 2 号墳完掘全景 (北東から) 2 号墳周溝土層断面 (南から) 2 号墳周溝土層断面 (北東から) 2 号墳造山検出状況 (南東から)
図版 10	別宮北古墳群 6 2 号墳造山埴輪出土状況 (南東から) 2 号墳造山埴輪出土状況 (南西から) 2 号墳造山埴輪出土状況 (南東から) 2 号墳埴輪出土状況 (北西から) 2 号墳埴輪出土状況 (南西から) 2 号墳人物埴輪出土状況 (北西から) 2 号墳埴輪出土状況 (南から) 2 号埴輪出土状況 (北から)
図版 11	別宮北古墳群 7 2 号墳馬形埴輪出土状況 (北から) 2 号墳馬形埴輪出土状況 (北から)
図版 12	別宮北古墳群 8 2 号墳馬形埴輪出土状況 (北西から) 3 号墳完掘状況 (西から)
図版 13	別宮北古墳群 9 3 号墳検出状況 (東から) 3 号墳周溝土層断面 (南から) 3 号墳須恵器出土状況 (北から) 3 号墳土器出土状況 (南西から) 4 号墳完掘状況 (北西から)
図版 14	別宮北古墳群 10 4 号墳検出状況 (北東から)

4号墳周溝土層断面（西から）	図版 21	遺物写真 6 (136.138.151)
4号墳陸橋部完掘状況（東から）	図版 22	遺物写真 7 (162.163.173.188)
4号墳周溝土層断面（北西から）	図版 23	遺物写真 8 (189.193.197)
5号墳完掘状況（南西から）	図版 24	遺物写真 9 (199.200.201.209.212.214)
図版 15 別宮北古墳群 11	図版 25	遺物写真 10 (220.221)
5号墳周溝土層断面（南東から）	図版 26	遺物写真 11 (223.227)
5号墳土師器出土状況（北から）	図版 27	遺物写真 12 (232.245.246)
3～6号墳検出状況（南西から）	図版 28	遺物写真 13 (260.267.268)
6号墳完掘状況（南西から）	図版 29	遺物写真 14 (277.278)
6号墳周溝土層断面（南西から）	図版 30	遺物写真 15 (278.279)
図版 16 遺物写真 1 (10.12.47.51.77.79.81.88)	図版 31	遺物写真 16 (280.281.282.283)
図版 17 遺物写真 2 (98.99.103.106.107.108.109.110.113.119.120)	図版 32	遺物写真 17 (284.285)
図版 18 遺物写真 3 (132)	図版 33	遺物写真 18 (285.286)
図版 19 遺物写真 4 (133.134.135)	図版 34	遺物写真 19 (286.288)
図版 20 遺物写真 5 (135.136)	図版 35	遺物写真 20 (289.295.301.305)

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

一般国道11号は徳島市を起点に、高松市を経由しながら香川県を横断して終点の松山市に至る236.0kmの幹線道路であり、3つの県都を結ぶ重要な路線である。県内においては東讃地方や西讃地方と高松市とを結ぶ大動脈となっているため交通量は多く、朝晩の通勤ラッシュ時には各所で慢性的な交通渋滞を招いている。坂出市西庄町内では綾川・JR予讃線・県道33号高松普通寺線の上を高架にして金山・城山山麓につなぎ立体交差として跨ぐことで渋滞の緩和を図っているが、東に向いて山を下ってきた車が坂出市街方面へ直接下りる道路（支線）がなく、かなりの迂回を強いられるばかりか狭い市道を抜け道とするため、かねてから安全性に対する不安の声が地元から挙がっていた。これらの状況を解消すべく、坂出市西庄町にJR予讃線の上を高架橋で立体交差させて国道11号から県道33号高松普通寺線に下りるための道路（支線）、すなわち西庄高架橋オフランプの建設が国土交通省によって計画された。

この事業計画を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（当時、現・香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課）は、平成17年7月6・7日に用地買収の終了した路線内に9箇所のトレンチを設定して試掘調査（約112m<sup>2</sup>）を実施した。その結果、JR予讃線北側において埴輪片を含む溝状遺構を複数のトレンチで確認し、古墳が埋没していることが判明した。また、中世土器を含んだ柱穴跡も確認しており、同時期の集落遺跡が存在していることも判明した。さらにJR予讃線南側においても多数のサスカイト小塊を含む溝状遺構等をトレンチの1つで確認した。これら遺構・遺物の検出によって事前の保護措置が必要と判断した範囲について、古墳以外の遺跡を「別宮北遺跡」、複数の古墳を「別宮北古墳群」と命名して遺跡台帳に登録を行った。その後、国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所との間でこれらの遺跡の保護措置について協議を行い、工事予定地内の2,255m<sup>2</sup>について発掘調査を実



第1図 遺跡位置図

施することで合意した。発掘調査は香川県教育委員会を調査主体、香川県埋蔵文化財センターを調査担当者として平成 18 年 11 月～平成 19 年 3 月の予定で実施する運びとなった。

なお、調査の結果、古墳群は調査対象地西側にもさらに展開する可能性が出てきたため、香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課が平成 19 年 3 月 15 日に再度試掘調査を行った。その結果、地下げによつて地形が大きく改変されており、古墳群の続きはすでに消失しており、西側には広がらないことを確認している。

## 第 2 節 調査・整理の経過

発掘調査は、調査対象地のうち JR 予讃線以北の調査区を東西に二分し、西側を A 区、東側を B 区、JR 予讃線以南の調査区を C 区と呼称し、平成 18 年 11 月 1 日に B 区から調査に着手した。調査方法は、香川県埋蔵文化財センターが現場作業員を雇用する直営方式を採用した。対象地は JR 予讃線と交通量の多い県道 33 号高松善通寺線に挟まれた荒蕪地（旧水田）で線路・道路が嵩上げを行っているため見かけの上では一段低い土地となっている。作業の有無にかかわらず、養生用のブルーシートが冬の季節風等で飛散し、列車や架線、通行車両や人等に直接的・間接的に被害をもたらす危険性を回避するため、シートを用いた遺構面全体の養生は行えなかったが、出土遺物等部分的にコンクリートパネルと土嚢を用いて養生する等の工夫を凝らした。また、風による掘削土等の砂塵の飛散に備えて、排土は重機によつて四角く整形し表面に「ニガリ」を撒いて固める等の配慮をした。このように、周辺への安全と迷惑防止に細心の注意を払いながら調査を進め、当初の計画通り平成 19 年 3 月 31 日に調査区の埋め戻し・事務所の撤去等を含めた発掘調査は終了した。

また、調査時の成果については、平成 18 年 12 月 23 日（土）に 1・2 号墳を主体とする B 地区について周辺地域の方を対象とした地元説明会を、平成 19 年 3 月 3 日（土）には 3～6 号墳を主体とする A 地区を中心に他地区的調査成果と合わせて現地説明会を開催して広く一般に公開した。説明会では配布資料と写真パネルを併用して遺構と遺物の解説を行い、それぞれ 160 名、170 名の県民の参加を得た。

整理作業は、平成 19 年 12 月 1 日に開始し、平成 20 年 3 月 31 日に終了した。出土品の洗浄は現地で終了していたため、遺物復元、実測遺物抽出、遺物実測、遺構・遺物図面トレース、レイアウト、遺物写真撮影、遺物観察表作成、原稿執筆、編集、台帳整備、収納等の作業を行つた。また、報告書刊行業務については平成 22 年度に実施した。

### 第3節 調査・整理の体制

平成18年度の発掘調査及び平成19年度の整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが以下の体制で実施した。

#### 発掘調査（平成18年度）

香川県教育委員会事務局文化行政課（当時）

総括 課長 三谷雄治

総務・振興グループ

副主幹 河内一裕

主任 林 照代

文化財グループ

課長補佐 藤好史郎

主任 山下平重

文化財専門員 信里芳紀

香川県埋蔵文化財センター

総括 所長 渡部明夫

次長 柿原正人

総務課 課長 野口孝一

主任 嶋田和司

主任 田中千晶

調査課 課長 廣瀬常雄(資料普及課長兼務)

文化財専門員 宮崎哲治

文化財専門員 佐々木和裕

嘱託 高嶋勝英

嘱託 藤井菜穂子

嘱託 中村大地

#### 整理（平成19年度）

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課

総括・生涯学習推進グループ

課長 鈴木健司

課長補佐 武井壽紀

副主幹 古田 泉

主任 林 照代

香川県埋蔵文化財センター

総括 所長 渡部明夫

次長 廣瀬常雄

総務課 課長 野口孝一

主任 宮田久美子

主任 嶋田和司

主任 古市和子

文化財グループ

課長補佐 藤好史郎

文化財専門員 森 格也

文化財専門員 信里芳紀

資料普及課

課長 廣瀬常雄(次長兼務)

文化財専門員 宮崎哲治

嘱託 整理作業員 6名

## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

坂出市は、香川県中部（中讃地方）の北東部にあって瀬戸内海の海岸線に接したところに位置し、東は高松市、西は丸亀市・綾歌郡宇多津町、南は綾歌郡綾川町に接している。北は風光明媚な多島美を誇る瀬戸内海を隔てて岡山県に対している。市内の中央部南半に存在する城山・金山山系を境として東には綾川が、西には大東川がもたらした肥沃な沖積平野が展開している。瀬戸内海に面した沿岸部では江戸時代の大開拓事業に始まる塩田が広がり、全国でも有数の塩作りの町として栄えてきたが、現在では埋め立てられ、重工業を中心とした臨海工業地帯に変化している。昭和63年に開通した瀬戸大橋によって本州と陸続きとなり、四国側の玄関口となっている。

別宮北遺跡・別宮北古墳群は坂出市西庄町に所在しており、坂出市域の東半に広がる綾北平野と城山の北麓が接する付近の標高5～10m前後の地点に立地している。調査前の状態は、調査区北半のA・B地区がかかつて水田であった荒蕪地、南半のC地区がかかつて果樹園（ミカン畑）であった荒蕪地となっていた。

### 第2節 歴史的環境

別宮北遺跡・別宮北古墳群の周辺において、人々の活動の痕跡がうかがえるのは旧石器時代からである。五色台山系の鞍谷池東遺跡や、その西麓に位置する牛子山遺跡で石器が採集されている。また雄山東麓遺跡ではサヌカイト製の石器と共にハリ質安山岩を使用したものも採集されている。これら周知の遺跡はいずれも五色台西麓に所在している。

続く縄文時代の遺跡は、ほとんど知られていない。高屋遺跡周辺では縄文時代後期の土器片の出土が伝えられていたり、府中ポンプ場遺跡から縄文晩期の土器片が見つかっている程度に過ぎず、構造は確認されていない。両遺跡とも、城山と五色台の間に広がる綾北平野の山裾に位置していることから、当該期の遺跡は山麓付近で見つかる可能性が高いと思われる。

弥生時代の遺跡も數多くはない。内湾の最奥部に当たる本鶴遺跡では弥生時代前期末の袋状土坑が検出されている。城山・金山山麓では当遺跡の西方に弥生時代の石器散布地や、弥生時代中期の高地性集落である長者原遺跡、分銅型土製品の出土が伝わる西福寺遺跡等数遺跡が知られているに過ぎない。金山に产出するサヌカイトは弥生時代の石器素材として畿内等にまで運ばれており、それを扱った集団の集落が今後周辺で見つかる可能性はある。五色台西麓では烏帽子山遺跡、烏帽子山南遺跡等の弥生時代中期の高地性集落があり、弥生時代後期には烏帽子山遺跡と谷を隔てて対峙する明神原遺跡で外縁式の銅鐸が出土している。また、先述した本鶴遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡も見つかっており、陸地化した内湾奥部が集落が営まれるほど安定したことがうかがえる。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落遺跡である高屋遺跡では、鹹水を溜めたと思われる土坑や溝状遺構、焼土を伴った土器ブロック等の遺構と共に製塙土器が多数見つかっており、土器製塙を行っていたことがわかる。内湾部の陸地化が進みつつあるとはいえ、農地として使用できる土地は狭かったことが予想され、漁業・製塙業に基盤をおいた集団が多かったと思われる。



(1/30,000)

- |                |             |                |             |             |
|----------------|-------------|----------------|-------------|-------------|
| 1. 飯塙東古墳・別名古墳群 | 14. 木村2号古墳  | 27. 梶原寺        | 40. 須崎古墳群   | 53. 神山神明跡   |
| 2. 道臣城跡        | 15. 兼賀古墳    | 28. 保木本遺跡      | 41. 保木古墳群   | 54. 佐木古墳    |
| 3. 天白城跡        | 16. 木村1号古墳  | 29. 銀杏原(大曾根)古墳 | 42. 錦織寺跡    | 55. 鎌守治良古墳  |
| 4. マイタ石        | 17. 諏訪御跡    | 30. 高子山古墳群     | 43. 長井城跡    | 56. 松木古墳    |
| 5. 留名堀         | 18. 目開寺社古墳  | 31. 高子山古墳      | 44. 木村古墳    | 57. 中村城跡    |
| 6. 伊吹山古墳       | 19. 開田寺跡    | 32. 芝ノ口古墳      | 45. 井手東古墳   | 58. 志波城跡    |
| 7. ハカリゴロ古墳     | 20. 白中寺ノ山古墳 | 33. ライハイ山古墳    | 46. 鳴谷古墳群   | 59. 上足敷西古墳  |
| 8. 井ノ口古墳       | 21. 新宮寺跡    | 34. 佐野寺1号古墳    | 47. 北山古墳群   | 60. 久慈城跡    |
| 9. 伏木古墳        | 22. 伏木古墳    | 35. 弘法寺2号古墳    | 48. 須崎西古墳   | 61. 鎌田御殿山古墳 |
| 10. 游佐御跡       | 23. 道光山古墳   | 36. 高柳寺古墳山古墳   | 49. 千手山古墳   | 62. 鎌山古墳    |
| 11. 鶴山御跡       | 24. マギノ古古墳群 | 37. 王家古墳       | 50. 神代城跡    | 63. 鎌山東古墳   |
| 12. 明神御殿山古墳    | 25. 沼ノ古吉古墳  | 38. 善導寺古墳      | 51. 神代古墳    | 64. 鎌山東古墳群  |
| 13. 向日御殿山古墳    | 26. 山ノ古吉古墳  | 39. 高柳寺古墳群     | 52. 神谷春吉山古墳 | 65. 鎌山古墳    |

第2図 遺跡位置及び周辺の遺跡 (1/30,000)

古墳時代の集落は前代から継続する高屋遺跡が知られているに過ぎないが、山頂から山麓にかけて多くの古墳が築かれている。古墳時代前期では城山・金山山麓にハカリゴーロ古墳（積石塚）、爺ヶ松古墳（後円部のみ積石塚）、白砂古墳（盛土墳）、タイバイ山古墳（盛土墳）等の前方後円墳が、五色台西麓では雌山山頂に前方後円墳・円墳・方墳の3基からなる雌山古墳群（いずれも積石塚）が築かれており、弥生時代から継続してきた海浜部を拠点とした漁業・製塩業集団の首長を葬った古墳と思われる。バチ形に広がる前方部を有する爺ヶ松古墳（全長約50m）、ハカリゴーロ古墳（同45m）が古く、それ以外の前方後円墳（いずれも30m級）が続くとみられている。これら以外としては、画文帶神獸鏡・変形神獸鏡の出土が伝えられる弘法寺山1号墳（円墳）があげられる。古墳時代中期の古墳には、城山山麓の王塚古墳、五色台西麓の遍照院裏山古墳、雄山南石棺墓、飛石追石棺墓等があげられるが内容の判明しないものが多い。遍照院裏山古墳は退化した小さな堅穴系石槨から人骨・鉄劍・擬銘帶乳文鏡が出土したと伝わる。古墳時代後期に入ると横穴式石室を主体とする古墳が数多く知られている。五色台西麓の雄山古墳群（6世紀前半～中頃）の4・5号墳の石室は羨道を持たず玄室に直接墓道が付いた構造で、小振りの塊石を小口積みして石室を構築している等、初期の横穴式石室の特徴を良く留めている。ここから南に下がった山麓には幾つかの群集墳が展開している。これらのうちサギノクチ古墳群と山ノ神古墳群中には石室壁面に木の葉や家屋のような線刻をもつものも見られる。また、古墳群中に存在する巨石墳（石室全長約13m）の綾織塚古墳の羨道側壁にも木の葉の線刻が認められる。同様の6世紀末～7世紀頃の巨石墳としては平野最奥部の新宮古墳（石室全長約10m）、城山北麓の醍醐古墳群（石室全長4～10m）等があげられる。これらの大型横穴式石室は前方後円墳という墳形に代わって身分・勢力を示す象徴であり、有力な首長を擁する集団が古墳時代中期や後期前半の古墳を持たなかつた平野の南部の地域を勢力基盤としたことを示している。遺跡近辺では城山北麓に横穴式石室を主体部とした真伏古墳がある。外護列石を持つ円墳で、石室内から馬具・鉄劍・銀環・棗玉・須恵器等が出土した6世紀後半のものである。

古代に入ると、この地域は阿野（あや）郡とよばれた地域の北半部に当り、文献にもその名をうかがうことができる「綾氏」の勢力基盤であった地域とされている。前代に見られた巨石墳の近辺には寺院が造られ、綾織塚古墳には鶴廢寺、新宮古墳には開法寺遺跡、醍醐古墳群には醍醐寺跡というような終末期古墳と古代寺院のセット関係を見ることができる。これらの古墳・寺院を建築した集団は、文献に「綾氏」と記された氏族に当る集団と考えられ、小さな地域内に相互に接するように存在していることから地縁的・血縁的な同族関係のようにそれぞれが何らかのつながりがあったことも推測される。標高462mの城山の山頂から中腹付近にかけて、土壘や石壘、城門や水門、建物の礎石等が分布しており、7世紀後半に建築された古代山城・城山城跡とみなされている。また、城山南東麓で綾川がコの字形に流路を変える付近は讃岐国府跡の存在が推定されている。国府関連の地名調査や発掘調査による倉庫跡、築地基壇状遺構、井戸跡といった遺構の検出等、国府の存在を裏付ける成果があがってきてている。城山東北麓の斜面では皇朝十二銭の和同開珎・万年通宝・神功開宝の入った須恵器壺が出土した西福寺古錢出土地がある。銅銭とともに木炭や火葬骨が入っていたとされることから、火葬骨を納めた奈良時代後半頃の墳墓である可能性が高い。平安時代後期には保元の乱に敗れて都を追われ、讃岐へ配流された崇徳上皇に関する伝承地がいくつか残されている。中世・南北朝の頃には、南朝方に属した細川清氏が白峰合戦の折に陣を構えたとされる高屋城跡が五色台西麓の雄山南東麓に、戦国時代の香西氏や香川民部少輔の居城であった西庄城跡が綾北平野中央に見られる等、中世城館の分布が知られている。

別宮北遺跡・別宮北古墳群の調査は、周知の遺跡の空白地帯における調査で小規模ではあったが、從来考えられていたよりも低い平地での古墳の発見等、地域の歴史を復元する上で貴重な資料を提供する調査となった。

<参考文献>

- ・「香川県史 第1巻 原始・古代」香川県 1988
- ・「香川県中世城跡詳細分布調査報告」香川県教育委員会 2003
- ・「新編 香川叢書 考古編」香川県教育委員会 1983
- ・「県道高松干越坂出線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 雄山古墳群」香川県教育委員会他 2000
- ・「前方後円墳集成 中国・四国編」近藤義郎他 1991
- ・「坂出市史」坂出市史編さん委員会 1988
- ・「香川県埋蔵文化財調査年報 昭和54年度」香川県教育委員会 1980
- ・「香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59～62年度」香川県教育委員会 1988
- ・「瀬戸内号墳発掘調査報告」香川県教育委員会 1986
- ・「坂出市内遺跡発掘調査報告書 平成10年度国庫補助事業報告書」坂出市教育委員会 1999
- ・「香川県出土の皇朝十二銭」大山真充  
『財团法人香川県埋蔵文化財調査センター 研究紀要』財團法人香川県埋蔵文化財調査センター 1999



## 第3章 調査の成果

### 第1節 地形と土層序

調査は、国道11号と旧国道11号（県道33号高松普通寺線）とJR予讃線が立体交差する地点付近で実施した。調査地は城山北麓に当り、巨視的に眺めれば、城山とその北東側に広がる綾川のもたらした氾濫原が接する傾斜変換点付近に存在すると見える。微視的に見れば、JR予讃線より北側のA・B区は氾濫原に当り、線路より南側のC区は城山山裾と小規模な扇状地に当っている。調査前の状況については、氾濫原は条里制に由来する方格地割を残した水田や畠として、山裾は果樹園や畠等として階段状に開墾されて土地利用されていた。

調査区の土層序は先述した地質の違いを反映してA・B区とC区では異なっている。A・B区は現代の耕作土である灰色粘質土と床土である褐灰色混細砂粘質土（合わせて厚さ約20cm）の直下に鉄分沈着の度合い等で色調が橙色～褐灰色を呈する混細砂粘質土が北壁側で約50cm、南壁側で約20cmの厚さで堆積している。色調や粒子の粗細さで複数の土層に分けることができるが、いずれも水平の堆積を繰り返しており、当該地が長期間にわたって水田として土地利用されてきたことがうかがえる。その下位にはA区では灰黄色シルト層、B区では灰黃褐色混細砂粘質土層が暫移的に変化しながら存在しており、別宮北古墳群のベース層（基盤層）となっている。このベース層は南北方向では北へ、東西方向では西へ向かって傾斜しており、香川県教育委員会文化行政課（現、生涯学習・文化財課）の試掘により推定されているA区西方の旧河道（埋没河川）に続くものと推定される。このベース層は城山や金山から流出した土砂や海岸線の進退の作用によって形成された沖積地の堆積土層で、少量の弥生土器片やサスカイト片が含まれていたことから、古墳以下の下層確認調査を行ったが、遺構は認められなかった。これに対し、C区では現代の耕作土と床土（にぶい黄橙色混中砂粘質土）や腐葉土（厚さ約40～50cm）の直下に明黄褐色～明オリーブ灰色を呈しクサレ疊を多量に含んだ山土が認められる。開墾による地形の改変はこの山土層にまで及んでおり、C区の中央に存在する段差は現地表で約1m、山土層でも約60cmを測るほどである。階段状に削平される以前はかなり傾斜のきつい斜面であったことが推定される。

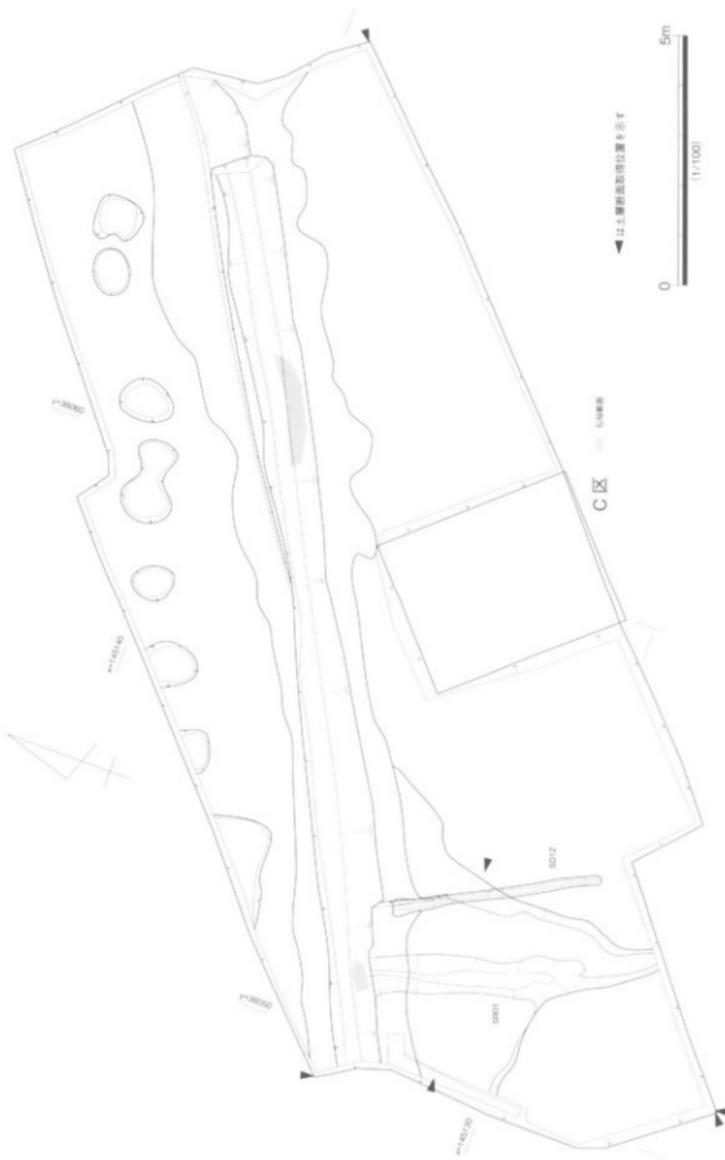
### 第2節 別宮北遺跡

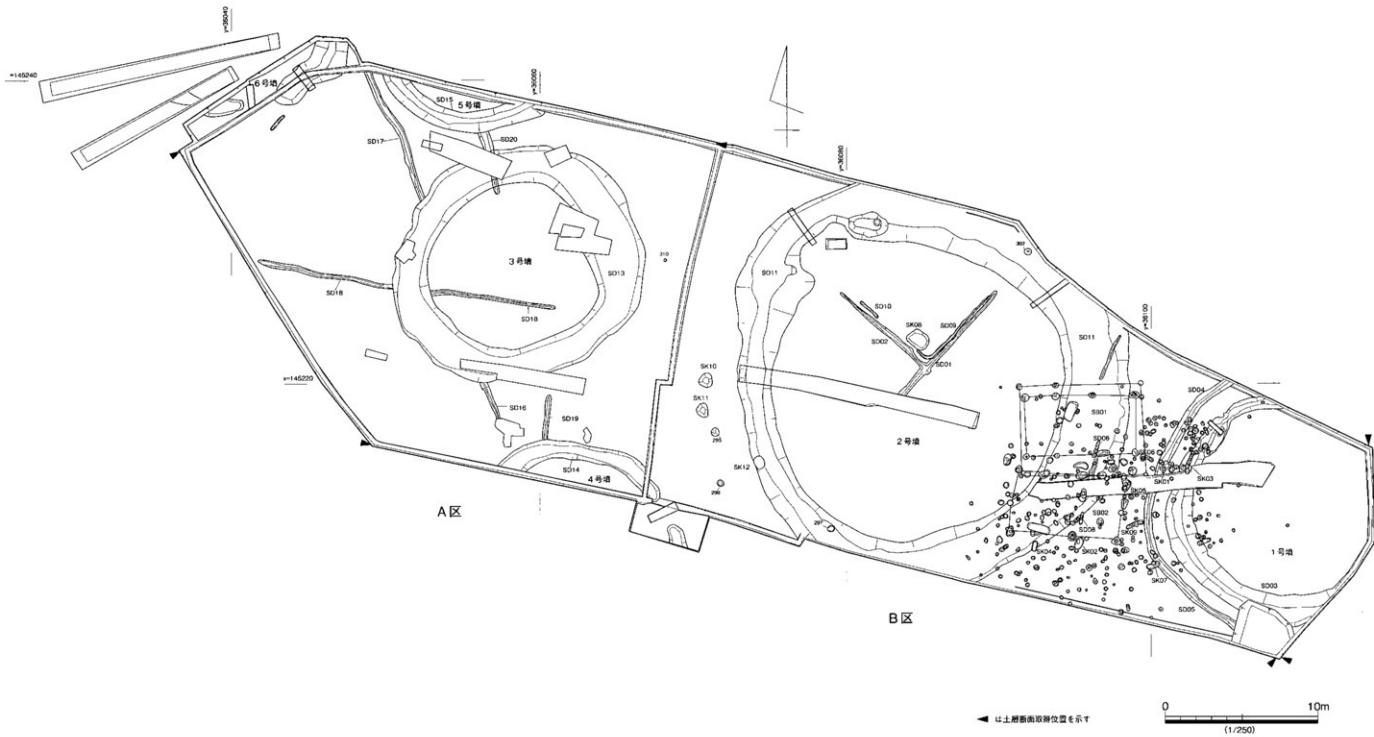
別宮北遺跡の調査では、弥生時代後期・古墳時代中期・鎌倉時代・江戸時代等の遺構・遺物を検出した。弥生時代後期と古墳時代中期に関しては遺物のみの出土であり、古墳時代中期のものは別宮北古墳群からの混入品と判断できる。弥生時代後期の遺物は古墳のベース層中や包含層からの出土であるが、磨滅の度合いが小さく、周辺に同時期の遺跡が存在する可能性を示すものである。中心となるのは鎌倉時代の遺構・遺物で、掘立柱建物跡、柱穴跡、土坑、溝状遺構等があり、そのほとんどはA・B区で検出している。



第3図 調査区位置図 (1/2,500)

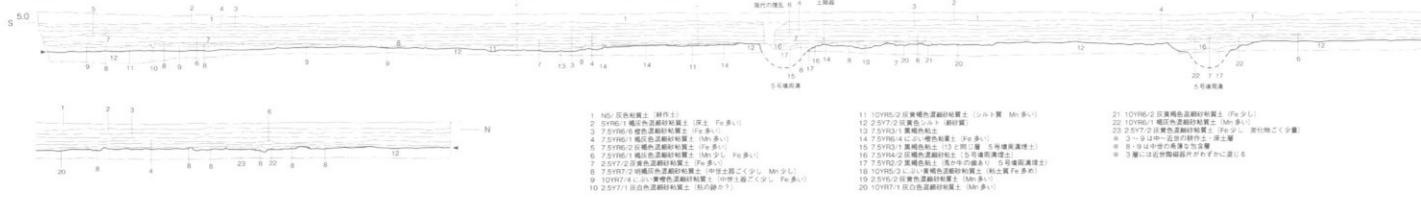
第4図 C区遺構配置図 (1/100)



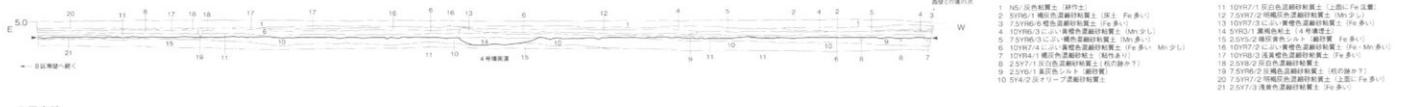


第5図 A・B区造構配置図 (1/250)

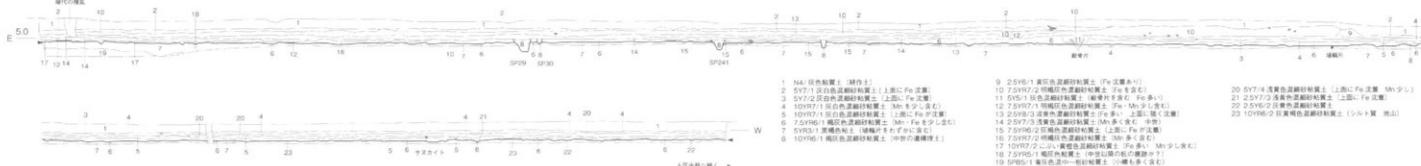
## A区北壁



## A区南壁



## B区南壁



## C区西壁



## C区南壁



第6図 調査区土壌断面図 (1/80)

## 1. 挖立柱建物跡・柱穴跡

### SB01（第7図）

B区の中央部付近で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。四方に庇を有している。母屋部分の梁行1間（39m）×桁行3間（7.5m）、柱間は梁行3.9m、桁行2.7mで、床面積は29.2m<sup>2</sup>を測る。庇部分を含めた規模は、梁行6.0m×桁行8.3m、床面積は49.8m<sup>2</sup>を測る。建物の主軸方向はN 89° Eではほぼ正方位に合致しており、正方位を意識した建物と言える。柱穴跡の掘り方は円形を基調としているが、梢円形を呈するものもみられる等一定しておらず、断面形態は深い逆台形を呈しているものが多い。

柱穴跡内からは土師器の小皿や杯を中心とした遺物1～16が出土している。小皿と杯の底部外面には回転ヘラ切りによる痕跡が明瞭に残っており、板状圧痕が付いたものが見受けられる。13は土師器の土釜でほぼ水平に鉗部が付けられている。

SB01は、土器の形態や柱穴の埋土から13世紀中頃から14世紀前半ごろに位置付けられる。

### SB02（第8図）

B区の中央部やや南寄り、SB01の南隣で検出した東西棟の掘立柱建物跡である。梁行2間（4.1m）×桁行3間（7.2m）、柱間は梁行1.8～2.2m、桁行2.1～2.8mで、床面積は29.5m<sup>2</sup>を測る。建物の主軸方向はN 86° Wで概ね正方位をとっており、正方位を意識した建物と思われる。柱穴跡の掘り方は円形を基調としており、断面形態は逆台形を呈しているものが多い。

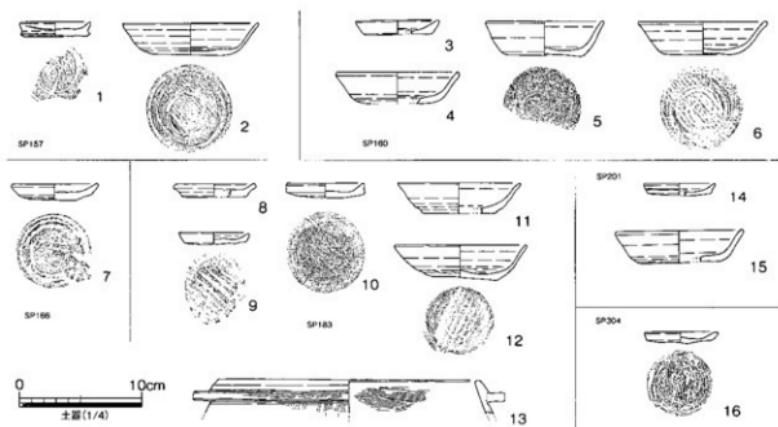
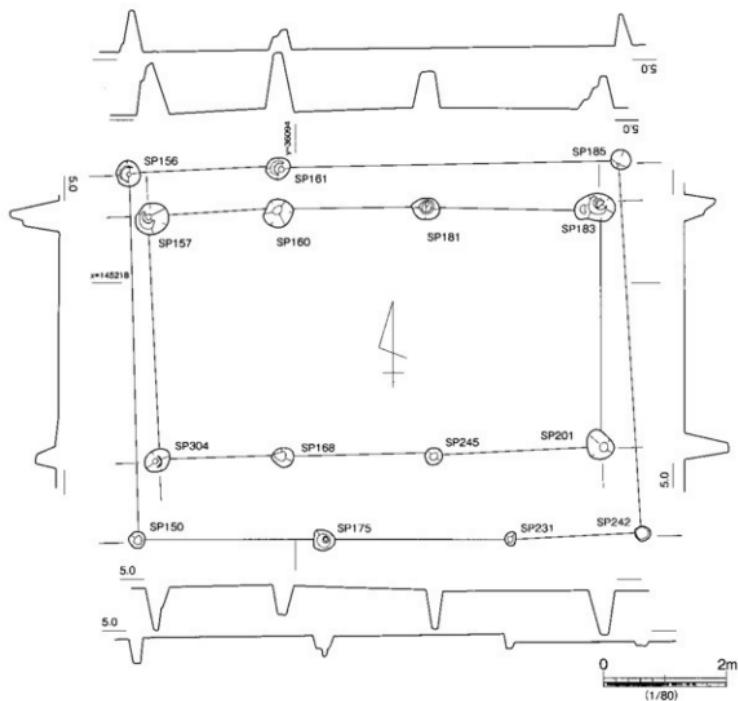
柱穴跡内からは土師器を中心とした遺物17～36が出土している。土師器は小皿と杯が多く、底部外面には回転ヘラ切りの痕跡が明瞭に残っており、中には板状圧痕が付いたものもみられる。22は瓦器碗の底部で、断面三角形の高台が付く。31は土師器の土釜で鉗部は水平に取り付けられている。

SB02は、土器の形態や柱穴の埋土から13世紀中頃から14世紀前半に位置付けられる。

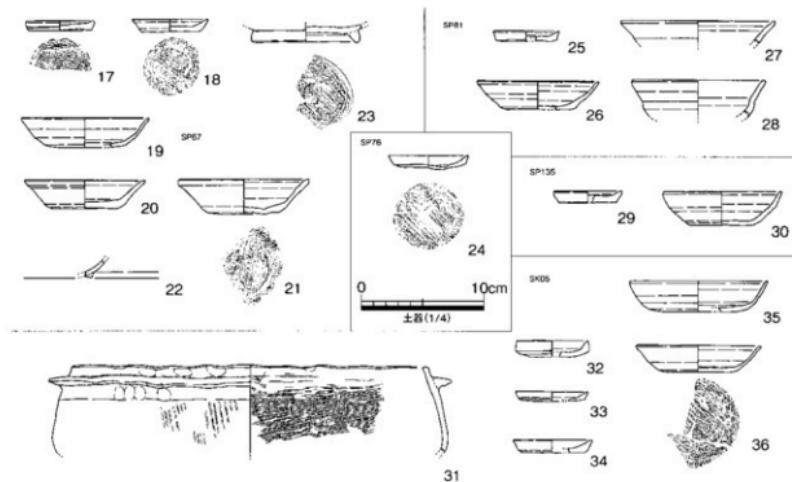
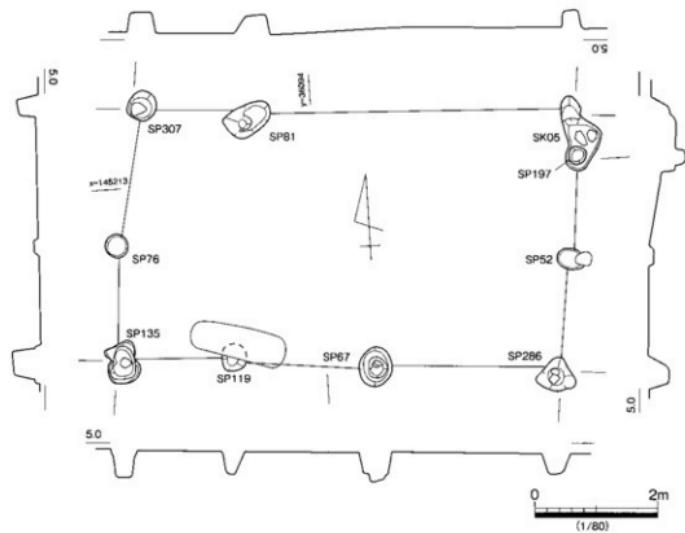
### 柱穴跡群（第9・10図）

B区を中心におよそ300基の柱穴跡が密集して検出された。先述したSB01・02もこれらの柱穴群の中から復元している。柱穴跡は平面形態が円形・梢円形のものがほとんどであるが、大きさや深さは一定しておらずばらつきが認められる。埋土は灰白色系と黄白色系の混細砂粘質土の2つに大別することができるが、出土遺物の年代観からみると埋土の違いが時期差を反映しているわけではないようである。柱穴跡内から出土した遺物は、土師器の小皿・杯が圧倒的多数を占める。これらは完形品も多くみられることから、建物の解体時に柱穴内の柱を抜き取った際に入れられた可能性が高い。建物廃絶に伴う祭祀的・儀礼的な行為をうかがわせる資料と言える。

37～68は完形品ないしはある程度復元が可能な遺物を図化したものである。SB01・02の柱穴跡から出土したものと同様に、土師器の小皿や杯の底部外面には回転ヘラ切りの痕跡が明瞭に残り、板状圧痕を有するものも見受けられる。ともに底部糸切りのものは全く認められなかった。41は須恵器の甕で、口縁端部を外方に摘み出している。46は弥生時代後期の甕である。口縁部を拡張して凹線を巡らせている。49は瓦器碗で、和泉産と思われる。52は須恵器こね鉢で、口縁端部を上下に拡張した東播系のものである。59・60は土師器の三足土釜である。61は土師質の甕の破片である。68は須恵器碗で、直線的な口縁部に、やや外方に踏ん張る高台を有しており、9～10世紀代に位置付けられる。これらの土器のうち、混入品である46の弥生土器甕と68の須恵器碗の2点以外は、その形態から13～14世紀

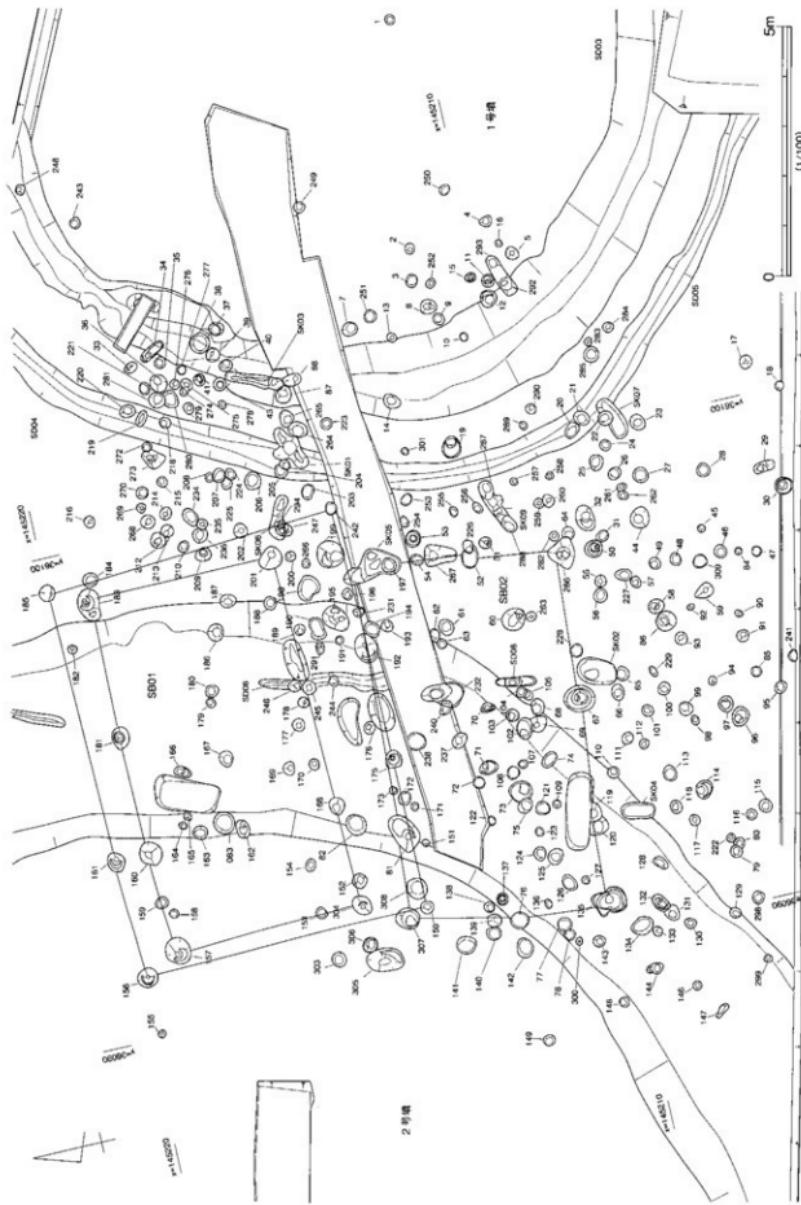


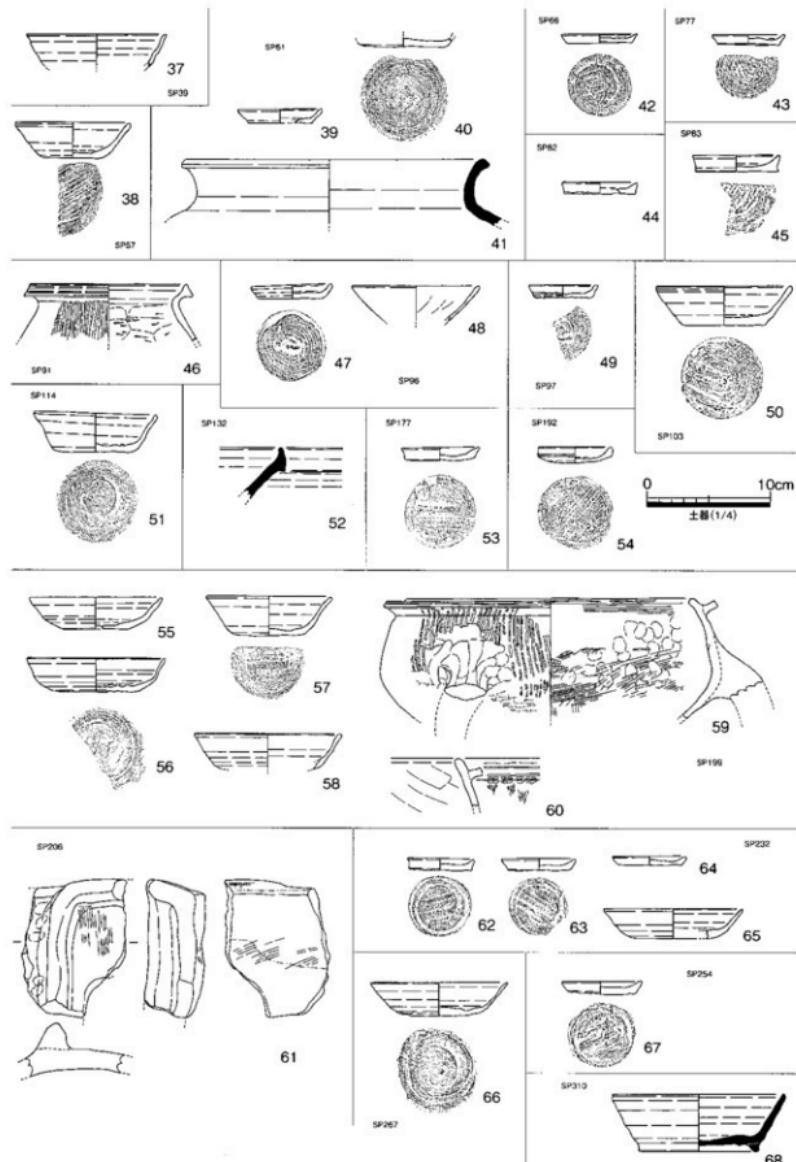
第7図 SB01 平・断面図 (1/80)・出土遺物 (1/4)



第8図 SB02 平・断面図 (1/80)・出土遺物 (1/4)

第9図 日住穴路遺構番号図 (1/100)





第10図 B区柱穴跡出土遺物 (1/4)

に位置付けられる土器である。

土器の年代観から、これらの柱穴跡は13~14世紀にかけてつくられたことが判明した。特筆すべきは、柱穴跡が集中しているのは後述する別宮北古墳群の1号墳と2号墳の間という位置関係である。柱穴跡が古墳周溝の埋土を掘り込んでいることから、すでに古墳の周溝は埋没してしまっていたことがわかるが、柱穴群の広がりは1号墳・2号墳の墳丘部分にはほとんど及んでいない。このことは建物が築かれた13~14世紀の段階では、周囲を若干削られながらもまだ古墳の墳丘が残っていたことを示唆するものと判断できる。その当時に2つの土の高まり（墳丘）が古墳と認識されていたかどうかを示すものはないが、その間という狭い空間に建物を建て替えた結果が多数の柱穴群になったのである。しかも復元された建物は周囲に残る条里地割の方向とは合致せず、正方位を指向しているものと思われ、通常の建物とは異なる性格を有していた可能性がある。柱穴群が南北に広がりを見せるかどうかは、現在のところ判明しない。

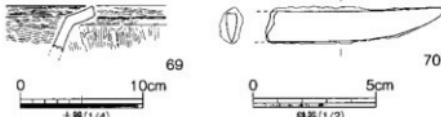
## 2. 溝状遺構

溝状遺構はA・B区では散在する形で、C区では調査区西端で1条を検出しているが、いずれも後世の削平を受けているため狭く浅いものとなっている。出土した遺物も少なく、直接的な時期の比定が困難なものが多いが、A区では別宮北3号墳の周溝に先行するものも見られる。

SD08（第11図）

B区の柱穴群が密集する中で検出した溝状遺構で、検出長0.8m、幅0.2m、深さ0.1mの規模である。溝状遺構の北端から約2m北に同じ方向と埋土を有するSD06が位置しており、本来は1条の連続する溝状遺構であった可能性が高い。

出土遺物は少ない。69は土師器の土鍋である。70は全体を鏽で覆われているが刀子の先端部分と思われる。土器の形態や埋土から柱穴群と同様の時期に比定できる。



第11図 SD08 出土遺物 (1/4・1/2)

## 3. 土坑

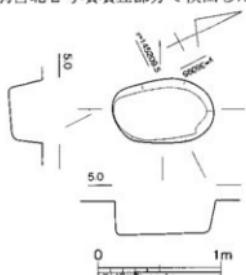
土坑はB区の柱穴群密集部分の中と、別宮北2号墳と3号墳の間、別宮北2号墳墳丘部分で検出した。

SK02（第12・13図）

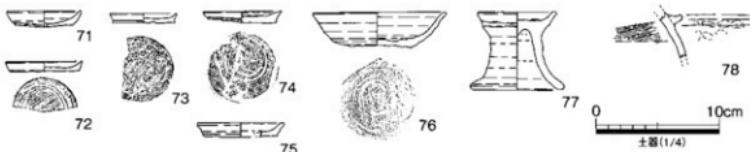
B区の柱穴群密集部分のほぼ中央で検出した土坑で、長径0.8m、短径0.5m、深さ0.3mの長楕円形の平面形態で、断面形状は箱形を呈する。底部付近には小児頭大の扁平な自然石が1石みられた。

土器器が出土しており、71~75は小皿、76は杯である。いずれも底部外面に回転ヘラ切りの痕跡を明瞭に残すもので、板状圧痕が見られるものも多い。77は土師器の脚台付きの杯、78は土師器の土釜である。

土器の形態からSK02は13~14世紀に位置付けることができる。



第12図 SK02 平・断面図 (1/40)

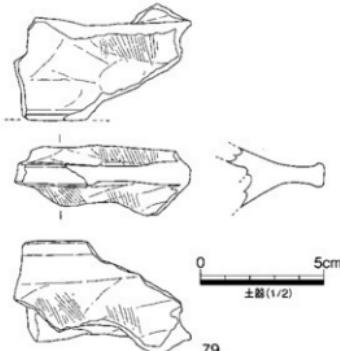


第13図 SK02出土遺物 (1/4)

#### SK03 (第14図)

B区の柱穴群密集部分の北東部付近で検出したもので、短い溝状を呈するが付近に連続する溝状構造がみられないことから土坑と判断している。長径1.3m、短径0.3m、深さ0.1mの長楕円形で、断面形状は浅い皿形を呈する。

固化できなかったが、中世に位置付けることのできる土師器小皿や杯の小破片が出土している。79はそれらとともに出土した形象埴輪片であるが、器種不明のものである。断面形状はY字形を呈しており、端部は面を持ちながら緩く弧を描いている。両面にはハケ調整が見られる。蓋形、人形等の可能性も残るがはつきりしない。SK03は別宮北1号墳の埋没した周溝上に掘られており、79の形象埴輪片は1号墳に属していた可能性が高い。

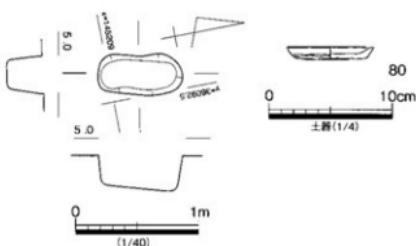


第14図 SK03出土遺物 (1/2)

#### SK04 (第15図)

B区の柱穴群密集部分の南西部付近で検出したもので、長径0.7m、短径0.3m、深さ0.3mの隅丸長方形で、断面形状は箱形を呈する。

80の土師器の小皿が出土しており、土器の形態から13～14世紀に位置付けができる。



第15図 SK04平・断面図 (1/40)・出土遺物 (1/4)

#### SK07 (第16図)

B区の柱穴群密集部分の中央部やや東寄りで検出したもので、短い溝状を呈するが、連続する溝状構造がみられないことから土坑と判断した。長径1.2m、短径0.3m、深さ0.1mの長楕円形で、断面形状は浅い皿形を呈する。

出土遺物は少ないが、81の土師器小皿がある。底部外面には回転ヘラ切りの後に板状圧痕を残す。

土器の形態や埋土等から、SK07は13～14世紀代に位置付けることができる。

#### SK09（第16図）

B区の柱穴群密集部分の中央部付近で検出したもので、長辺0.9m、短辺0.4m、深さ0.2mの長楕円形を呈し、断面形状は浅い箱形を呈する。

82の土師器の小皿が出土している。底部外面は回転ヘラ切りで、板状压痕は認められない。

土器の形態や埋土等から、SK09は13～14世紀代に位置付けることができる。

#### SK08（第17図）

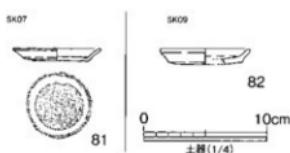
B区の別宮北2号墳の削平を受けた墳丘部分で検出したもので、長辺1.4m、短辺1.1m、深さ0.2mの隅丸長方形で、断面形状は浅い皿形を呈する。土坑の南側と東側には土坑主軸方向（N 50°W）と平行あるいは直交（N 40°E）する溝状遺構SD01・02・09・10が位置しており、それらと同時期に機能した土坑であると思われる。これらの主軸方向は周囲に遺存する条里制の方格地割とともに異なっている点が注目できる。

時期の比定が可能な遺物に恵まれないため特定はできないが、13～14世紀代の遺構の埋土とは異なる埋土（明褐色混細砂粘質土）であることから近世に属する可能性が高いと思われる。

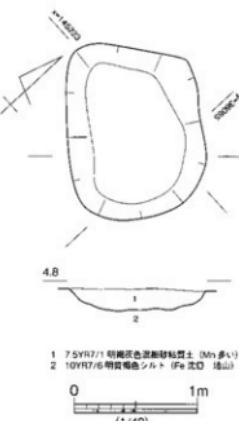
#### SK10（第18図）

B区の西端付近、別宮北2号墳と3号墳の間で検出したもので、一辺1.3m、深さ0.1mの隅丸三角形で、断面形状は2段に掘り込まれたような形状を呈する。埋土は下から灰黄褐色混細砂粘質土・焼土粒を少量含んだ炭化物層・黒褐色粘土の順に堆積しているが、土坑の底面に焼けた痕跡は認められない。

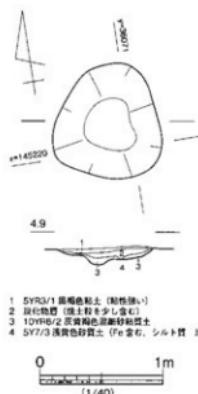
遺物が出土しなかったため、土坑の時期を特定することはできない。



第16図 SK07・09出土遺物（1/40）



第17図 SK08平・断面図（1/40）



第18図 SK10平・断面図（1/40）

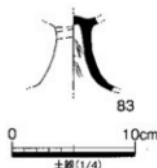
### SK11 (第 19 図)

B 区の西端付近、SK10 の南方約 1.3 m で検出したもので、長径 1.0 m、短径 0.8 m、深さ 0.1 m の長楕円形で、断面形状は皿形を呈する。SK10 と同様に埋土は下からにぶい黄橙色混細砂粘質土・焼土粒を少量含んだ炭化物層・黒褐色粘土の順に堆積しているが、土坑の底面に焼けた痕跡は認められない。

遺物が出土せず、土坑の時期を特定することはできないが、SK10 と近い時期につくられたものと見られる。

### SK12 (第 20 図)

B 区の西端付近で検出したもので、長径 0.7 m、短径 0.5 m、深さ 1.7 m の楕円形で、断面形状は深い逆台形を呈する。埋土は灰白色混細砂粘質土で、中央に直径 13cm の丸太材が遺存していた。丸太材に加工痕は認められず、周囲に柱穴跡も見られないことから建物の柱とは考えられない。



第 20 図 SK12 出土遺物  
(1/4)

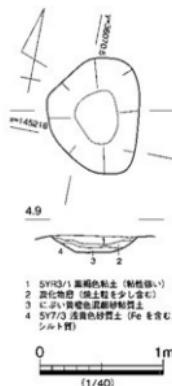
遺物は木材以外に、図化した 83 の須恵器高杯の脚部、円筒埴輪と土師器の小破片が出土したのみである。83 は形態から 9 ~ 10 世紀代に属するものと見られるが、混入した可能性が高く土坑の時期とするのは困難である。

## 4. 自然河川跡

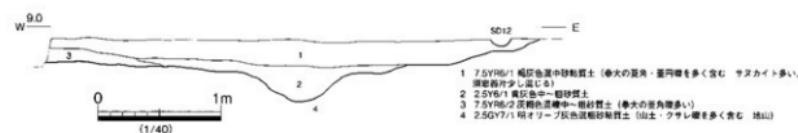
### SR01 (第 21・22 図)

C 区の西端付近で検出したもので、等高線にはほぼ直行するように南東から北東へ向かって流下していく埋没自然河川である。南壁部分では幅 0.7 m と狭く北西へ向かうほど末広がりになった状態であるのは、階段状の削平によって南側（山側）がより深く削り飛ばされたためであろう。中央部が U 字形に一段深くなつた断面形態を呈しており、埋土は亜角礫の混じった砂質土で充填されている。恒常に水が流れる川ではなく、降雨時等に一時的に水が流れるものであったと思われる。

埋土からは大小のサスカイト自然塊石に混じって、土師器片や格子タタキ目をもつ須恵器片が僅かに



第 19 図 SK11 平・断面図  
(1/40)



第 21 図 SR01 断面図 (1/40)

出土している。84はサヌカイトの翼状剥片である。

出土した土器から古代から中世にかけての時期に流下していたことがうかがえる。

### 5. 包含層出土遺物（第23・24図）

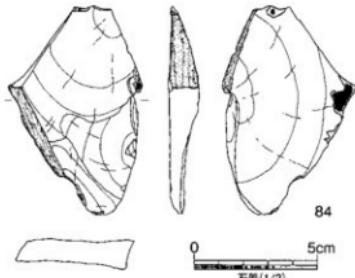
ここではA・B地区の包含層から出土した遺物を紹介する。

85～90は古墳のベース層から出土した弥生土器である。85は口縁端部を拡張して凹線をめぐらせた壺である。86・87は壺で、87は外面のタタキ調整が明晰に残る。88は扁球形の胴部にラッパ状に大きく開く口縁部をもつ壺である。89は拡張

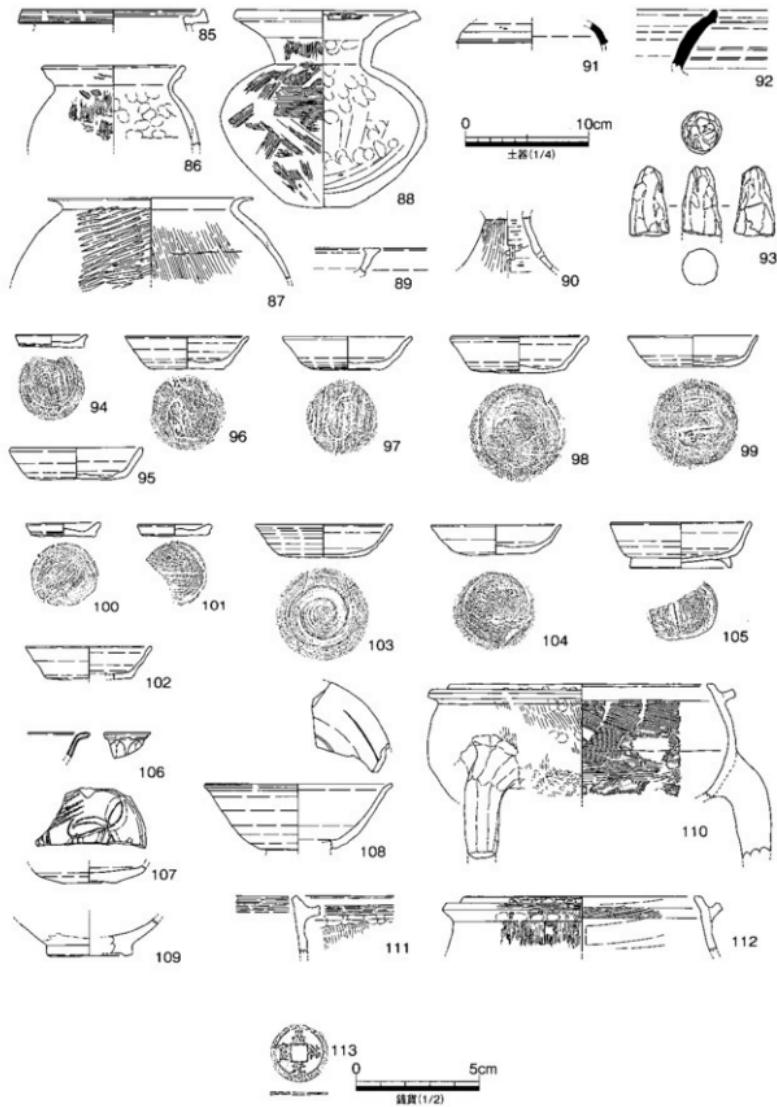
した口縁端部に凹線を施した高杯である。90は高杯の脚部で穿孔が1つ残る。これらの弥生土器はその形態から弥生時代後期に属するものである。91・92は須恵器である。91は杯蓋で口縁部と天井部の境は突出して稜をもつ。時期的にみて古墳に伴っていたものと見られる。92は壺の口縁部である。93は形象埴輪の破片である。形態から人物ないし動物形埴輪の手足の可能性が考えられるが、はっきりしない。94～99はB区の埋没した1号墳周溝上に不定形に広がっていた灰色混細砂粘質土中から出土した土師器である。94は小皿、95～99は杯である。底部外面には回転ヘラ切りの痕跡が明晰に残り、板状圧痕をもつものが多い。100～102はそれ以外の包含層から出土した土師器の小皿・杯である。やはり底部外面上に回転ヘラ切りの痕跡が残り、板状圧痕を有するものが多い。これらの土師器はその形態から13～14世紀代に位置付けられるものである。106・107は青磁碗である。106には鍋菴弁、107には陰刻花文が施されている。108・109は白磁の碗である。109の外面上にはカンナ削りの痕跡が明晰に残る。これらも13～14世紀代に位置付けられる。110～112は土師器の土釜である。113は銅鏡で、1056年に鋳造された北宋銭「嘉祐元寶」である。114～118はサヌカイト製の打製石器である。114・115は有茎式の打製石鎌である。116は打製石槍で下半部を欠損する。117は打製石斧、118は打製スクレイバーと判断したが、石庖丁の可能性も残る。

### 6.まとめ

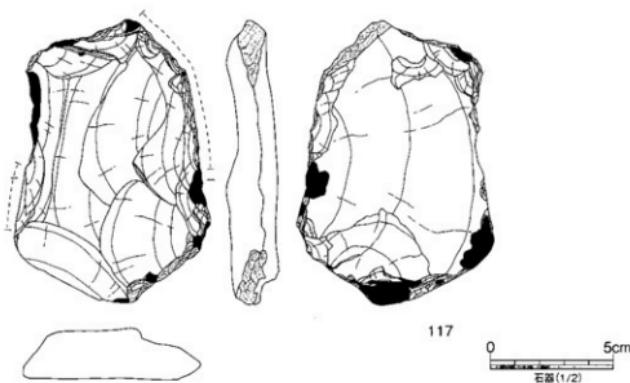
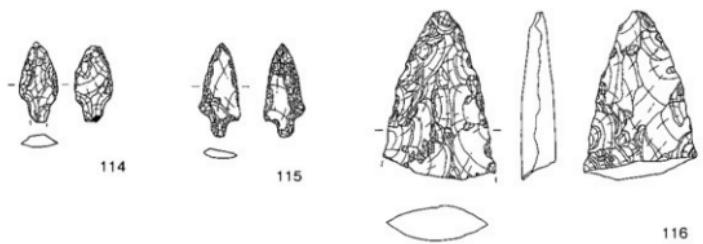
今回の調査によって、別宮北遺跡の中心となるのはA・B区で検出した13～14世紀にかけての集落跡である。多數の柱穴跡から掘立柱建物跡2棟を復元したが、集落の一部を検出したに留まるため、集落の規模や集落を構成する建物の棟数等は判明しない。柱穴跡の広がり等から、別宮北古墳群の1号墳と2号墳の墳丘が削平によって規模が縮小されながらも、遺存している可能性が高いことが判明した。当時にまで古墳（墓）という認識が残っていたのか、あるいはマウンド上に小さな祠等が載せられていたために残ったのか等、その理由については明らかではない。15世紀以降は、調査区壁面に見られる土層の堆積状況や土質等から、水田として土地利用がされたことがうかがえる。そのいずれかの段階で墳丘は削平を受けたものと考えられる。



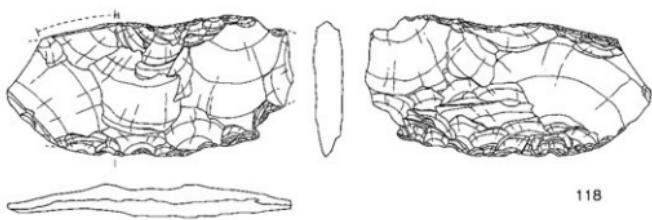
第22図 SR01 出土遺物 (1/2)



第23図 包含層出土遺物① (1/4・1/2)



0 5cm  
石器(1/2)



第24図 包含層出土遺物② (1/2)

### 第3節 別宮北古墳群

#### 1. 1号墳（第25～34図）

B区の東端付近で墳丘部と二重にめぐる周溝を検出した。古墳の一部がB区東側の調査区外へ続いているため全体の形状は判明したわけではないが、円墳の可能性が高いと思われる。墳丘部はベース層まで及ぶ著しい削平を被っており、墳丘の盛土は消失している。古墳は墳丘部の直径が13mで、周囲には溝状遺構2条（SD03と04・05）がめぐっている。内側の周溝（SD03）は南半の幅が広く北西部は狭い。検出幅0.5～2.1m、深さ0.3mを測り、断面形状は浅いU字形を呈している。外側の周溝（SD04・05）は検出幅0.4～0.7m、深さ0.1mを測り、断面形状は浅いU字形を呈している。内外の周溝は0.6～1.2mの間隔で平行している。埋葬施設については消失してしまっているため不明である。周溝内には転落した石材が見られないことから、葺石は施されていなかったと考えられる。

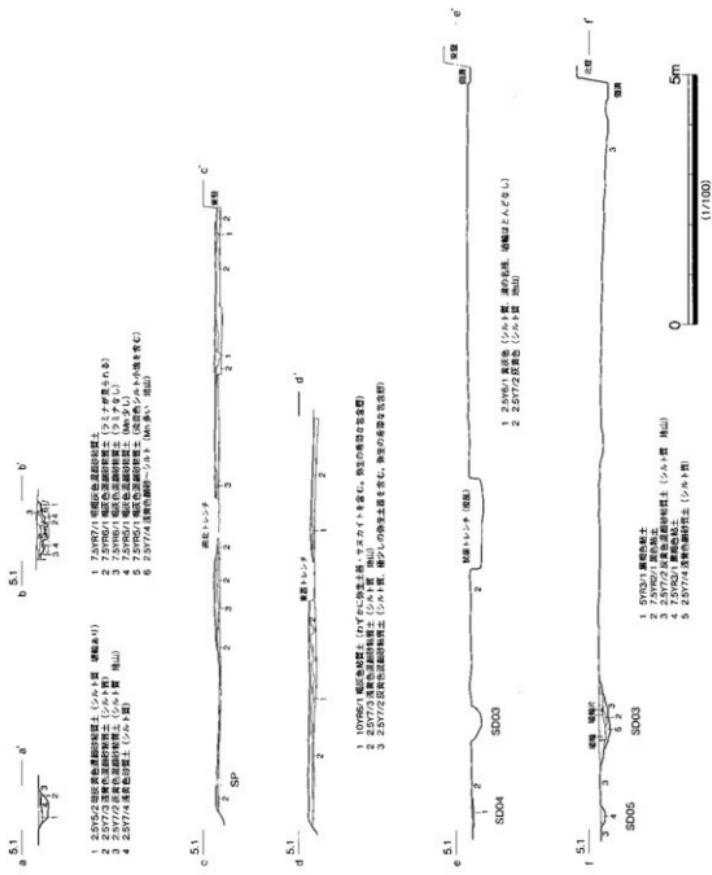
周溝内からは円筒埴輪を中心とした遺物が出土しているが、その大半は内側の周溝からであり、外側の周溝からの出土はごく僅かである。遺物には円筒埴輪以外に、形象埴輪、須恵器、土師器、弥生土器がある。埴輪片は内側の周溝の南東から西側にかけて濃密に分布しており、北西侧は僅かであった。これは周溝の幅から見てもわかるように、北側ほど後世の削平が著しかったことを反映しており、その際に多数の埴輪片が同時に削り取られてしまったことを表していると思われる。全体の形状が復元できた埴輪が僅かしかみられないこともそれを裏付けていると言える。埴輪片は周溝の底面に接するものと、周溝の堆積土中に埋もれているものがみられ、墳丘からの転落の時期に差があったことがうかがえる。形象埴輪は、盾形、人形ないし動物形の手足、器種不明等の破片が僅かに認められるだけであった。円筒埴輪基部の中には形象埴輪の基部が含まれている可能性もあるが、その僅少性は変わらないと考えられる。須恵器、土師器はほとんどが内側の周溝で埴輪片に混在した状態で出土しているが、外側の周溝からも僅かではあるが出土している。また、両周溝内からは弥生時代後期に属する弥生土器片が出土しており、古墳のベース層中に含まれていたものが混入したとみられる。

119～126は内側の周溝から出土した土器である。119は須恵器杯蓋で、やや丸みを帯びた天井部に開き気味の口縁部が付く形態で、口縁部と天井部の境は突出して稜をもつ。口縁端部は内傾する小さな段がみられる。120・121は須恵器甕である。120は大きく外方へ開く口縁部で、外面の口縁端部下に断面三角形をした突帯を1条めぐらす。外面のタタキ調整が顕著である。121は口縁部から体部にかけての破片で、外面にはタタキ調整、内面には當て具痕が明瞭に残る。122～126は土師器である。122は壺、123～126はいずれも口縁部が内湾気味に立ち上がる布留系の甕である。124・125は外側の周溝から出土した土師器である。128～131は弥生土器で壺（128）、甕（129・130）、高杯（131）がある。いずれも弥生時代後期に属するものである。

132～178は円筒埴輪である。1号墳の円筒埴輪の形態は、底部から口縁部に向かって緩やかに聞く筒状を呈するものと、胴部径に余り変化のない直線的な筒状で口縁部が外反するものの2形態がみられる。全体を2条の突帯で3段に区切る（3段2突帯）のものと、3条の突帯で4段に区切る（4段3突帯）のものがあるが、確実に3段2突帯と言えるのは132の1点のみである。3段2突帯のものは1段分に、4段3突帯のものは2段分に直交する方向の透し孔を配することを基本としている。法量は口径が19～26cm、底径が14～16cm、器高は38～42cmの間にあり、復元径の誤差が含まれていることを考えて大概ねまとまっていると言える。成形は幅2～5cm程の粘土帯を基底部に用いており、その接合は1か



第25図 1号墳平面図 (1/100)



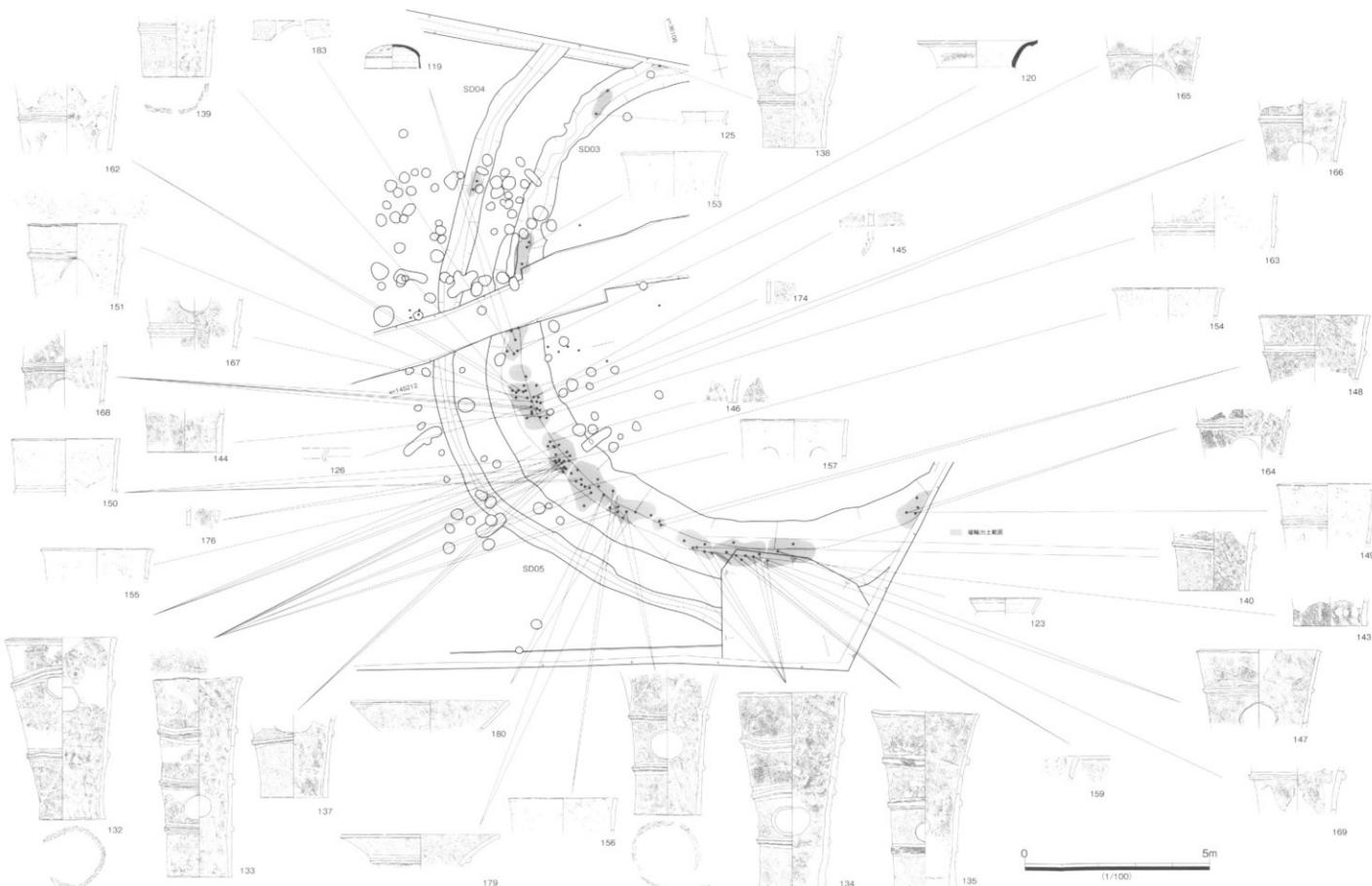
第 26 図 1 号堆断面図 (1/100)

所で、始点と終点が斜めの面で繋がれている。下（底部）から見て時計回りのものと反時計回りのものがみられる。また、底面には部分的に板状や棒状の圧痕を残すものがあり、運搬や乾燥等を容易に行う工夫の跡と思われる。胴部内面に残る接合痕から、基底部の上には幅2～3cm前後の粘土帯が積み上げられていることがわかる。外面調整は第1次調整にタテハケを施しており、一部は第2次調整としてナナメハケを施しているものがみられる。第1次調整に用いられたハケには4条/cmの粗いものと、7～8条/cmの細かいものの2種類があり、第4段部分（口縁部）ではタテハケがややナナメハケ状を呈するものも見受けられる。第2次調整に用いられるナナメハケはそれとは明らかに異なり、意図的に第4段部分に施したもので、第4段部分全体に及ぶものと第4段上半のみに施すものがある。内面調整は指押さえ、指ナデ調整を基本としており、一部にはその後にハケ調整を用いているものがある。135は第2段内面以上にタテハケを施し、第4段内面ではナナメハケに変化している。内外面調整にヨコハケを施した円筒埴輪は認められなかった。また、底部調整は行っていないようである。口縁部の形態は、直線的に聞くもの、緩く外反しながら聞くもの、強めに外反しながら聞くものがある。また、口縁端部の形態には、端部に面をもつがナデによって凹面となるもの、端部外面が外方へ突出気味のものがみられる。突帯は断面の形状からM字形を呈するもの、台形を呈するものがある。また、突帯を貼り付ける箇所の目印や接合を強固にするためのヘラ描きによる直線や刺突等は認められなかった。突帯の貼り付けについては上下に波を打つように歪んだものもみられ、粗雑な感じを受ける。透し孔は全て円形を基本とするが、正円のものは少なく、歪な円形や橢円形のものが多い。形態が3段2突帯のものは第2段に、4段3突帯のものは第2段と第3段に直交するようにそれぞれ2孔一対で穿たれている。穿孔には鉄製工具（刀子）を用いたようで、始点と終点がズレた透し孔もみられる。焼成は全て土師質でやや軟質な感を受けるもので、黒斑をもつものが多い。須賀焼成のものは見受けられない。色調はにぶい橙色系を基本とするが、赤みの強いものや、黄色みを帯びたものもみられる。胎土については、素地となる粘土自体は概ね緻密なものを使用しているが、粗い石英・長石粒や赤色粒等の含有鉱物が多数含まれているものが多い。赤色顔料が塗布されている円筒埴輪は、肉眼観察では確認できなかった。ヘラ記号は簡単な記号的なものが多く、中には複数の円弧を組合わせたもの等もみられる。ヘラ記号が施される場所は第3段・第4段が多いようである。

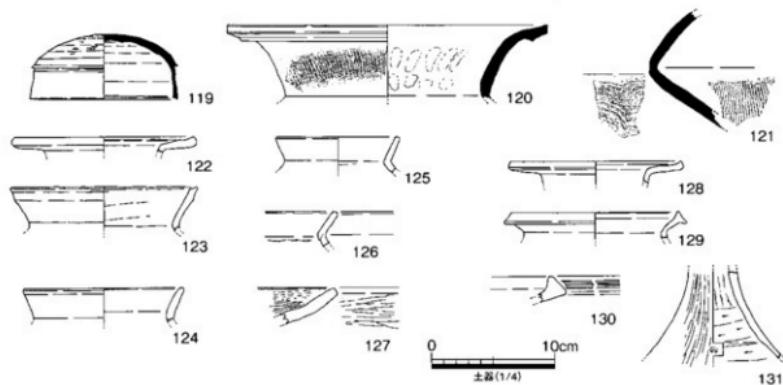
132～135は全体の器形が判明したものである。132の透し孔は上位の突帯に接しており、かなり上方に偏っている。135は粗いタテハケが印象的である。136～146は底部、147～161は口縁部が判明したものである。157は口縁部に透し孔をもつ破片で、唯一の存在である。162～168は胴部である。171～178はヘラ記号の残る破片である。

179～187は朝顔形埴輪である。全体の器形が復元できた資料がないため、段と突帯の数は判明しない。179～184は口縁部である。大きく外方へ聞く形態を呈するが、外反するもの（179・183・184）、直線的なもの（181・182）、やや内湾気味のもの（180）等差異がみられる。171・184は途中に断面台形の突帯をめぐらせている。調整は内外面とも細かなハケ調整で仕上げており、ナナメハケが目立つ。185～187は頸部付近である。頸部には断面三角形の突帯をめぐらせている。187は赤色顔料を塗布した痕跡が残る。

188～192は形象埴輪である。188は盾形埴輪で、ヘラ描き直線の区画文と鋸歯文を施している。189は人形ないし動物形埴輪の手足である可能性が高い。手捻りで片側を平たく潰した中実の円柱を作り、その先端にヘラで刻みを入れて6本の指を表現している。190～193は器種不明の形象埴輪と判断した。



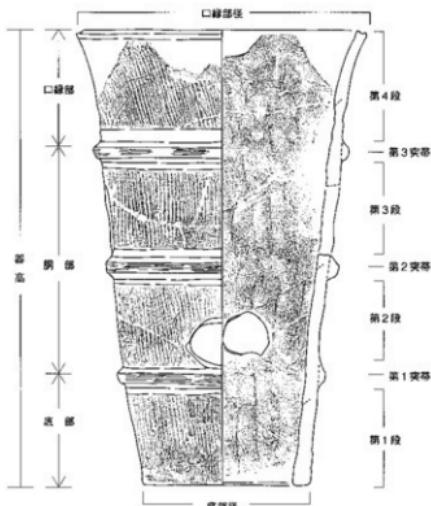
第27図 1号墳内・外周溝出土状況図 (1/100)



第28図 1号墳出土遺物① (1/4)

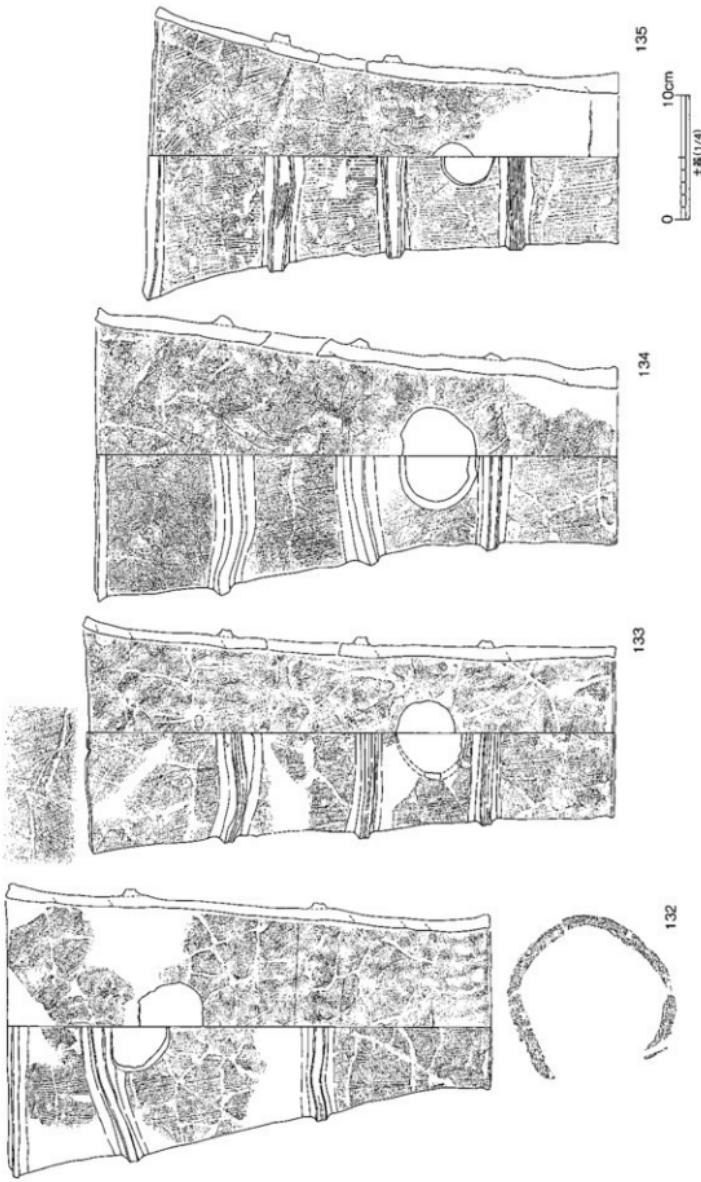
190は蓋形埴輪の笠部と台部の接続部分か人物埴輪の衣服裾部の可能性がある。191は内湾する器壁に突帯を貼り付けたもので、突帯上に不規則な刻みを施しているようにもみえる。192は円筒埴輪の口縁部のような形状を呈するが、異なる2方向に端部を有しており、形象埴輪と判断した。内外面のハケ調整が顕著である。

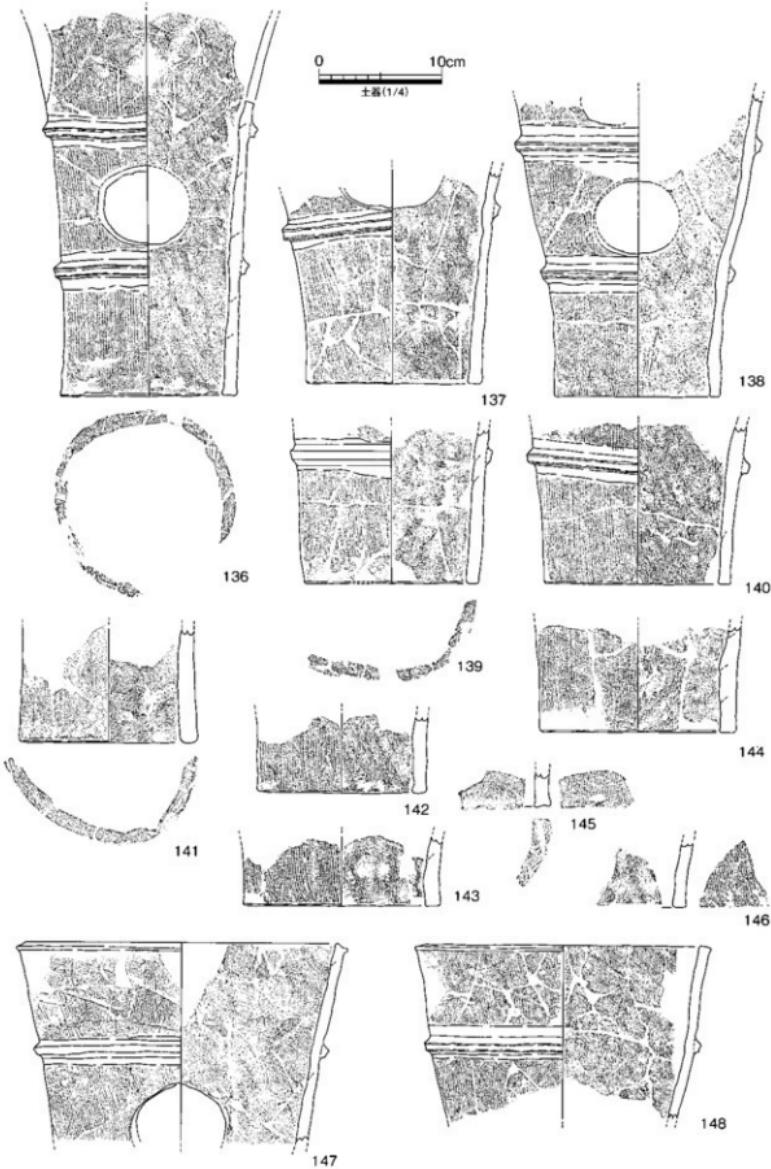
1号墳の周溝から出土した須恵器は、大阪の和泉陶邑窯編年のTK23型式～TK47型式の須恵器に該当するものと思われる。円筒埴輪の特徴に注目すると、①外面調整に第2次調整を施さないものがほとんどを占める、②突帯の断面形状はM形と台形があるが、M形は台形に近い形態である、③透し孔は円形のみである、④黒斑をもつものがある、⑤底部調整が見られない等が挙げられる。これらの特徴は川西繩年の4期から5期の特徴が含まれていることから、古い特徴（4期）を残しながらも新しい特徴（5期）のものが主体となると捉えることができる。これらの遺物の年代観から、1号墳は5世紀後半～末にかけての築造が想定される。



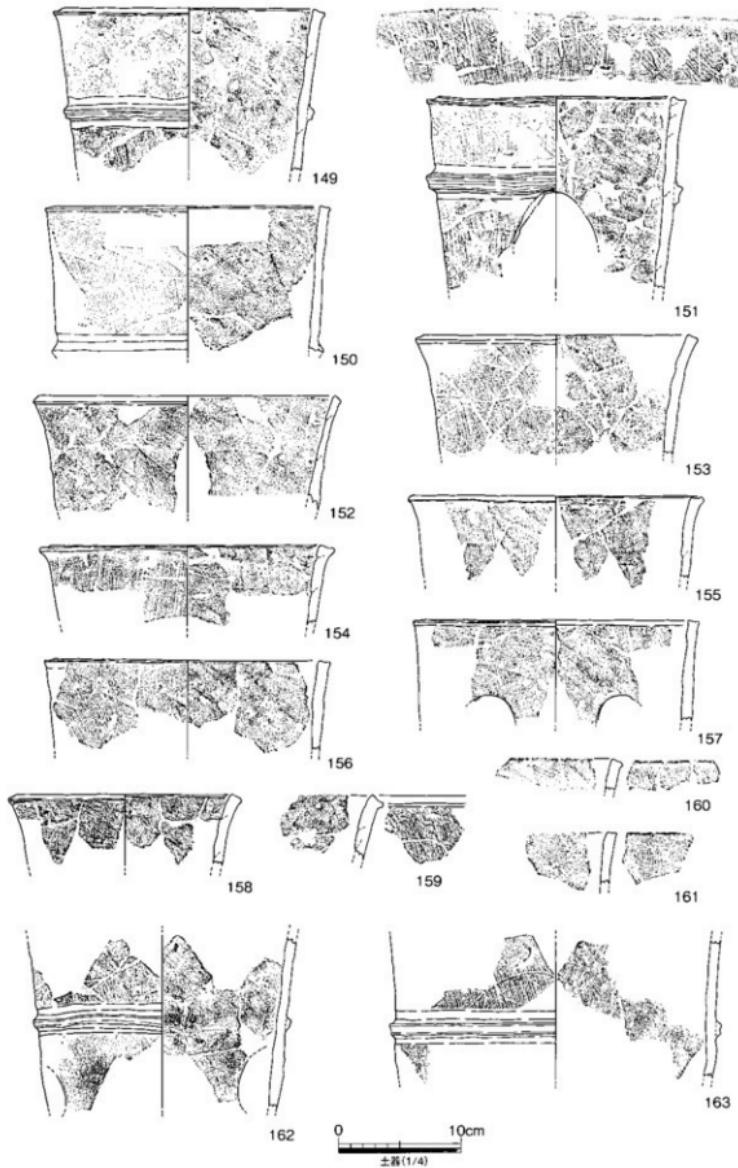
第29図 円筒埴輪各部名称模式図

第30圖 1号墳出土遺物② (1/4)

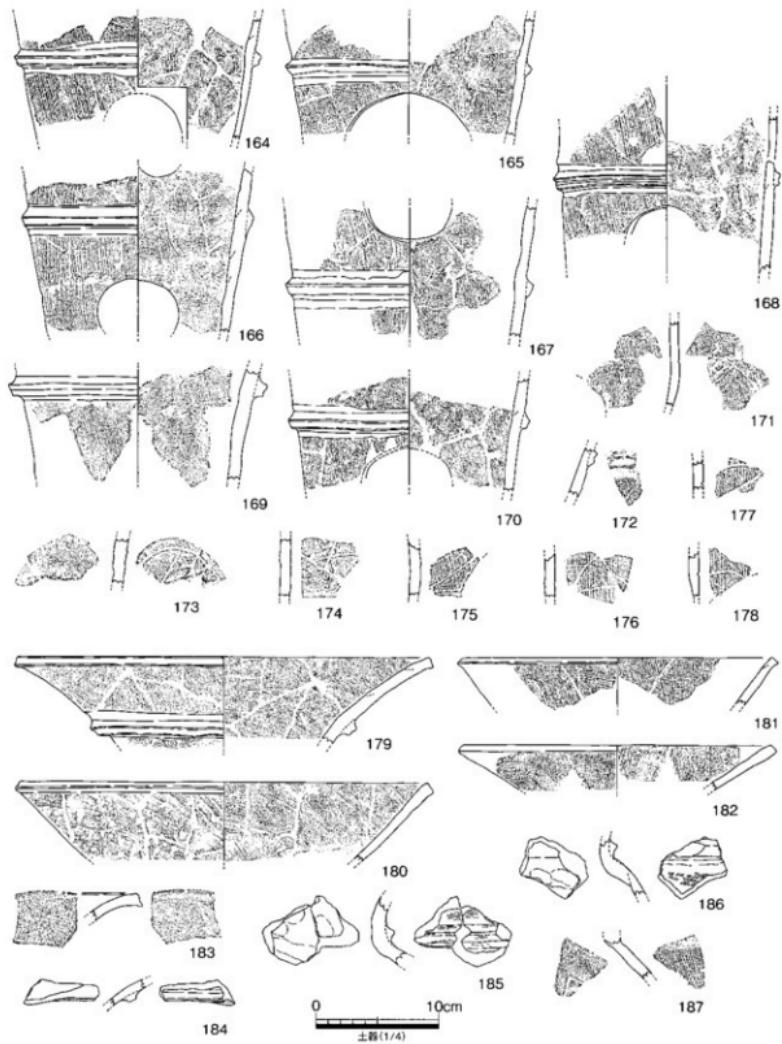




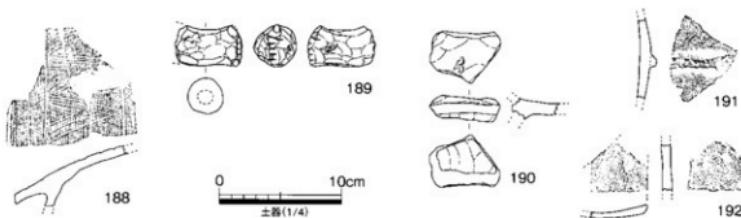
第31図 1号墳出土遺物③ (1/4)



第32図 1号墳出土遺物④ (1/4)



第33図 1号墳出土遺物⑤ (1/4)



第34図 1号墳出土遺物⑥ (1/4)

## 2. 2号墳 (第31~51図)

B区の西半部で墳丘部と周溝のほぼ全体を検出した。周溝の南北両端がわずかに調査区外へ続いているが、北西部に造出を有する円墳で、今回の調査で判明した最大規模の古墳である。墳丘部はベース層にまで及ぶ著しい削平を受けているため墳丘の盛土は消失している。古墳は墳丘部の直径が約20mで、周囲には溝状遺構(SD11)が完周している。周溝は検出幅2.0~4.9m、深さ0.2mを測り、断面形状は浅い皿形を呈している。墳丘の北西部に付属する造出は、検出長2.3×3.8mを測る横長の長方形を呈している。削平を受けているため、古墳墳頂部との比高差は判明しない。埋葬施設についても消失してしまっているため不明である。また、周溝内に転落した石材は見られないことから、葺石は施していなかったと考えられる。

周溝内からは円筒埴輪を中心とした遺物が出土しており、円筒埴輪以外に、形象埴輪、須恵器、土師器、弥生土器がある。埴輪片は周溝のほぼ全体にわたって出土しているが、周溝南東部と北西部造出の両側に集中して存在し、周溝北部と西部に幾つかの小さなまとまりが点在するような形でみられる。埴輪片は周溝の底面に接するものと周溝の堆積土中に埋もれているものがあり、墳丘からの転落の時期に差があったことがうかがえる。全体の形状が復元できた埴輪がごく僅かしかみられないことから、削平に伴ってかなりの量の埴輪が失われていることがわかる。形象埴輪には、人形、馬形、動物形、家形等の器種が認められ、1号墳と比較して多種多様な形象埴輪がみられる。形象埴輪はとりわけ造出周辺の周溝内から出土したものが多く、造出の上に立て並べられていた可能性が高い。また、須恵器・土師器についても造出の周辺から出土したものが多い傾向があり、須恵器の大型壺は造出と墳丘の接続部に置かれていたか、そこで破壊された可能性が高い。僅かではあるが、古墳のベース層中に含まれていた弥生時代後期に属する弥生土器片が周溝内に混入して見られる。

193~219は周溝内から出土した土器である。193~196は須恵器杯蓋である。平坦面を有する天井部に僅かに外方へ開く口縁部をもつ形態で、口縁部と天井部の境は突出した稜をもち、口縁端部は小さな平坦面や段を有しているものが多い。197~201は須恵器杯身である。底部はやや丸みを帯びるものとの平坦面を有しており、長く伸びる口縁部が付く。口縁端部は面をもつ。202は底部にわずかな屈曲がみられたことから、須恵器の有蓋高杯と判断した。内傾する長めの口縁部を有している。203は須恵器壺の口縁部である。204~207は須恵器腹である。204は下半が外湾し、上半が内湾する口縁部で、櫛描波状文を施している。205~206は緩やかに大きく開く口縁部で、外面に凸線や櫛描波状文をめぐらしている。207は扁球形をした胴部である。最大径の上位に櫛描波状文を施している。208~213は

土師器甕である。208は形態的に壺とした方が適當な可能性がある。外面の粗いハケメが顯著である。209～212は内湾する口縁部をもつ布留系の甕である。212は口径に対して器高が低く、鉢のような形態である。213も甕としたが、形態的には鉢に近い可能性がある。214は土師器の小型丸底壺である。胴部最大径よりも口径の方が大きい。215～217は土師器高杯である。いずれも杯部で、浅い皿状の下半部から大きく外方へ聞く上半部をもつ。屈曲部には沈線をもつものもみられる。218は弥生土器高杯の脚部である。端部を拡張して凹線をめぐらせた弥生時代後期のもので、古墳のベース層から混入したものであろう。219は造出と墳丘の接続部の横で出土した須恵器甕の大型品である。

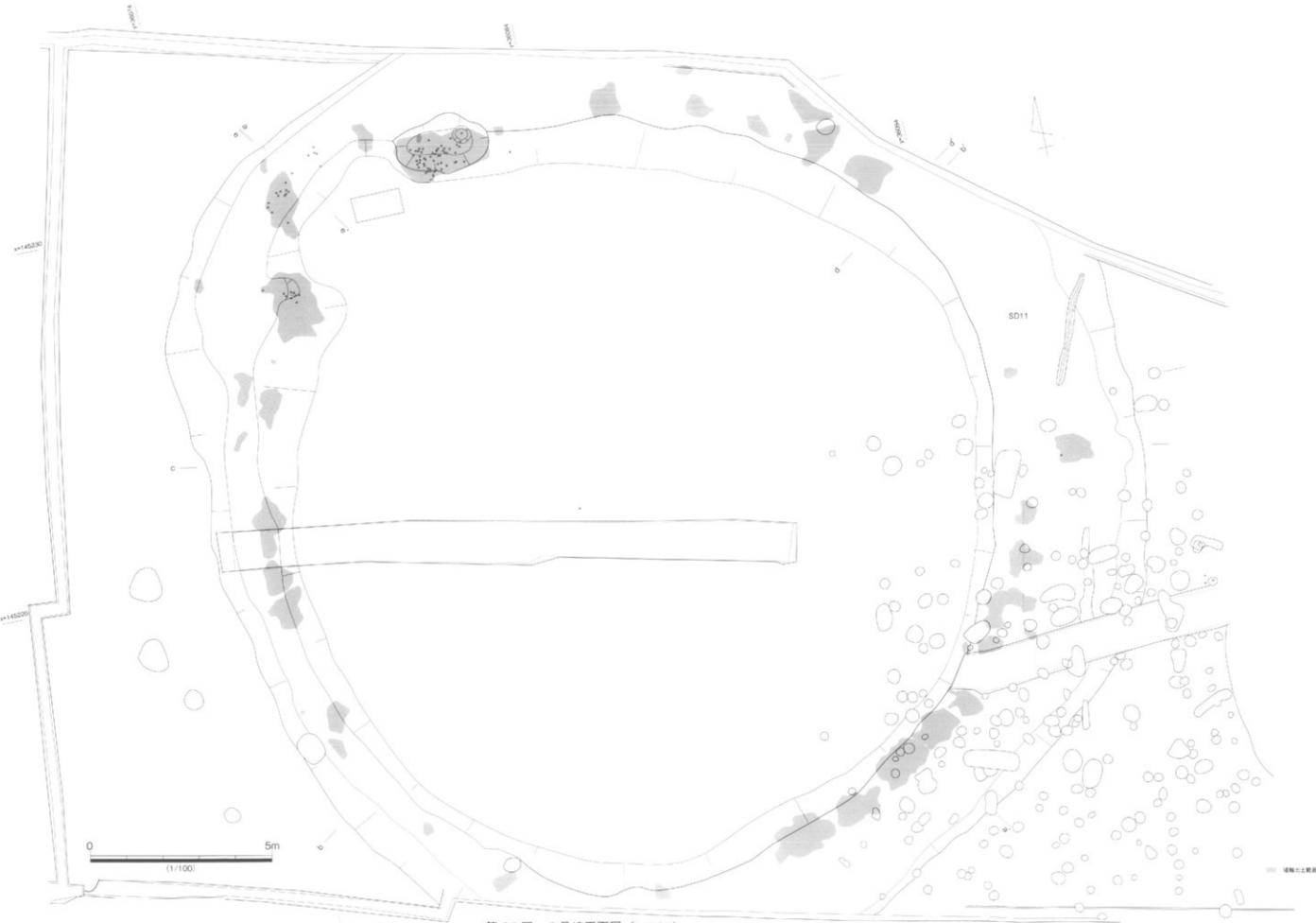
220～265は円筒埴輪である。2号墳の円筒埴輪で全体が判明したのは220の1点しかないが、底部から口縁部に向かって緩やかに聞く筒状を呈するものが大半の形態を占めているようである。全体を3条の突帯で4段に区切る（4段3突帯）で、2段分に直交する方向の透し孔を配することを基本としている。法量は口径が21～26cm、底径が12～14cmの間に、器高は220で37cmあり1号墳の円筒埴輪以上にまとまっていると言える。成形は幅3～5cm程の粘土帯を基底部に用いており、その接合は1か所で始点と終点が斜めの面をもって繋がれている。下（底部）から見て時計回りのものと反時計回りのものがみられる。また、底面には部分的に板状や棒状の圧痕を残すものがあり、運搬や乾燥等を容易に行う工夫の跡と思われる。胴部内面に残る接合痕から、基底部の上には幅3cm前後の粘土帯を積み上げていることがわかる。外面調整は第1次調整にタテハケを施しており、一部は第2次調整としてヨコハケを施しているものがある。第1次調整に用いられたハケには4～6条/cmの粗いものと、10～12条/cmの細かいものの2種類があり、第4段部分（口縁部）ではタテハケがややナナメハケ状を呈するものもみられる。第2次調整のヨコハケをもつもので全体が判明したものはないため、現状では第1段のみ（233・236）、第1・2段（232）、第2・3段のみ（266）、第2・3・4段（221）、第4段のみ（246）にヨコハケを施したものを見られる。このうちA種ヨコハケは266で、B種ヨコハケは232と221で、A種ないしC種ヨコハケは233と246でうかがうことができる。第2次調整のヨコハケに用いられたハケは10～12条/cmと細かい。内面調整は指押さえ、指ナデ調整を基本としており、一部にはその後にハケ調整を用いているものがある。245・254・256・258は第4段内面にヨコハケ、259・260は第4段内面にナナメハケ、224～226は第1・2段内面にタテハケ、264は第3段内面にタテハケ、第4段内面にヨコハケ、221は内面（第1～4段）全てにタテハケを施している。底部調整を行っているものはみられないようである。口縁部の形態は、直線的に聞くもの、緩く外反しながら聞くもの、強めに外反しながら聞くものがある。また、口縁端部の形態には、断面方形で面をもつもの、端部に面をもつがナデによって凹面となるもの、端部外面が外方へ突出気味のものがみられる。突帯は断面の形状からM字形を呈するもの、台形を呈するものがある。また、突帯を貼り付ける箇所の目印や接合を強固にするためのヘラ描きによる直線や刺突等は認められなかった。突帯の貼り付けは1号墳とは異なり、波打つように歪んだものは僅かしかないことや、突帯上にヨコハケの痕跡が認められるものもある等、丁寧に付けられている感が強い。透し孔は全て円形を基本としており、割と整った円形をしたものが多い。第2段と第3段に直交するようにそれぞれ2孔一対で穿たれているが、中には221のように直交しないものもある。穿孔には鉄製刀子のような工具を用いたようである。焼成は全て土師質で軟質なものが多くある。黒斑をもつものや須恵質焼成のものはみられない。色調は橙色からぶい褐色を基本とするが、黄色みを帯びたものや白っぽいものも多くみられ、これらは表面の磨滅が進んでいる。胎土については、素地となる粘土自体は概ね緻密なものを使用しているが、粗い石英・長石粒や赤色粒等の含有鉱物が多くある。

数含まれているものが多い。赤色顔料が塗布されている円筒埴輪は、肉眼観察でも確認できるが少量である。259・260は口縁部（第4段）に痕跡が残るが、233は第1段に認められる。ヘラ記号は簡単な記号的なものと、直線や円弧を組合わせたものがある。259・260は赤色顔料の塗布とヘラ記号の施しの両方が施されている。ヘラ記号が施される部位は、第3・4段が多いようである。

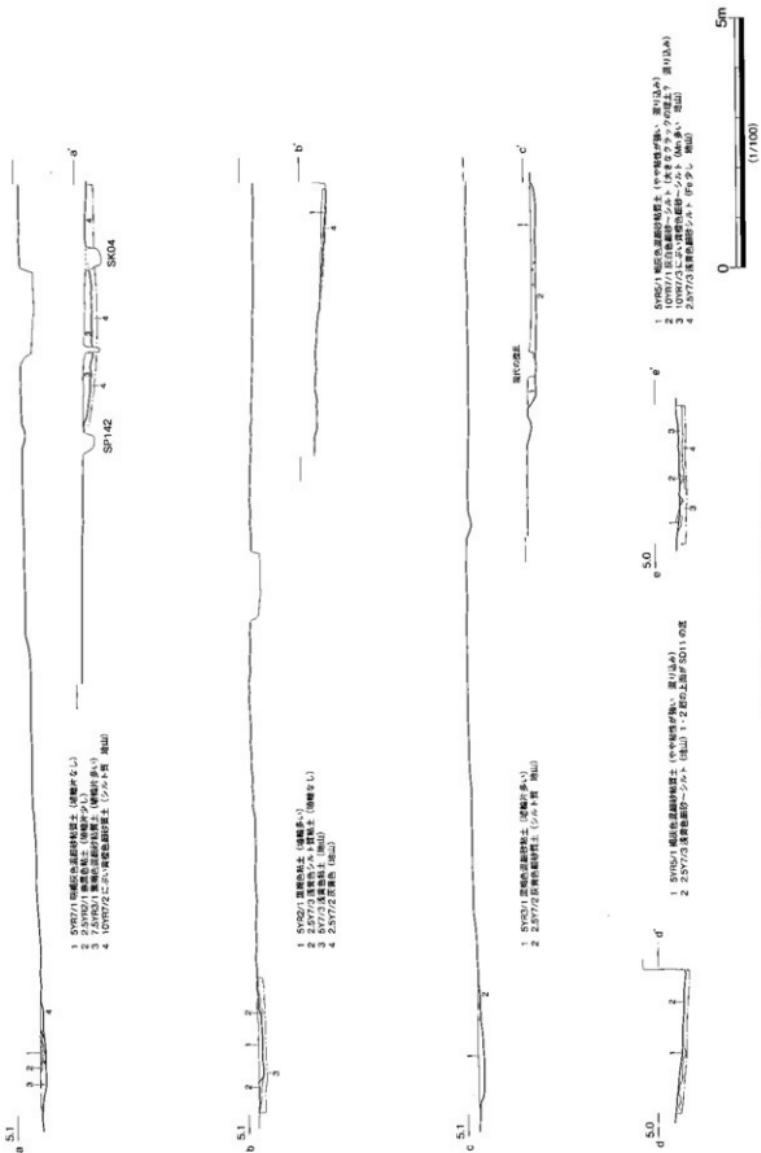
220は全体の器形が判明したもので、粗いタテハケが印象的である。221～244は底部、245～260は口縁部が判明したものである。261～265は胴部の破片である。透し孔の位置等から第2～4段のものが多いと思われる。

267～276は朝顔形埴輪である。全体の器形が復元できた資料はないが、267・268から類推すると8段7突帯であった可能性が高いと思われる。7段6突帯とした場合、肩部の1段下（第4段）に透し孔があるもの（267・276）と透し孔がないもの（268）の2タイプが存在することになる。ここでは8段7突帯で第3段と第5段に透し孔を配する形態と判断した。269・270は口縁端部（第8段）、271・272は口縁部（第7・8段）である。口縁部は2段で構成されており、断面M字型の突帯をめぐらせてている。端部は外方へ折り曲げるもの（269）とそのまま終わるもの（270）がある。内外面ともにハケ調整が顕著である。273～275は頭部（第6・7段）である。屈曲部には断面三角形の突帯をめぐらせてている。273は外面に第2次調整のヨコハケが残る。267・270には赤色顔料を塗布した痕跡が残る。

277～298は形象埴輪である。277・278は人物埴輪である。277は頭部、右腕は肘から先、左腕は肩から全て、そして台座部分を欠損した人物埴輪上半身である。欠損部の観察から、右腕は前方や下方に向いて伸びていたことがうかがえるが、左腕については判断し得ない。両脇下の胴部側面には円形の透し孔を設けている。腕、胴体は中空で作られており、腕は指ナデが、胴体は細かなハケ調整が明瞭に残る。腰部には別の粘土紐を貼り付けてベルトを表現することでくびれさせている。体前部の剥離痕から、ベルトには結び目の表現もあったことがわかる。ベルトより下位は外方に向かって大きく開いており、衣類の裾を表現していることがわかる。また、両腕の周囲を通り背中で交差する粘土紐の剥離痕がみられることから、襟掛けを表現していたこともわかる。下部の観察からは、下半身の表現は元々なく、円筒形の台座が直接付いていたことがうかがえる。278は頭部、両腕の肘から先、台座を欠損した人物埴輪の上半身である。両腕は左右から大きく輪を作るように伸びており、何かを掲げるようにもっていたか、手を合わせていたものと想定される。両脇下の胴部側面には円形の透し孔が穿たれている。腕、胴体は中空で作られており、腕には指ナデが明瞭に残る。方形の1枚布の角を右肩に当て、そこから体前面を覆い、左脇下を通して背中に回し、反対の角を右肩で合わせたいわゆる袈裟掛け式の衣類「意須比（おすひ）」の表現がみられる。胴部中央には粘土紐を貼り付けたベルトの表現があり、体前部には結び目も表現されている。胴部下位にはくびれ部があり、そこから下部は外方へ大きく広がり裾を表現している。下部の観察からは、下半身の表現は元々存在せず、円筒形の台座が直接ついていたものと判断できる。279～281は人物埴輪の腕で279、280は左手、281は右手である。いずれも手捏ねで中空に造られており、指ナデの痕跡が残る。279は親指以外の4本を欠損している。280は指を5本とも欠損するが中指の基部が僅かに残っている。281も指を5本とも欠損しているが薬指の基部が若干遺存している。282は人物埴輪の体部片である。途中に段があり、そこを境にして下半部は外方へ開く形状をしている。下半部には細かなタテハケ調整が明瞭に残るが、上半部はハケを丁寧にナデ消しておらず、意図的に調整を違えている。重ね着した衣服の違いを表現したものの可能性がある。また、上半にはベルトを表現したとみられる粘土紐の剥離痕と残存した一部が認められる。283は人物埴輪の頭部に付けられ

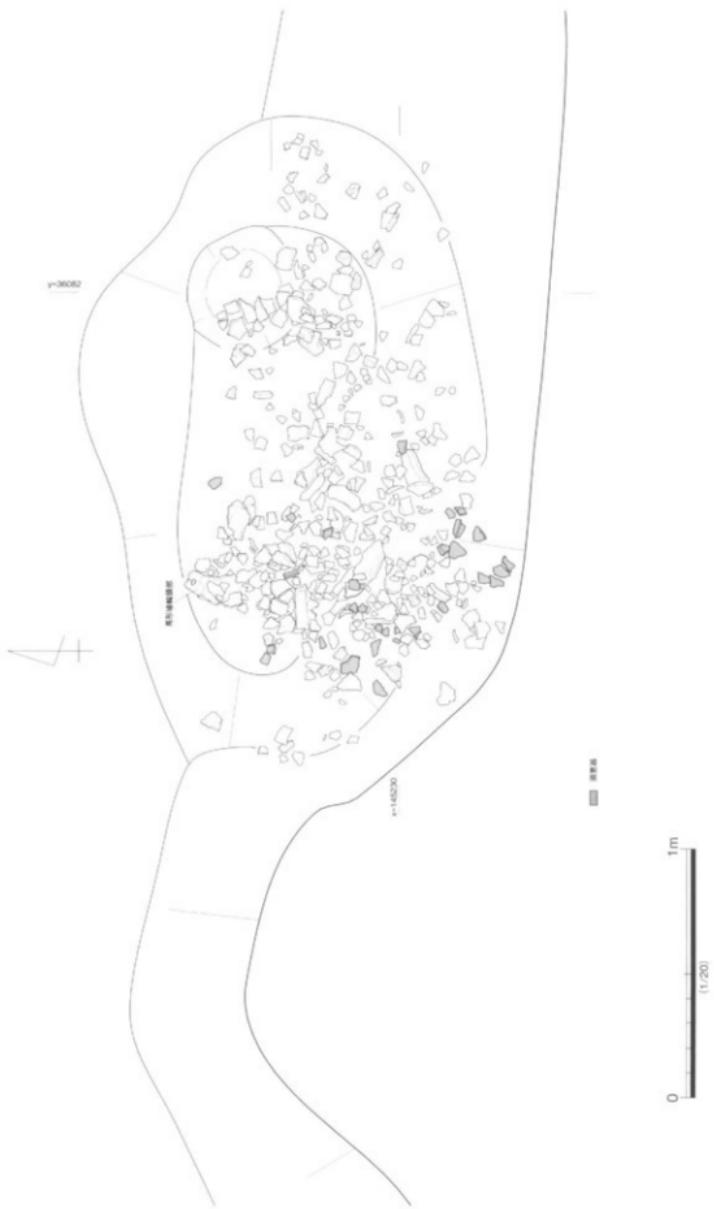


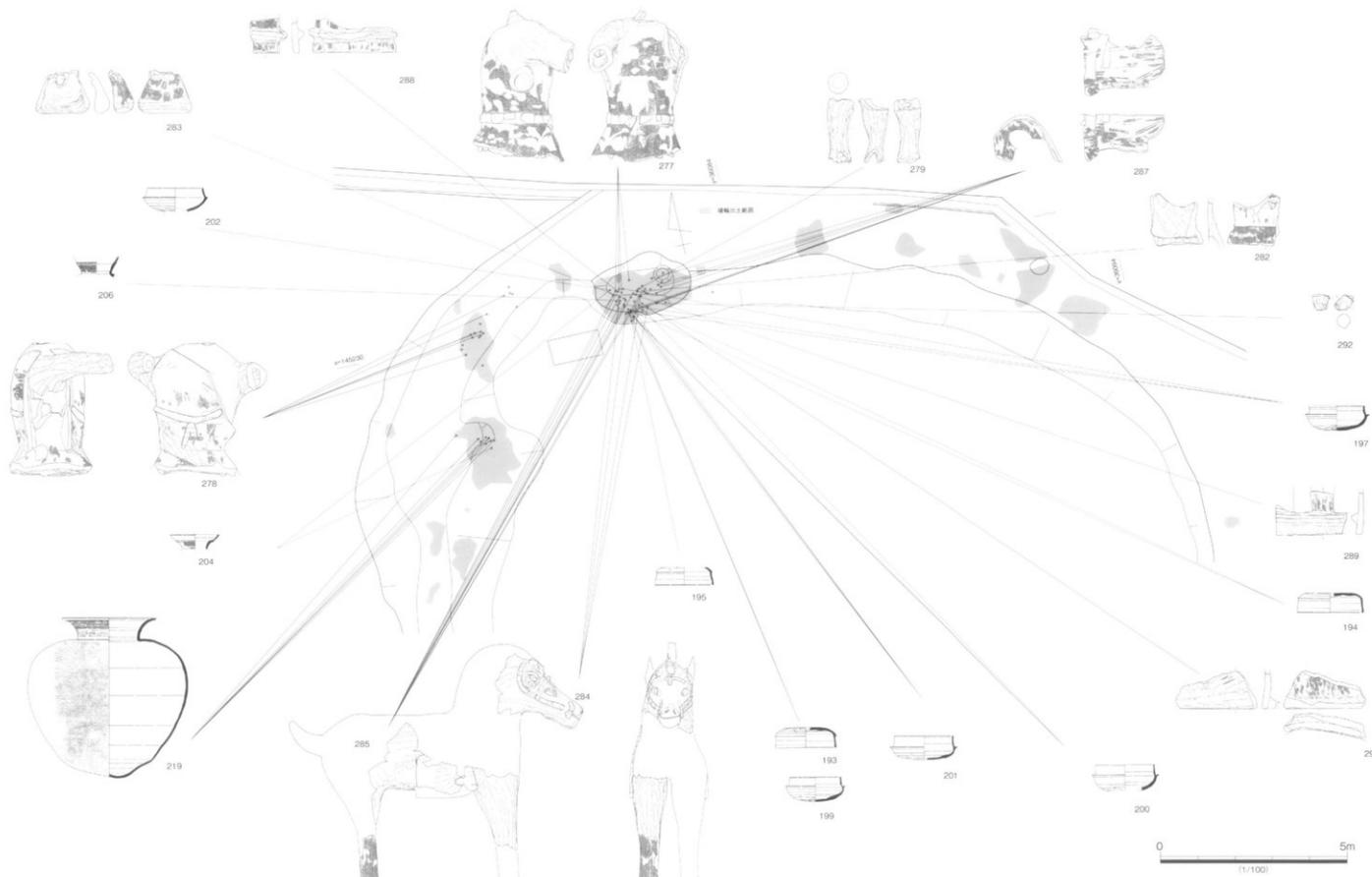
第35図 2号墳平面図 (1/100)



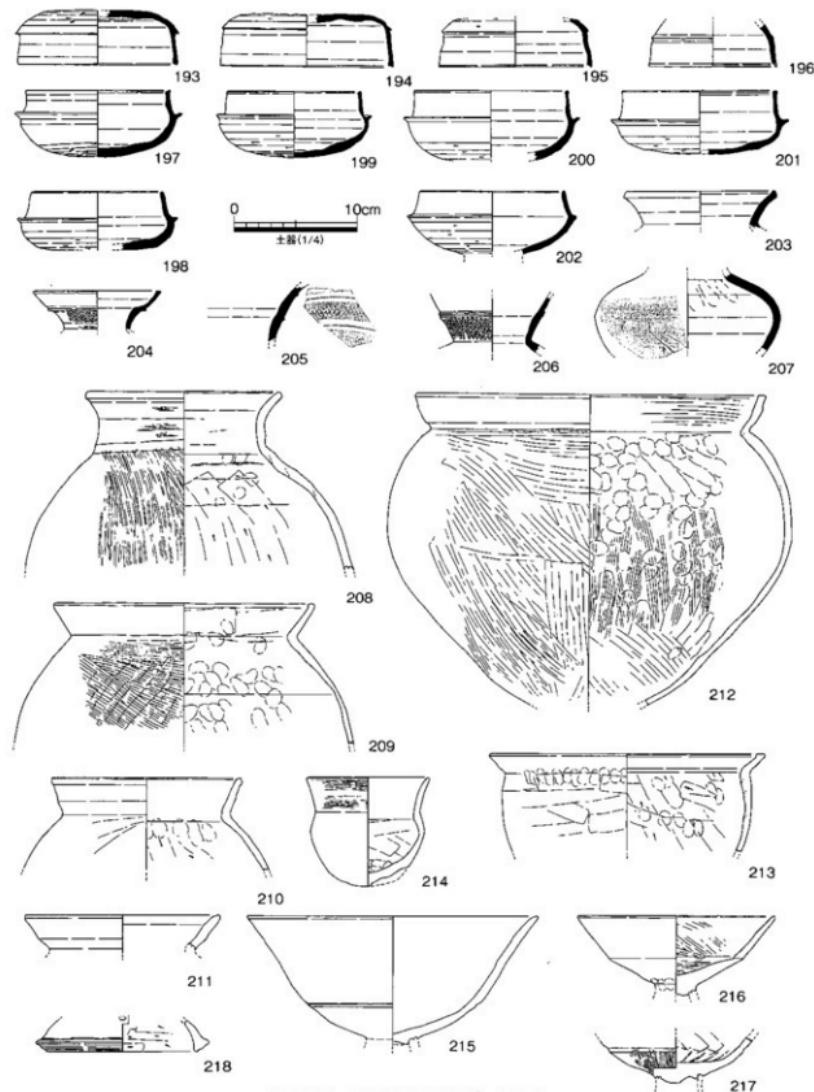
第36図 2号填断面図 (1/100)

第37図 馬形埴輪周辺遺物出土状況図 (1/20)

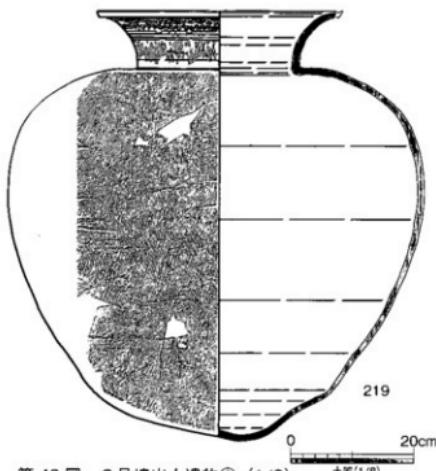




第38図 2号墳遺物出土状況図 (1/100)



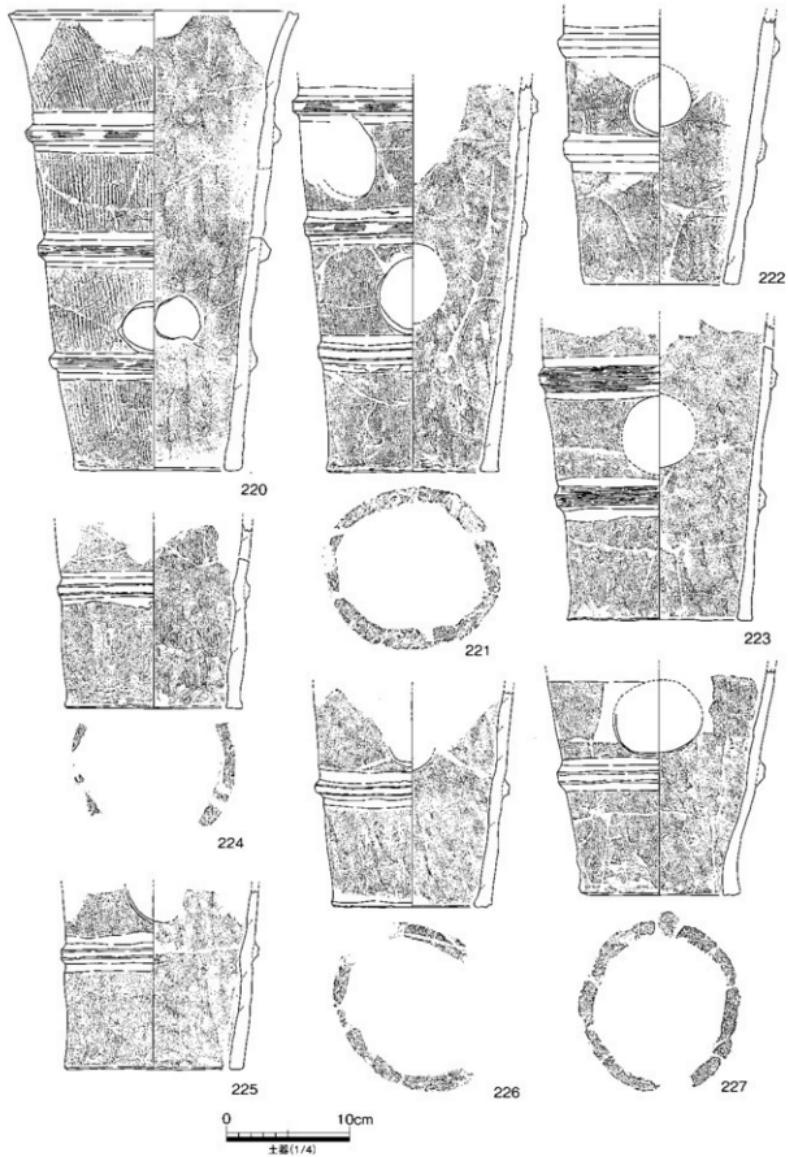
第39図 2号墳出土遺物① (1/4)



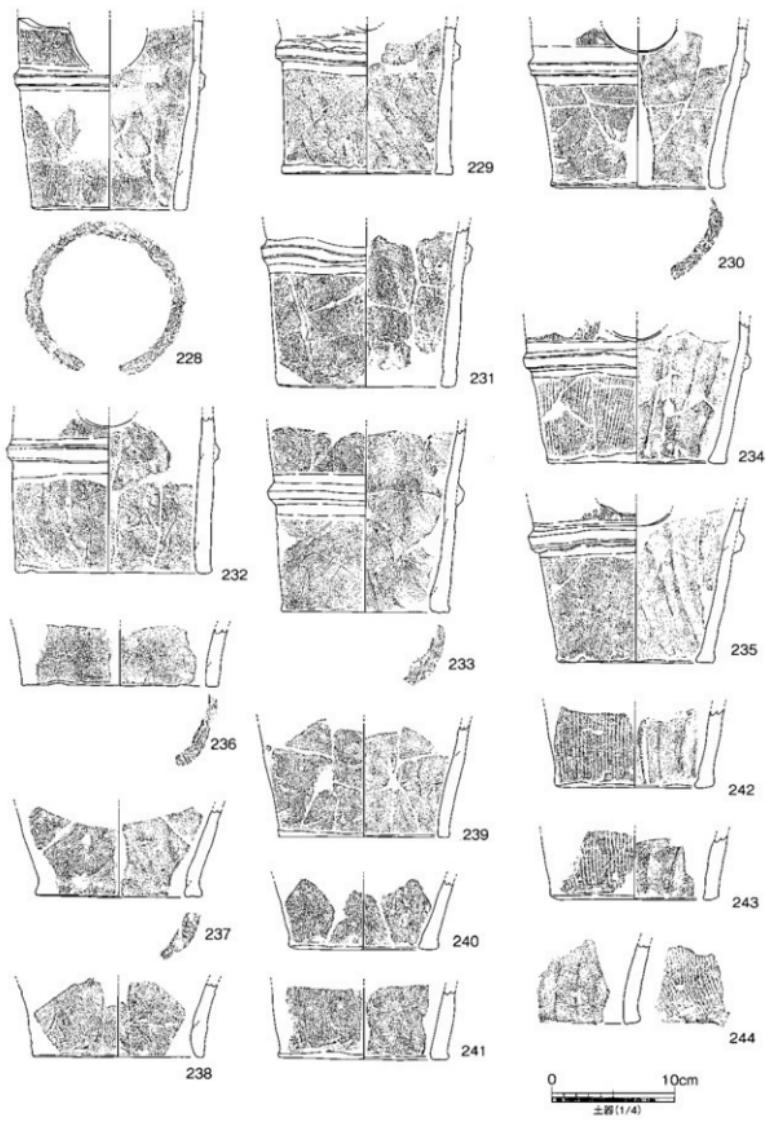
第40図 2号墳出土遺物② (1/8)

土器(1/8)

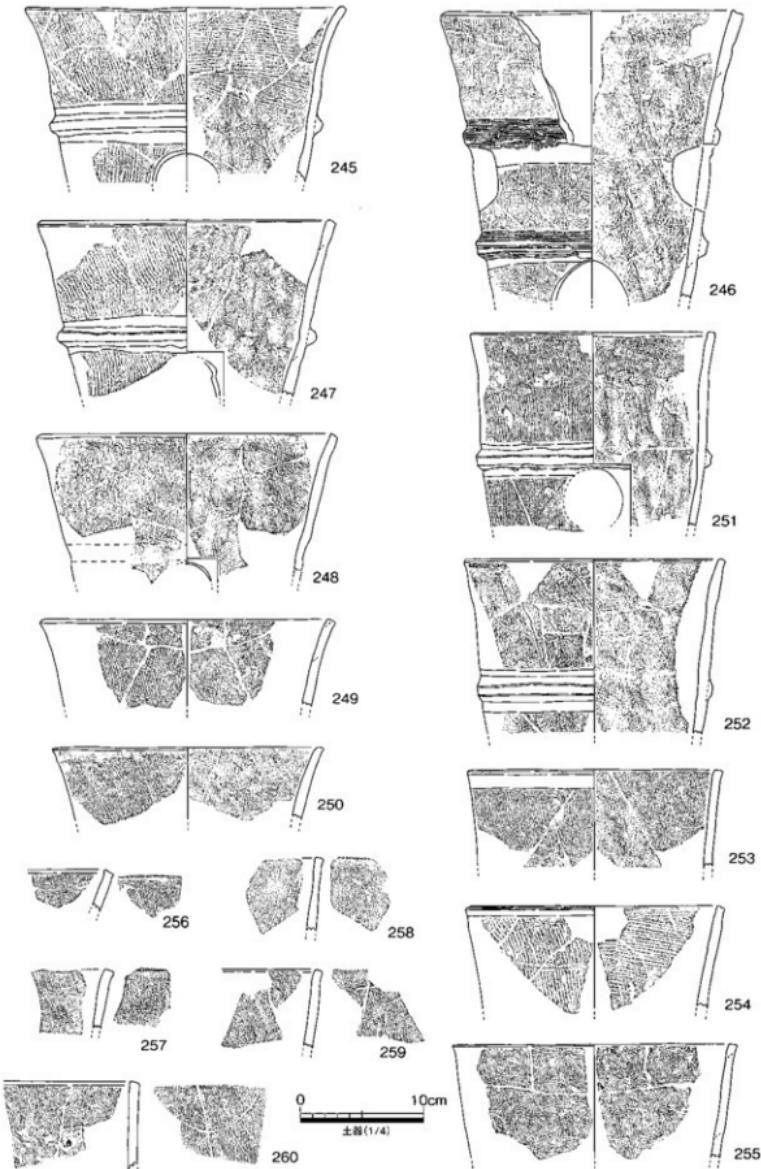
ていた鬢の一部である。台形をした分厚いもので上半を欠損している。上端には段があり、この部分に鬢をまとめたりボンが付くと思われる。外面には細かいハケ調整が残り、髪の毛の表現も兼ねていたことが考えられる。形態からみて、板状に前後に伸ばす髪型の「つぶし島田」と呼ばれる鬢を表現したものと判断される。出土位置や胎土や焼成等から、277 の人物埴輪の鬢であった可能性が高い。284 は馬形埴輪の頭部である。馬具を装着したいわゆる飾り馬を表現している。口先から耳の付け根までの距離は 29cm を測り、円筒状に作られている。目は鋭利な工具を用いて銀杏形に削り抜かれている。口も同様の工具を用いて線状の切り込みを入れて表現しているが、一気に引いたものではなく、左右から 2 度に分けて引いている。鼻孔は細長い 2 孔がハの字になるように、鋭利な工具で外側から施されている。右側の鼻孔は刺突したあと若干広げられているが、左側は刺突のみで表現されている。耳は両耳ともに欠損しているが、内面の観察から別パーツの耳を頭部に空けた穴に差し込んで指押さえで取り付けたことがわかる。頭頂部には厚さ約 2cm の板状をした鬢の表現が残る。鬢の上面はナデによって面をもっている。頭部に付けられた装具は、板状や紐状の粘土帶を貼り付けることで再現している。鬢は欠損しているものの形状からは f 字形鏡板を表現していると思われ、引手は幅約 2cm の平らな粘土紐を貼り付けている。面繫には引手と同様の粘土紐を用いて額革、頬革を表現しているが、鼻革と顎革の表現はその形跡がない。革紐の交点には直径約 2cm の丸い粘土粒を貼り付けることで辻金具を表現している。285 は馬形埴輪の胴体と脚部の一部である。胴部の中央には下方へ貼り付けて伸ばした粘土板とヘラ描きによる障泥と、同じくヘラ描きによる輪鎧の表現が見られる。鎧の位置が障泥の片側（図の右側）に寄っていることから、馬の右半身の胴部と判断している。右前脚は中空に作られており、指ナデの痕跡が明瞭に残る。右後脚は一部分だけが遺存している。馬形埴輪の頭部と胴部、さらに機械による掘り下げ時



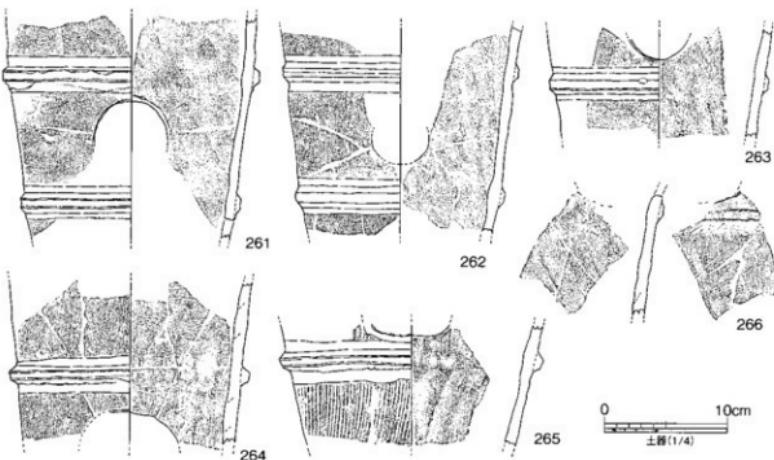
第 41 図 2 号墳出土遺物③ (1/4)



第42図 2号出土遺物④ (1/4)

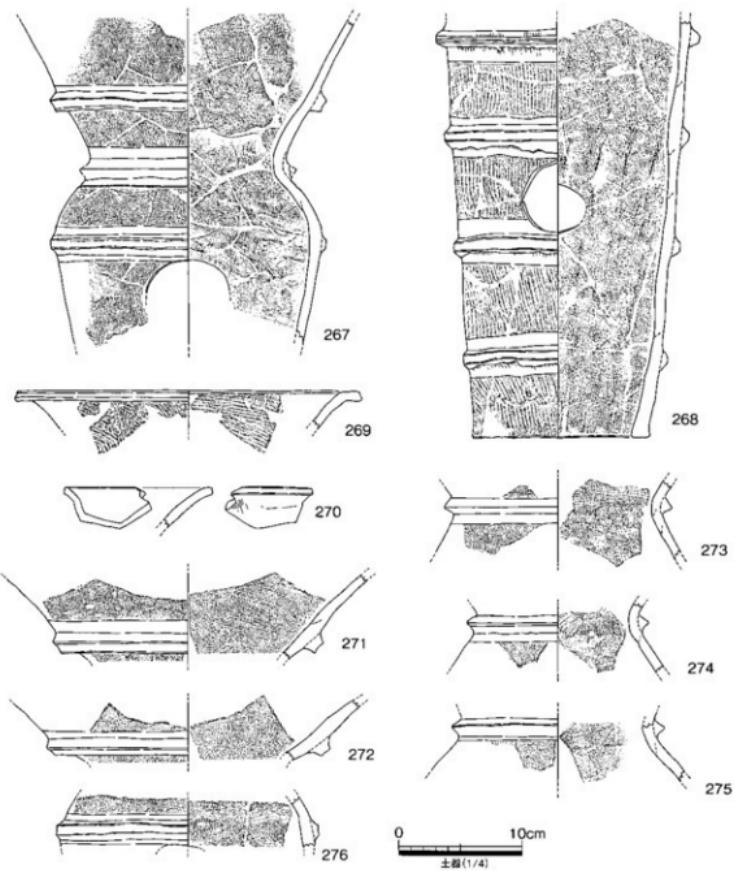


第43図 2号墳出土遺物⑤ (1/4)

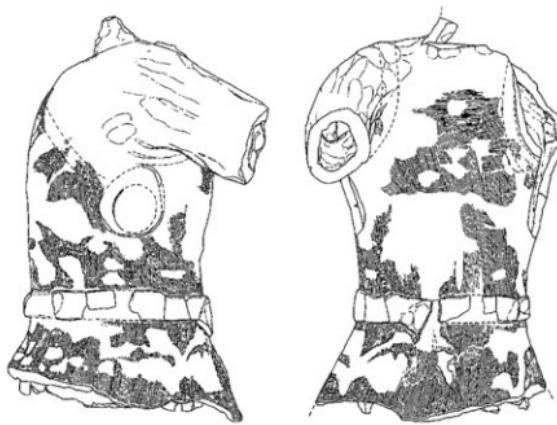


第44図 2号墳出土遺物⑥ (1/4)

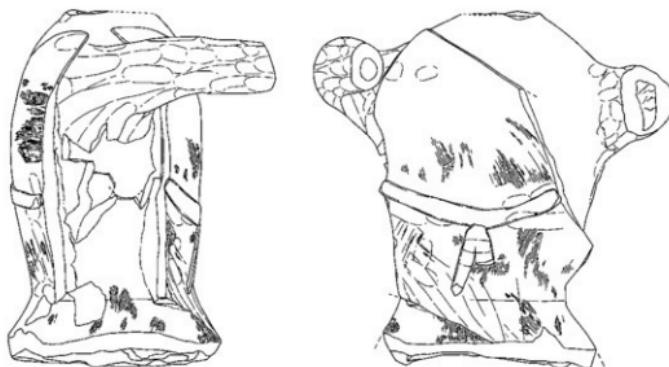
に出土した馬形埴輪の脚部を使って推定復元したものを第49図に示している。鞍の表現は省略したが、頭部における馬具の表現や障泥、鎧といった表現から、鞍を再現していた可能性は高い。286～289は家形埴輪である。286は全体の形状が判明した切妻形の家形埴輪である。全高は45cm、屋根部の長さは破風板先端間で推定47cm、幅は破風板端部間で35cm、軸部は基部の突帯を除いた桁行が29cm、梁行が26cmを測る。片側の平側の中央部上寄りには $3 \times 5$ cmの長方形の窓を表現した割り抜きが1孔みられる。反対の平側は欠損しているため、窓や入口の存在は判明しない。妻側には直径約6cmの円形の穿孔が2孔一対みられるが、これは埴輪焼成時の火回り等を考慮したものと考えられる。妻側の穿孔の下には1条の突帯を貼り付けているが、これは棟木を表現したものとみられる。破風板は頂部を欠損しているが、下端から頂部に向かって徐々に幅が広がるものであったことが残存部位から推定できる。軸部の裾には断面台形の突帯をめぐらせており、基底部に切り込みや割り込みは認められない。287は切妻形の家形埴輪の屋根で、妻側の軸部の一部が残る。妻側には長径8cm×短径6cmの橋円形の穿孔があり、286と同様の目的で穿たれたものと判断される。屋根の先端には破風板の剥がれた痕跡が残る。288、289は家形埴輪の基底部付近の破片である。どちらも基底部のやや上位に断面台形の突帯をめぐらせており、288は幅約2cm、289は約4cmと25cm以上の長方形の切り込みがみられ、窓や入口を表現したものとみられる。290～292は器種不明の形象埴輪である。290は家形埴輪の破風板の一部の可能性を考えたが、屋根との接合方法が異なっているものである。291は何かの基底部の破片と思われるもので、底部外面に突帯を貼り付けている。家形埴輪の基底部を考えたが、カーブの度合いや突帯の貼り付け位置が異なる。292は手捏ねで作られた粘土の小塊状をしたもので、片面に剥離痕が残る。剥離痕の反対側には小さな平坦面があり、動物の手足の可能性がある。293～300はB区の機械による掘り下げ時に出土した形象埴輪及びヘラ記号をもつ円筒埴輪で、出土地点から2号墳に属していた可能性が高いものである。



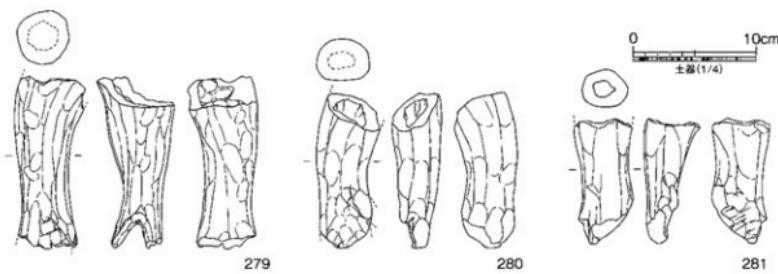
第45図 2号墳出土遺物⑦ (1/4)



(277)



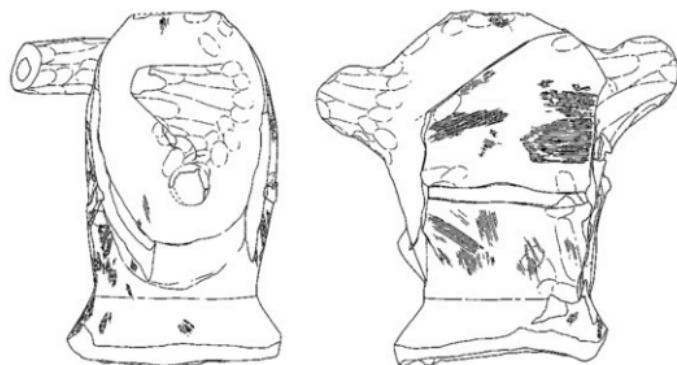
(278)



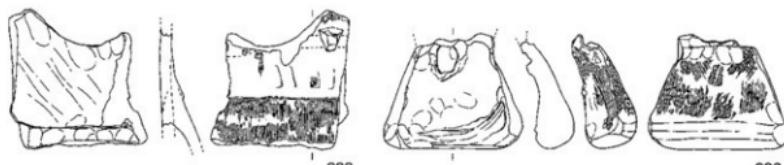
第46図 2号墳出土遺物⑧ (1/4)



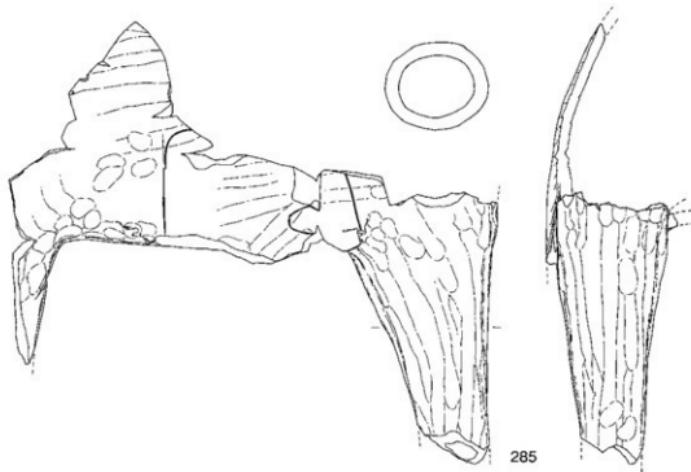
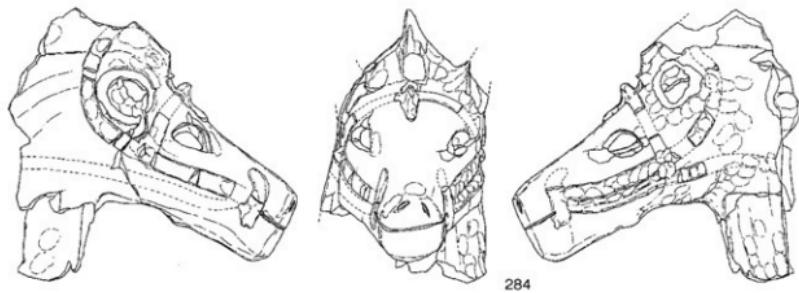
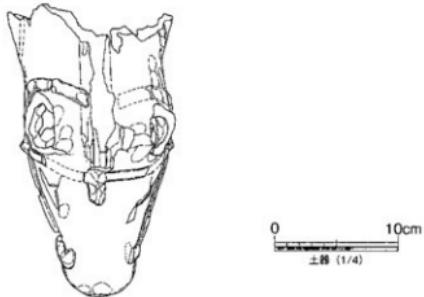
277



278

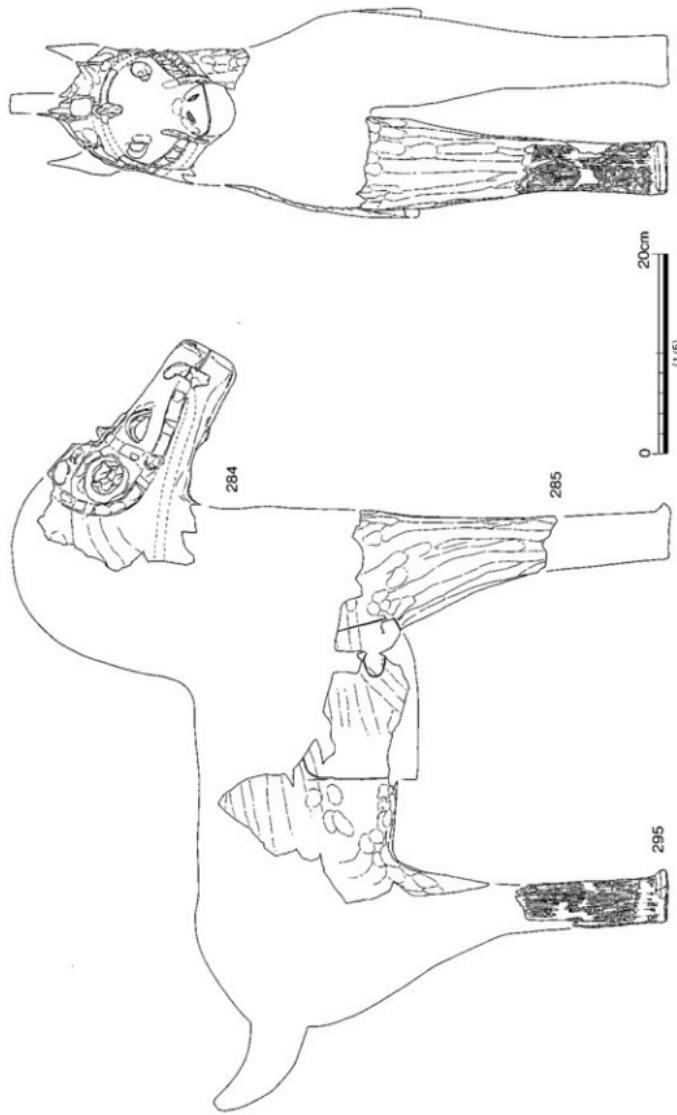


第47図 2号墳出土遺物⑨ (1/4)



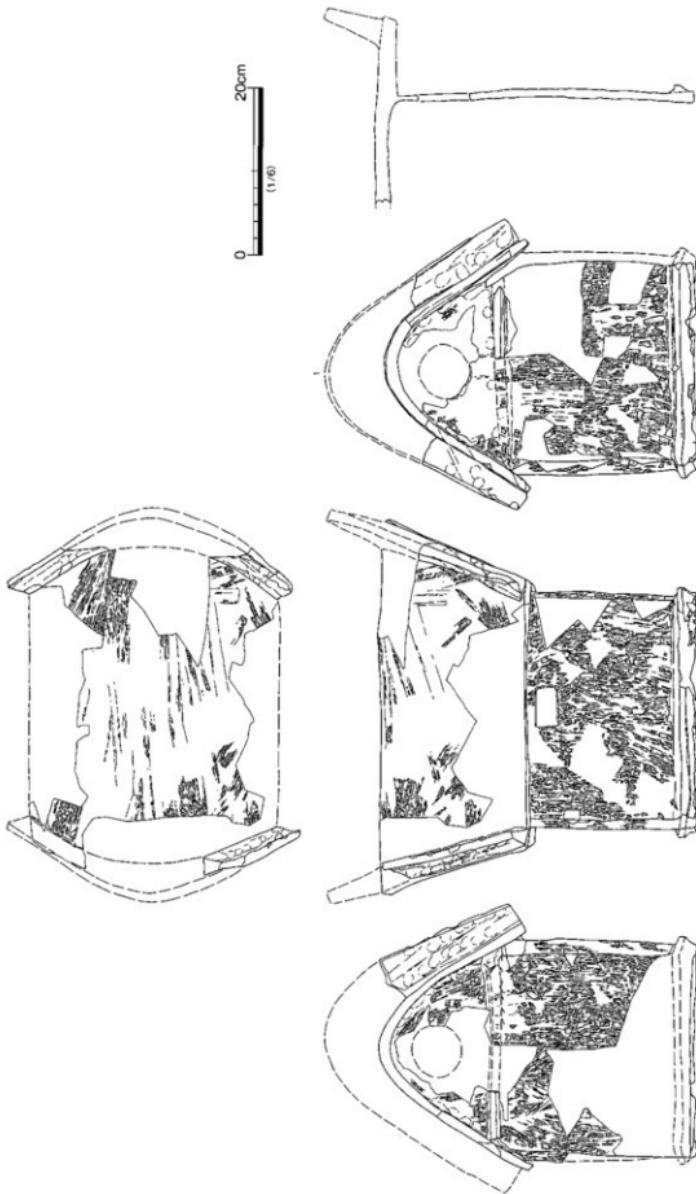
第48図 2号墳出土遺物⑩ (1/4)

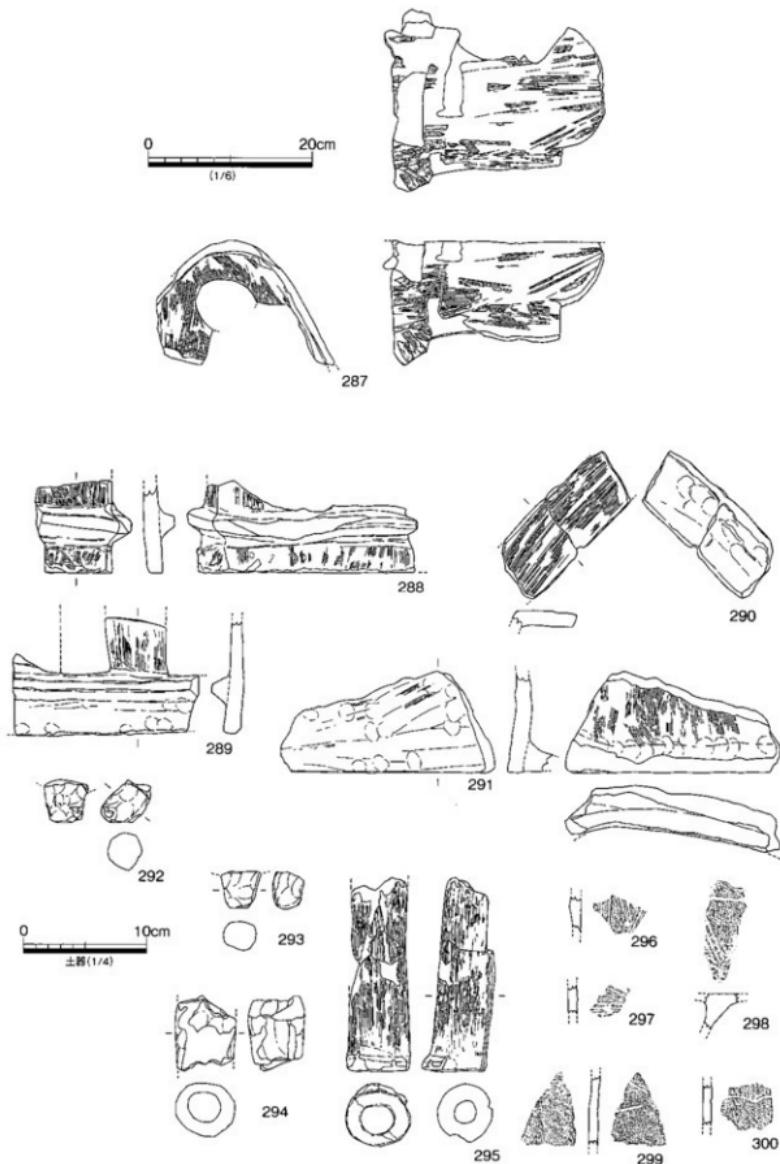
第49図 2号出土遺物① (1/5)



第50图 2号墓出土器物② (1/6)

286





第51図 2号墳出土遺物③ (1/6・1/4)

293は292のような小さな粘土塊状のもので、片面に剥離痕がみられる。動物の手足の可能性をもつ。294は中空の筒状の破片で、人物及び動物の手足の一部の可能性がある。295は馬形埴輪の脚部である。直径約5cmの円筒形で、底部先端には蹄を表現した粘土帶を貼り付けている。全体にハケメ調整が顕著である。296～298は盾形埴輪の破片である。表面にヘラ描きによる文様が認められる。299・300はヘラ記号を施した円筒埴輪の破片である。

2号墳の周溝から出土した須恵器は、大阪の和泉陶邑窯編年のTK208型式～TK23型式の須恵器に該当するものと思われる。円筒埴輪の特徴に注目すると、①外面調整に第2次調整を施すものと施さないものがあり、後者の方が量が多い、②外面の第2次調整にはB種ヨコハケが見られる、③突帶の断面形状はM形と台形があり、前者の方が多い、④透し孔は円形のみである、⑤黒斑をもつものが見られない、⑥底部調整が見られない等が挙げられる。これらの特徴には川西編年の4期から5期の特徴が含まれていることから、古い特徴（4期）を残しながらも新しい特徴（5期）のものが主体という点は1号墳と同様である。1号墳と比較した場合、①・②に見られる古い要素が多く残っており、須恵器の年代観と合わせて1号墳より先行するものと判断できる。これらの遺物の年代観から、2号墳は5世紀中頃～後半にかけての築造が想定される。

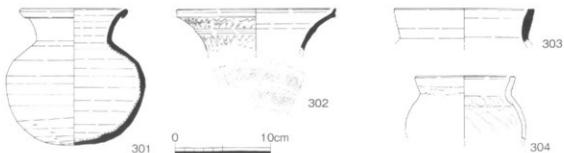
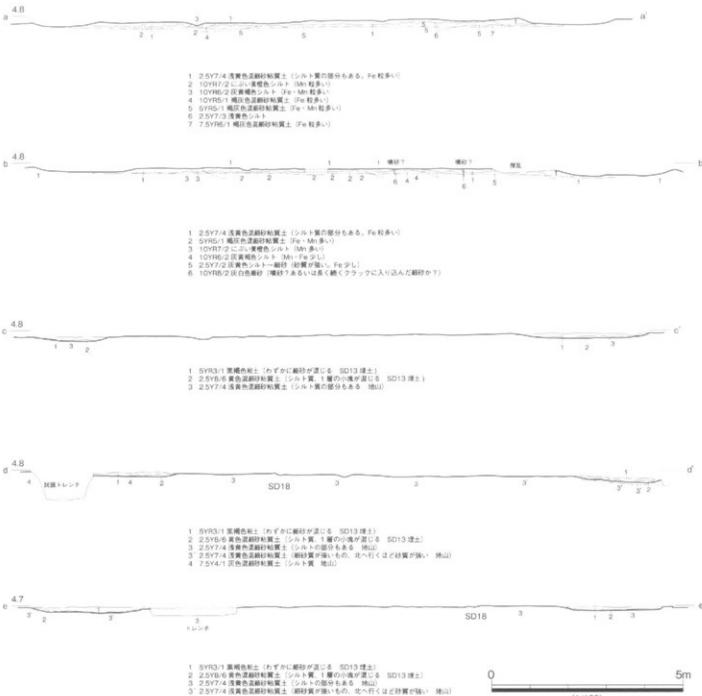
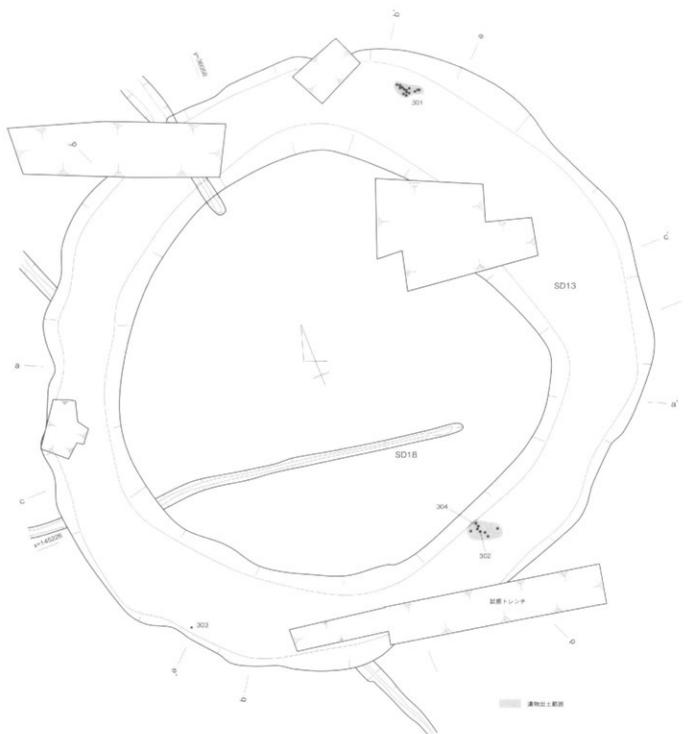
### 3. 3号墳（第52図）

A区のほぼ中央で墳丘部と周溝全体を検出した。墳丘部はベース層まで及ぶ著しい削平を被っており墳丘の盛土は消失している。古墳は墳丘部直径11mの円墳で、周囲には溝状造構（SD13）が完周している。周溝は検出幅1.8～3.2m、深さ0.2mを測り、断面形状は浅いU字形を呈する。埋葬施設については消失してしまっているため不明である。また、周溝内に石材は見られることから、葺石は施していなかったようである。

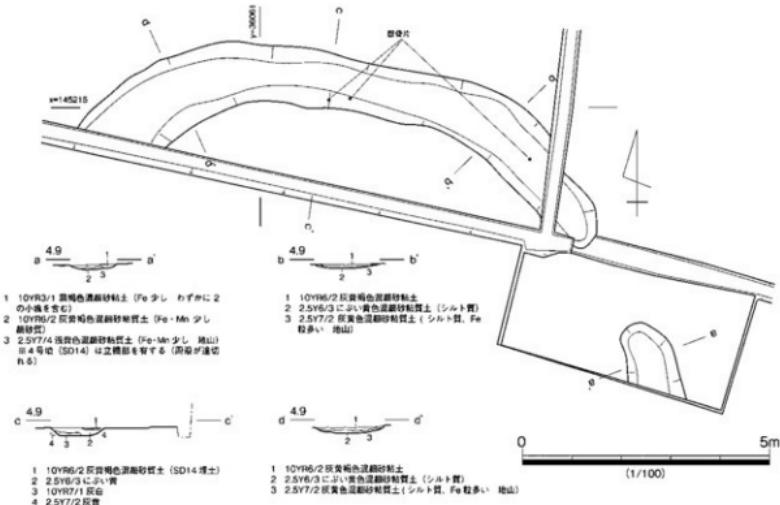
遺物は周溝から出土しているがその量は少なく、小さな破片となっているものが大半を占める。周溝の北側から須恵器壺（301）、南東側から須恵器壺（302）と土師器小型丸底壺ないし壺（304）、南南西側から須恵器壺口縁部（302）が底面からやや上位の埋土中で出土した。いずれの土器も、古墳築造後周溝の埋没が始まって間もなく、墳丘上から転落したものと思われる。また、埴輪片は全く認められないとから3号墳は埴輪を有しなかったものと見られる。

301～303は須恵器である、301は扁球形の体部にラッパ状に開く口縁部をもった壺である。口縁端部は折り返して成形している。302は大きく外方に聞く形状の壺の口縁部である。外面中位に突帶を1条めぐらし、その上下に櫛指波状文を2段に施している。口縁端部は上方に摘み出し強くナデすることで凹面をもつ。303は直立気味で短い口縁部をした壺と思われる。304は土師器の小型丸底壺ないし壺である。

これらの土器の形態から、3号墳は5世紀後半～末頃に築造されたと位置付けられる。



第52図 3号填平・断面図 (1/100)・出土遺物 (1/4)



第53図 4号墳・断面図 (1/100)

#### 4. 4号墳（第53図）

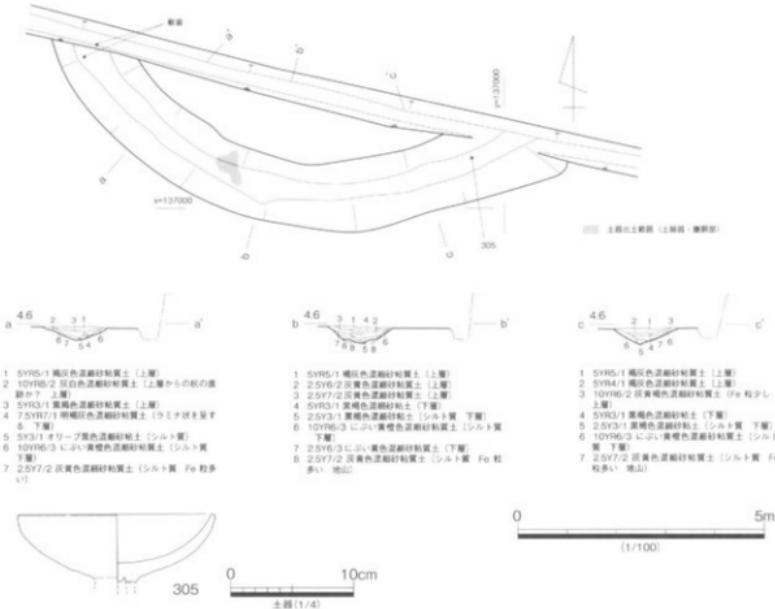
A区の南東隅付近で墳丘部と周溝の一部を検出した。古墳の大部分は調査区外へ続いている。墳丘部はベース層まで及ぶ著しい削平を被っており、墳丘の盛土は消失している。古墳は墳丘部の直径が14mの円墳と推定され、周囲には溝状遺構（SD14）がめぐるが、北東部で一部途切れている。周溝の底の高さは一定ではないため、削平が浅い部分にまで及んだとすれば本来は完周していた可能性がある。周溝は検出幅1.0～1.5m、深さ0.2mを測り、断面形状は浅いU字形を呈する。埋葬施設は調査区外のため不明であるが、削平のためおそらく消失していると思われる。また、周溝内に転落した石材が見られないことから、葺石は施していなかったと考えられる。

周溝からの遺物の出土はほとんどなく、年代比定が不可能な土師器の細片少量と、獸骨片が見られたのみであるため、4号墳の築造年代を示す資料は得られなかった。また、埴輪片は全く認められないことから4号墳は埴輪を有しなかったものと見られる。

#### 5. 5号墳（第54図）

A区の中央、北壁付近で墳丘部と周溝の一部を検出した。古墳の大部分は調査区外へ続いている。墳丘部はベース層まで及ぶ著しい削平を被っており、墳丘の盛土は消失している。古墳は墳丘部の直径が10mの円墳と推定され、周囲には溝状遺構（SD15）がめぐる。周溝は検出幅1.3～1.5m、深さ0.4mを測り、断面形状はU字形から逆三角形を呈している。埋葬施設は調査区外のため不明であるが、削平のためおそらく消失していると思われる。また、周溝内に転落した石材が見られないことから、葺石は施していなかったと考えられる。

周溝から散在的に遺物が出土している。遺物には少量の土師器とともに、牛か馬の歯と見られる獸齒



第 54 図 5 号墳平・断面図 (1/100)・出土遺物 (1/4)

の小破片 2 点もみられる。埴輪片は全く認められなかったことから、5 号墳は埴輪を有しなかったものとみられる。305 是周溝の底面に接して逆さの状態で出土した土器高杯の杯部である。脚部は出土しなかった。かなり磨滅が進んでいる。また、固化しなかったが、土器の底の脇部がある程度まとまった状態で出土しており、高杯と同様に埴丘から転落し破損した状況が想定できる。

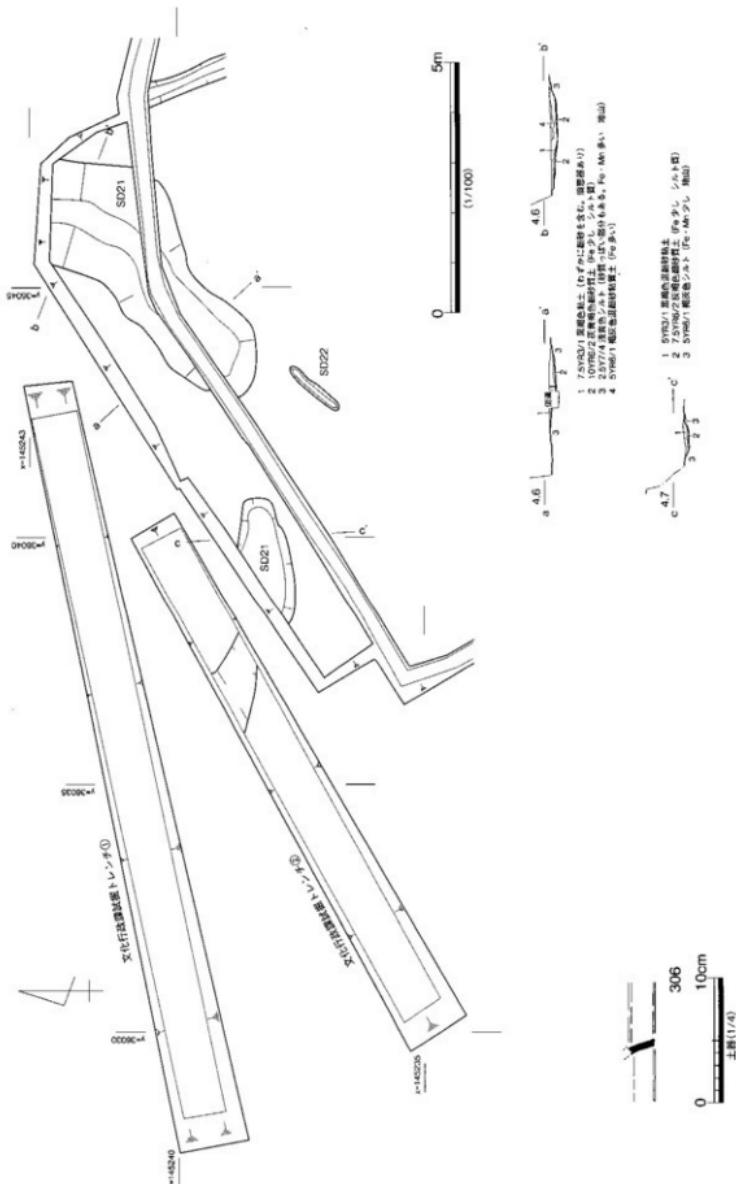
年代を比定できる資料は少ないが、高杯の年代観から 5 号墳は 5 世紀代に築造されたと位置付けられる。

## 6. 6 号墳 (第 55 図)

A 区の北西隅付近で埴丘部と周溝の一部を検出した。古墳の大部分は調査区外へ続いているが、試掘トレンチ①の結果から中世以降の削平で周溝すら残っていないことが判明している。埴丘部はベース層まで及ぶ著しい削平を被っており、埴丘の盛土は消失している。古墳は埴丘部の直径が 11 m の円墳と推定され、周囲には溝状遺構 (SD21) がめぐるが、南部で一部途切れている。周溝の底の高さは一定ではないため、削平が浅い部分にまで及んだとすれば本来は完周していた可能性もある。周溝は検出幅 0.8 ~ 2.3 m、深さ 0.1 m を測り、断面形状は浅い皿形を呈する。埋葬施設は調査区外のため不明であるが、削平のためおそらく消失していると思われる。

周溝からの出土遺物は小さな破片が数点出土したのみである。埴輪片が全く認められなかったことか

第55図 6号墳平・断面図 (1/100)・出土遺物 (1/4)



ら、6号墳も埴輪を有しなかったものとみられる。306は須恵器の杯蓋で、やや開き気味の口縁部で端部には小さな凹面をもつ。大阪の和泉陶邑窯編年のTK47型式の特徴に類するものと思われる。この1点で古墳の年代を確定させることは難しいが、現段階では6号墳を5世紀後半に位置付けておく。

## 7.まとめ

今回の調査によって、別宮北古墳群には5世紀中頃から末にかけての6つの円墳が属していることが明らかになった。この6つの円墳の中で中心となるのは、墳丘規模がひと回り大きい2号墳で、周溝を含めた規模は他の5つよりもさらに大きな印象を強くしている。墳丘上には円筒埴輪をめぐらし、北西部に設けられた造出には形象埴輪を立て並べて祭祀を行ったことが想定される。2号墳に継いでつくられたのが二重の周溝を有する1号墳である。墳丘上には円筒埴輪をめぐらせているが、形象埴輪の種類・量は2号墳に比べて極端に少ない。1号墳とほぼ同時期かやや遅れて3号墳が築造されるようである。3号墳は1号墳よりもさらに小型化しており、埴輪も認められなくなる。3号墳とほぼ同規模の4~6号墳は年代決定の根拠が弱く、築造順序を判断することはできないが、3号墳に続いてつくられたものであろう。3号墳以下に見られる古墳規模の縮小化や遺物の種類の減少化は、別宮古墳群を構成した造墓集団の勢力の減退を反映しているものと思われる。

### <参考文献>

- ・【黒道高松王越坂出線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 雄山古墳群】香川県教育委員会他 2000
- ・【中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 金泉寺遺跡・川端遺跡】徳島県教育委員会他 1999
- ・川西宏幸「円筒埴輪紹論」「考古学雑誌」64-2 日本国考古学会 1978
- ・赤塚次郎「円筒埴輪製作覚書」「古代学研究」90 古代学協会 1979
- ・「菖蒲谷西山A遺跡」「徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.3 1991年度」(財)徳島県埋蔵文化財センター 1992
- ・【同志社大学文学部考古学調査報告 第5冊 井辻八幡山古墳】同志社大学文学部文化学科 1972
- ・【立命館大学文学部学芸員課程研究報告 第2冊 喜谷東1号墳第2次発掘調査概報】立命館大学文学部 1989
- ・田近昭三「須恵器大成」角川書店 1981
- ・小林行雄「日本陶磁大系 第3巻 墓輪」平凡社 1990

# 觀 察 表

形象埴輪調査表 (1)

備考 番号 古墳名	種類	形態	色調	土	始	法	量	體	容	保存率	備考		
79 SK03 形象埴輪 人物影 不明	5YR7/6 罐	10YR7/6 10YR7/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(4.7)			無	板	張片	
93 B区包含 形象埴輪 人物影 不明	5YR6/6 罐	10YR7/6 10YR7/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(5.5)			無	板	埴物(人物を含め の手足)？	
188 1号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR6/6 罐	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	長(5.5)			有	板	埴片 「人」の一部が遺存 左半・中空・指+/-	
189 1号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR6/6 罐	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-				無	板	埴片 木	
190 1号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR6/6 罐	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-				無	板	埴片 豪形ないし人形の 姿	
191 1号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR6/6 罐	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・並	指+/- 指+/-				無	板	埴片 空窓上に桟柱・洞 目	
192 1号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	7.5YR6/6 7.5YR6/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・並	指+/- 指+/-				無	板	埴片 2ヶ所に平坦 面	
277 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	10YR8/4 10YR8/4 罐	10YR8/4 10YR8/4 中・並 人・物影	黑色 青色 黄色	无	多板 板・並 板・少	(2.3)				無	板	埴片 空窓かけ式次輪・ ベルトの表現	
278 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR7/6 7.5YR7/6 罐	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・並 人・物影	白・赤色粒	無閃石 漂母	多板 板・並 板・並	指+/- 指+/-	(28.7)	胸 (17.3)		無	板	埴片 腰掛・ベルトの 腰見	
279 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・並 人・物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(3.8)			無	板	埴片 左半・中空	
280 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	10YR8/3 10YR8/3 罐	10YR8/3 10YR8/3 中・並 人・物影	黑色 青色 黄色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(12.4)			無	板	埴片 左半を欠損	
281 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・並 人・物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・並	指+/- 指+/-	(10.0)			無	板	埴片 右半・中空・落指 以外を欠損	
282 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	5YR6/6 5YR6/6 中・並 人・物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(9.6)			無	板	埴片 右半を欠損する	
283 2号墳内周溝 形象埴輪 人物影 人物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・並 人・物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(9.2)			無	板	埴片 左半部分(下部)	
284 2号墳内周溝 形象埴輪 馬形 人物影	5YR7/4 5YR7/4 中・並 人・物影	1.5YR6/4 1.5YR6/4 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(21.8)			無	板	埴片 馬・器具を表 現	
285 2号墳内周溝 形象埴輪 馬形 人物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・並 人・物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-				無	板	埴片 馬・器具を表 現	
286 2号墳内周溝 形象埴輪 家形 人物影	7.5YR7/8 7.5YR7/8 中・多 人・物影	7.5YR7/8 7.5YR7/8 中・多 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(45.6)	(29.3)	29	0.9	板	埴片 切妻形・方形容あ り	
287 2号墳内周溝 形象埴輪 家形 人物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・多 人・物影	7.5YR7/6 7.5YR7/6 中・多 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(15.1)	(25.3)		9	無	板	
288 2号墳内周溝 形象埴輪 家形 人物影	5YR7/4 5YR7/4 中・並 人・物影	1.5YR6/4 1.5YR6/4 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(7.4)			9	無	板	
289 2号墳内周溝 形象埴輪 家形 人物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・多 人・物影	7.5YR8/4 7.5YR8/4 中・多 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(9.3)			8	無	板	
290 2号墳内周溝 形象埴輪 不明 罐	5YR7/6 5YR7/6 中・並 人・物影	5YR7/6 5YR7/6 中・並 人・物影	白色	无	多板 板・並 板・少	指+/- 指+/-	(11.9)			10	無	板	
													家形の一部?

## 形象埴輪觀察表 (2)

報告書名	種類	外觀	色調	土	法量	法量	備考				
報告書名	種類	外觀	内觀	石英、赤色粒 長石	赤色粒 角閃石 雲母 斜長石	口器 (cm) 高さ (cm)	内部 突起部 突起部 (cm) 高さ (cm)	外部 突起部 突起部 (cm) 高さ (cm)	内部 ケヘラ (cm) 高さ (cm)	外部 ケヘラ (cm) 高さ (cm)	備考
291 2号環形鑄 模	形象埴輪 不明	75YR8/6 浅黃色 75YR8/6 浅黃色	中・多 細・並			(8.1)					
292 2号環形鑄 模	形象埴輪 人物筆	5YR7/6 筆	細・少 細・並			(3.4)					
293 B区包含型 形象埴輪 人物筆	75YR8/6 浅黃色 5YR8/6 淺黃色	細・少 細・並				(3.0)					
294 B区包含型 形象埴輪 人物筆	75YR7/4 筆 1.43%鉛	細・並				(6.0)					
295 B区包含型 形象埴輪 馬形	75YR6/6 5YR6/6 筆	中・少 細・並				(15.6)					
296 B区包含型 形象埴輪 馬形	5YR6/6 筆	中・少 細・並									
297 B区包含型 形象埴輪 馬形	75YR7/6 75YR7/6 筆	細・少 細・並									
298 B区包含型 形象埴輪 馬形	75YR6/6 5YR6/6 筆	細・少 細・並				(7.8)					

## 円筒埴輪觀察表 (1)

報告書名	種類	外觀	色調	土	法量	法量	備考				
報告書名	種類	外觀	内觀	石英、赤色粒 長石	赤色粒 角閃石 雲母 斜長石	口器 (cm) 高さ (cm)	内部 突起部 突起部 (cm) 高さ (cm)	外部 突起部 突起部 (cm) 高さ (cm)	内部 ケヘラ (cm) 高さ (cm)	外部 ケヘラ (cm) 高さ (cm)	備考
132 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR6/6 筆	並	細・少		24.0	39.7	15.3	1.6	0.6	
133 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR6/6 筆	小・粗	中・並		19.1	43.4	13.8	1.6	0.6	
134 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	10YR4/4 10YR4/4 浅黃色	多・中 細			21.8	42.6	14.0	2.1	0.8	
135 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR5/8 筆	細・並	中・少		22.2	38.8	13.8	1.6	0.5	
136 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR7/6 筆	中・並	少		(30.6)	14.4		1.5	0.7	
137 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	75YR8/3 筆	少	中・並		(17.0)	14.3	1.8	0.5	0.5	
138 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	75YR8/6 筆	細・並			(24.3)	(13.4)	1.5	0.5	0.5	
139 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR5/8 筆	少	細・並		(12.4)	(14.0)	1.8	0.5	0.5	
140 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	25YR8/2 白	中・並			(12.7)	(15.0)	1.8	0.6	0.5	
141 1号輪形鑄 模	円筒埴輪	5YR7/6 筆	中・並			(8.1)	(14.4)		7	無	

## 円筒埴輪観察表 (2)

番号	古墳名	種類	色	調査面	内面	石長	石高	土	施	外寸	内寸	高さ	横幅	その他の寸法	空窓高さ(cm)	外部	内部	ハンドル(本数)	焼成率	残存率	参考
142	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR8/3 浅黄	5YR7/6 黒	基・赤色粒 12.5mm粒	中・並	細・少			(6.2)	(13.6)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	低部 1/8	外至に毛色顔料の痕跡
143	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/3 浅黄	基・赤色粒 12.5mm粒	中・並	細・少			(5.5)	(16.0)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	無	軟	低部 1/8	外至に毛色顔料の痕跡
144	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/3 浅黄	基・赤色粒 12.5mm粒	中・並	細・少			(8.6)	(15.8)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	8	無	軟	低部 1/8	底部に鐵か錫の圧板
145	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/3 浅黄	基・赤色粒 12.5mm粒	中・並	細・少			(2.9)					タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	低部 1/8	底部に鐵か錫の圧板
146	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 黄	3YR7/6 黄	基・赤色粒 12.5mm粒	中・並	細・少			(6.2)					タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	無	軟	低部 1/8	底部に鐵か錫の圧板
147	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	2.5YR7/1 黄	10YR2/4 白	10YR2/4 白	多・細・並				(26.8)	(16.0)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	5	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
148	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	10YR7/6 白	5YR6/6 黄	10YR7/6 白	多	細			(24.0)	(13.5)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	16	0.5	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
149	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/6 黄	5YR6/6 黄	10YR7/4 白	中・並	細・少			(22.0)	(18.1)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	17	0.5	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
150	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR8/6 黄	2.5YR7/6 中・並	10YR7/6 白	中・並	細・少			(23.2)	(11.7)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
151	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 黄	5YR7/6 黄	10YR7/6 白	中・並	細・少			(21.2)	(15.4)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	23	0.7	軟	口縁部 1/8	4段目にヘラ記号
152	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR6/6 黄	5YR6/6 黄	10YR7/2 白	多・細・並	細・少			(25.0)	(9.3)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
153	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/4 黄	10YR7/4 白	10YR7/2 白	中・並	細・少			(23.0)	(9.7)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	有	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
154	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR6/6 黄	5YR6/6 黄	10YR7/3 白	中・並	細・少			(24.0)	(6.4)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	硬	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
155	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 白	10YR8/3 白	10YR8/3 白	中・並	細・少			(23.6)	(6.7)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	4	無	硬	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
156	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 黄	7.5YR7/6 黄	10YR7/6 白	中・並	細・少			(23.2)	(7.3)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
157	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 黄	5YR7/6 黄	10YR7/6 白	中・並	細・少			(22.2)	(8.2)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
158	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	2.5YR8/3 黄	2.5YR8/3 黄	10YR7/6 白	中・並	細・少			(19.0)	(5.7)				タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦
159	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/6 黄	7.5YR7/6 黄	10YR7/6 白	中・並	細・少			(5.3)					タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	無	軟	口縁部 1/8	外至にヘラ記号か?
160	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	1.5YR7/4 黄	5YR6/6 黄	10YR7/4 白	中・並	細・少							タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦	
161	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR6/6 黄	5YR6/6 黄	10YR8/3 白	中・並	細・少							タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	無	軟	口縁部 1/8	外至に鉛瓦	
162	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 白	7.5YR7/4 黄	10YR8/3 白	中・並	細・少							タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	有	軟	破片		
163	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/6 黄	7.5YR7/6 黄	10YR8/3 白	中・並	細・少							タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	6	有	軟	破片		
164	1号墳の周溝 内側埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 黄	5YR6/6 黄	10YR8/3 白	中・並	細・少							タリフ・ 横テラ	指付1・ 横テラ	7	無	軟	破片		

円筒埴輪観察表 (3)

編文 番号	報告 種類	外觀	内面	石 瓦	土	鉢	口 径 (cm)	器 高 (cm)	底 径 (cm)	その他の 突起部 (cm)	突起部 (cm)	外形 (cm)	内部 (cm)	ハ イ カ ヘ タ ル (本 記号 (cm))	焼成 温度	撰 考
165	1号壇内陶器 円筒埴輪	75YR7/6 5YR6/6	25YR8/4 15YR7/4 1.5cm	赤色 鉢	中・並					1.7	0.5	17x11 18.5x11	1.6	17x11 7	無	鐵片
166	1号壇内陶器 円筒埴輪	5YR6/6	15YR7/4 1.5cm	鉢	中・並					2.5	0.6	17x11 18.5x11	1.6	17x11 7	無	鐵片
167	1号壇内陶器 円筒埴輪	10YR8/2	10YR8/2	鉢	中・並					1.8	0.5	17x11 18.5x11	1.6	17x11 6	無	鐵片
168	1号壇内陶器 円筒埴輪	5YR7/6	75YR8/4 1.5cm	鉢	中・並					1.6	0.6	17x11 19.8x11	1.6	17x11 6	無	鐵片
169	1号壇内陶器 円筒埴輪	75YR8/2 1.5cm	5YR8/4 1.5cm	鉢	中・並					2.4	0.9	17x11 19.8x11	1.7	17x11 8	無	鐵片
170	1号壇内陶器 円筒埴輪	5YR7/6	5YR6/6	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 —	無	鐵片
171	1号壇内陶器 円筒埴輪	25YR8/2 1.5cm	10YR7/3 1.5cm	鉢	中・並					1.6	0.6	17x11 19.8x11	1.6	17x11 7	有	鐵片
172	1号壇内陶器 円筒埴輪	5YR7/8	75YR8/6 1.5cm	鉢	中・並					1.6	0.6	17x11 19.8x11	1.6	17x11 5	有	鐵片
173	1号壇内陶器 円筒埴輪	75YR7/4 1.5cm	5YR7/4 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 6	有	鐵片
174	1号壇内陶器 円筒埴輪	10YR8/2 1.5cm	10YR7/6 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 7	有	鐵片
175	1号壇内陶器 円筒埴輪	25YR7/6	25YR7/2 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 7	有	鐵片
176	1号壇内陶器 円筒埴輪	5YR6/6	5YR6/6	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 5	有	鐵片
177	1号壇内陶器 円筒埴輪	10YR8/4 1.5cm	10YR8/3 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 7	有	鐵片
178	1号壇内陶器 円筒埴輪	25YR6/6 1.5cm	25YR6/6 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 6	有	鐵片
179	1号壇内陶器 新規形埴輪	10YR8/3	10YR8/3	鉢	中・並					2.3	0.8	17x11 19.8x11	2.3	17x11 6	無	口音器 1/8
180	1号壇内陶器 新規形埴輪	5YR7/6	5YR7/6	鉢	中・並					3.6	0.3	17x11 19.8x11	3.6	17x11 7	無	鐵片
181	1号壇内陶器 新規形埴輪	10YR8/3	10YR8/4 2.5cm	鉢	中・並					2.4	0.8	17x11 19.8x11	2.4	17x11 6	無	口音器 1/8
182	1号壇内陶器 新規形埴輪	25YR6/6	25YR6/6 1.5cm	鉢	中・並					2.5	0.8	17x11 19.8x11	2.5	17x11 6	無	口音器 1/8
183	1号壇内陶器 新規形埴輪	25YR6/8	25YR5/6 1.5cm	鉢	中・並					2.2	0.8	17x11 19.8x11	2.2	17x11 6	無	口音器 1/8
184	1号壇内陶器 新規形埴輪	25YR7/6	25YR7/4 1.5cm	鉢	中・並					1.8	0.6	17x11 19.8x11	1.8	17x11 7	無	鐵片
185	1号壇内陶器 新規形埴輪	75YR7/4 1.5cm	75YR7/4 1.5cm	鉢	中・並					1.3	0.6	17x11 19.8x11	1.3	17x11 7	無	鐵片
186	1号壇内陶器 新規形埴輪	10YR7/3	25YR8/2 1.5cm	鉢	中・並					1.4	0.7	17x11 19.8x11	1.4	17x11 7	無	鐵片
187	1号壇内陶器 新規形埴輪	75YR7/4	10YR8/2 1.5cm	鉢	中・並					1.7	0.6	17x11 19.8x11	1.7	17x11 5	無	鐵片

円筒埴輪観察表（4）

報文 番号	組 番	古道名	種類	色			土			注			調 査 部	備 考	
				外面	内面	石 英石	赤色粒 角閃石	紫母 石	砂粒	口 (cm)	溝 (cm)	高 度 (cm)	その他の 特徴	密 度 (cm)	焼成 操作率
220	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R7/4-5)R7/4 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	小・細	多	砂粒	22.3	36.7	13.1	20	0.8 幅+・ 幅+・ 幅+・	軟
221	2号埴輪	深黄釉	7.5(R8/6-5)R8/6 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(31.2)	14.0	20	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	軟	
222	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/3-5)R8/3 1.5×1.5	中・赤	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(31.2)	12.5	20	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	軟	
223	2号埴輪	円筒埴輪	5(R7/6-7.5)R7/4 1.5×1.5	白	白	無	立・細	少	砂粒	(24.2)	15.0	20	0.6 幅+・ 幅+・ 幅+・	軟	
224	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/2-10)R8/4 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(14.9)	14.2	20	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 所詮 底部分 底部分	
225	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/3-5)R8/3 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(14.4)	14.4	18	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
226	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/6-5)R8/6 1.5×1.5	白	白	無	立・細	少	砂粒	(17.5)	13.0	17	0.6 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
227	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/4-5)R8/4 1.5×1.5	白	白	無	立・細	少	砂粒	(18.2)	13.0	22	0.55 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
228	2号埴輪	円筒埴輪	5(R8/3-5)R8/3 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(15.2)	12.6	17	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
229	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/4-10)R8/6 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・細	少	砂粒	(11.9)	14.0	1.6	0.6 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
230	2号埴輪	円筒埴輪	25(Y7/2-25)Y7/2 1.5×1.5	白	白	無	立・粗	少	砂粒	(12.8)	14.2	1.9	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
231	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/6-10)R8/6 1.5×1.5	中・赤	中・赤	無	立・粗	少	砂粒	(12.8)	14.5	2.2	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
232	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/4-10)R8/4 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・粗	少	砂粒	(15.8)	12.6	1.7	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
233	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R7/4-7.5)R7/4 1.5×1.5	白	白	無	立・粗	少	砂粒	(14.8)	13.5	1.8	0.6 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
234	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/3-10)R8/3 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・粗	少	砂粒	(11.4)	14.4	1.8	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
235	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/4-10)R8/4 1.5×1.5	赤・白	赤・白	無	立・粗	少	砂粒	(12.6)	12.4	2.1	0.7 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
236	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/4-7.5)R8/4 1.5×1.5	中・赤	中・赤	無	立・粗	少	砂粒	(4.6)	16.0	3.0	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
237	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/4-7.5)R8/4 1.5×1.5	白	白	無	立・粗	少	砂粒	(7.1)	13.6	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分		
238	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R7/6-15)R8/6 1.5×1.5	浅黄	浅黄	中	立・細	多	砂粒	(6.0)	13.9	9.18	0.7 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
239	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/3-10)R8/3 1.5×1.5	浅黄	浅黄	中	立・細	少	砂粒	(9.1)	14.0	11	無	硬 底部分 底部分	
240	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/3-10)R8/3 1.5×1.5	浅黄	浅黄	中	立	少	砂粒	(6.5)	12.2	7.7	0.5 幅+・ 幅+・ 幅+・	硬 底部分 底部分	
241	2号埴輪	円筒埴輪	7.5(R8/3-10)R8/3 1.5×1.5	浅黄	浅黄	中	立・細	少	砂粒	(5.7)	13.8	8	無	硬 底部分 底部分	
242	2号埴輪	円筒埴輪	10(R8/2-10)R8/2 1.5×1.5	赤白	赤白	中	立	少	砂粒	(6.4)	12.8	4	無	硬 底部分 底部分	

円筒埴輪観察表 (5)

編文 番号	告白名 /古墳名	種類	外側 内面	色 裏	石 英石 角 閃 石 斜 長 石 雲 母 砂 粒	高さ (cm)	口径 (cm)	底 端 高さ (cm)	底 端 幅 (cm)	外端 高さ (cm)	外端 幅 (cm)	内部 高さ (cm)	内部 幅 (cm)	ハ ケ ヘ ラ ク (本 体 幅 (cm))	焼 成 度 無 底 部 底 部 周 囲 り	保存 状 態	
243	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	75YR8/4 5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・少	(5.3) (3.8)				14.5 14.0			5	無	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り	
244	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	75YR8/4 5YR7/6 土・粘・多	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・多	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・多	(6.5) (4.0)				14.0			4	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
245	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 土・粘・少	(6.5) (4.0)				14.0			4	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
246	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・質體 土・粘・質體	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・中・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・中・少	(24.5) (23.0)				23.0			11	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
247	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR7/1 10YR7/1 土・粘・少	10YR7/1 10YR7/1 土・粘・少	10YR7/1 10YR7/1 土・粘・少	(24.2) (13.9)				13.9			5	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
248	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/4 10YR8/4 土・粘・少	10YR8/4 10YR8/4 土・粘・少	(24.4) (11.9)				11.9			3	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
249	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	(23.0) (7.0)				7.0			7	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
250	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	(11.0) (6.1)				6.1			8	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
251	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	(19.9) (15.6)				15.6			7	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
252	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	75YR8/6 75YR8/6 土・粘・少	75YR8/6 75YR8/6 土・粘・少	75YR8/6 75YR8/6 土・粘・少	(21.0) (14.0)				14.0			12	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
253	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	(20.6) (8.1)				8.1			11	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
254	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	2.5YR8/2 2.5YR8/2 土・粘・少	2.5YR8/2 2.5YR8/2 土・粘・少	2.5YR8/2 2.5YR8/2 土・粘・少	(20.0) (8.2)				8.2			5	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
255	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	(23.0) (9.3)				9.3			11	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
256	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	75YR7/4 75YR7/4 土・粘・少	75YR7/4 75YR7/4 土・粘・少	75YR7/4 75YR7/4 土・粘・少	(4.7)							9	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
257	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	10YR7/4 10YR7/4 土・粘・少	(6.3) (7.5)				7.5			12	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
258	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/3 7.5YR7/3 土・粘・少	7.5YR7/3 7.5YR7/3 土・粘・少	7.5YR7/3 7.5YR7/3 土・粘・少	(1.7) (1.6)				1.6			8	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
259	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	(6.3) (7.5)				7.5			8	有	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
260	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	7.5YR7/4 7.5YR7/4 土・粘・少	(1.7) (1.6)				1.6			11	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
261	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	7.5YR8/4 7.5YR8/4 土・粘・少	7.5YR8/4 7.5YR8/4 土・粘・少	7.5YR8/4 7.5YR8/4 土・粘・少	(1.7) (1.6)				1.6			11	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
262	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	5YR7/2 5YR7/2 土・粘・少	5YR7/2 5YR7/2 土・粘・少	5YR7/2 5YR7/2 土・粘・少	(1.64)				1.64			11	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
263	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・少	5YR7/6 5YR7/6 土・粘・少	(8.8)				8.8			11	無	軟	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
264	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	(1.30) (0.7)				0.7			9	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り
265	2号埴輪 円筒埴輪	円筒埴輪	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	10YR8/3 10YR8/3 土・粘・少	(0.7)				0.7			5	無	硬	底部 底部 周囲 に剥離 り	底部 底部 周囲 に剥離 り

## 円筒埴輪観察表 (6)

規文 番号	古墳名	種類	色調	土	注記						調査 員	備考							
					外側	内面	石長	赤色斑	青色斑	口徑 (cm)	高さ (cm)	その他の 特徴	変形部 突起高さ (cm)	外部	内部	ハ ケ (cm)	ヘラ 記号 (cm)	焼成 度	純率
266	2号墳周塗	円筒埴輪	5VR7/6 75VR8/4 淡黄褐色	盤	多・細	多・粗	石英石	赤色斑	多・細	14.4	20.0	8.6 1.5cm	1.3cm 1.3cm	指サ+	指サ+	8	有	軟	板片
267	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR7/4 5VR8/4 淡黄褐色	盤	並・細	並・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	11	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
268	2号墳周塗	輪郭形埴輪	5VR6/6 75VR7/4 淡黄褐色	盤	並・細	並・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	5	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
269	2号墳周塗	輪郭形埴輪	2SY8/3 2SY8/3 淡黄褐色	盤	多・細	多・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	5	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
270	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR8/4 5VR8/4 淡黄褐色	盤	多・細	多・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	7	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
271	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR7/6 5VR8/4 淡黄褐色	盤	多・細	多・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	7	無	硬	板片 1.5cm 1.5cm
272	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR8/6 5VR8/6 淡黄褐色	盤	中・細	中・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	7	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
273	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR7/6 5VR8/6 淡黄褐色	盤	多・細	多・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	10	無	硬	板片 1.5cm 1.5cm
274	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR8/5 5VR8/6 淡黄褐色	盤	中・細	中・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	6	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
275	2号墳周塗	輪郭形埴輪	7.5VR7/6 5VR8/3 淡黄褐色	盤	中・細	中・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	10	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
276	2号墳周塗	輪郭形埴輪	5VR7/6 10VR8/4 淡黄褐色	盤	多・細	多・細	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	6	無	軟	板片 1.5cm 1.5cm
299	B区包含層	円筒埴輪	5VR6/6 5VR6/6 淡黄褐色	盤	多	多	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	7	有	軟	板片 1.5cm 1.5cm
300	B区包含層	円筒埴輪	7.5VR6/6 5VR6/6 淡黄褐色	盤	中・粗	中・粗	1.5cm	黑色 斑	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	1.5cm 1.5cm	7.7	有	軟	板片 1.5cm 1.5cm

土器觀察表 (1)

編文 番号	告 別 名	種類	器形	色	調 査	調 査	量		備 考	
							外 面	内 面	石英 岩	
1	S801 (SP157)	土師器	小皿	10YR6/2 10YR8/3 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・多	細・少	6.7	1.1 (6.3)	口縁部 底部 底部 底部 底部
2	S801 (SP157)	土師器	皿	25YR8/2 25YR8/2 10YR6/2 10YR6/2	中・少	中・多	砂・少	(1.0)	2.6 6.4	口縫部 底部 底部 底部 底部
3	S801 (SP160)	土師器	小皿	75YR7/6 75YR7/6 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・少	6.7	1.1 (6.7)	口縫部 底部 底部 底部 底部
4	S801 (SP160)	土師器	杯	10YR8/2 10YR8/3 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	細・少	中・少	細・少	(6.6)	2.8 (6.1)	口縫部 底部 底部 底部 底部
5	S801 (SP160)	土師器	杯	10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1	中・少	中・少	細・少	6.6	2.8 (6.1)	口縫部 底部 底部 底部 底部
6	S801 (SP160)	土師器	杯	75YR6/8 75YR7/8 75YR8/3 75YR8/3 75YR8/3	中・少	中・少	砂・少	(1.0)	2.7 2.7 1.5 1.5 1.5	口縫部 底部 底部 底部 底部
7	S801 (SP168)	土師器	小皿	10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4	中・少	中・少	細・少	7.0	1.5 (6.5)	口縫部 底部 底部 底部 底部
8	S801 (SP183)	土師器	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・少	6.6	1.2 (6.2)	口縫部 底部 底部 底部 底部
9	S801 (SP183)	土師器	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・少	6.3	2.0 (6.1)	口縫部 底部 底部 底部 底部
10	S801 (SP183)	土師器	小皿	5YR6/8 5YR6/8 5YR6/8 5YR6/8 5YR6/8	中・少	中・少	細・多	6.3	1.3 (6.1)	口縫部 底部 底部 底部 底部
11	S801 (SP183)	土師器	杯	10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3	中・少	中・少	細・少	10.7	2.8 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
12	S801 (SP183)	土師器	杯	10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3 10YR8/3	中・少	中・少	細・少	6.0	0.9 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
13	S801 (SP183)	土師器	土釜	75YR6/4 75YR6/4 75YR6/4 75YR6/4 75YR6/4	中・少	中・少	細・多	6.5	0.9 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
14	S801 (SP201)	土師器	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・多	6.8	1.1 (6.2)	口縫部 底部 底部 底部 底部
15	S801 (SP201)	土師器	杯	75YR8/6 75YR8/6 75YR8/6 75YR8/6 75YR8/6	中・少	中・少	細・少	10.2	2.5 (6.6)	口縫部 底部 底部 底部 底部
16	S801 (SP204)	土師器	小皿	10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4	中・少	中・少	細・少	6.0	0.9 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
17	S802 (S867)	土師器	小皿	75YR8/3 75YR8/3 75YR8/3 75YR8/3 75YR8/3	中・少	中・少	細・多	6.5	0.9 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
18	S802 (S867)	土師器	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・多	6.3	1.1 (6.3)	口縫部 底部 底部 底部 底部
19	S802 (S867)	土師器	杯	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	中・少	中・少	細・少	6.7	2.4 (6.7)	口縫部 底部 底部 底部 底部
20	S802 (S867)	土師器	杯	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	中・少	中・少	細・少	6.7	2.3 (6.4)	口縫部 底部 底部 底部 底部
21	S802 (S867)	土師器	杯	5YR7/8 5YR7/8 5YR7/8 5YR7/8 5YR7/8	中・少	中・少	細・少	10.2	2.8 (5.8)	口縫部 底部 底部 底部 底部
22	S802 (S867)	瓦器	碗	NA/Y NA/Y NA/Y NA/Y NA/Y	中・少	中・少	細・少	10.2	2.8 (5.8)	口縫部 底部 底部 底部 底部
23	S802 (S867)	土師器	碗	75YR6/1 75YR6/1 75YR6/1 75YR6/1 75YR6/1	中・少	中・少	細・少	6.6	2.8 (6.6)	口縫部 底部 底部 底部 底部

土器觀察表(2)

編 号 書 名 /古 墳 名	性 質	器 種	色 調	内 面	石 英 長 石 赤 色	角 閃 石 白 色	器 母	移 栓	口 徑 (cm)	透 視 鏡 高 度 (cm)	透 視 鏡 深 度 (cm)	透 視 鏡 その他の 寸 法 (cm)	外 部	内 部	残 存 率	備 考	
24 SP02 (SP76) 土師器 小皿 10YR8/2 10YR7/2 7.5YR7/2 15YR6/2 鋼錫鉢 底白	小皿	10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	中・少	6.5	1.1	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	7.8	口縁部・板状圧痕あり
25 SP02 (SP81) 土師器 小皿 10YR7/2 10YR7/2 鋼錫鉢 底白	小皿	10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	中・少	6.3	0.9	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	板状圧痕あり
26 SP02 (SP81) 土師器 杯 10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	杯	10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	中・少	(10.0)	2.3	(4.4)				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	口縁部・板状圧痕あり
27 SP02 (SP81) 土師器 杯 10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	杯	10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	中・少	(12.5)						回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	口縁部・板状圧痕あり
28 SP02 (SP81) 土師器 杯 10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	杯	10YR8/1 10YR8/3 鋼錫鉢 底白	中・少	(10.6)						回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	3.6	口縁部・板状圧痕あり
29 SP02(SP135) 土師器 小皿 底白	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/6 15YR8/6 銀製盤 底白	中・並	6.5	1.0	4.7				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
30 SP02(SP135) 土師器 杯 10YR8/6 15YR8/6 銀製盤 底白	杯	10YR8/2 10YR8/3 銀製盤 底白	中・並	6.5	1.0	4.7				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
31 SP02 (SK05) 土師器 足盤 10YR8/2 10YR8/3 中・並	足盤	10YR8/2 10YR8/3 中・並	中・並	6.5	1.0	4.7				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	4.6	口縁部・外側鋸歯以下に煤、炭化物が付着
32 SP02 (SK05) 土師器 小皿 底白	小皿	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・并	6.5	0.7	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
33 SP02 (SK05) 土師器 小皿 10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	小皿	10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・並	6.0	0.8	6.5				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	3.6	口縁部・板状圧痕あり
34 SP02 (SK05) 土師器 小皿 2.5YR6/8 15YR6/8 銀製盤 底白	小皿	2.5YR6/8 15YR6/8 銀製盤 底白	中・少	6.4	1.1	6.2				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	口縁部・板状圧痕あり
35 SP02 (SK05) 土師器 杯 10YR8/2 10YR8/2 底白	杯	10YR8/2 10YR8/2 底白	中・并	6.5	1.2	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	口縁部・板状圧痕あり
36 SP02 (SK05) 土師器 杯 2.5YR6/8 15YR6/8 銀製盤 底白	杯	2.5YR6/8 15YR6/8 銀製盤 底白	中・并	6.5	1.2	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	4.6	板状圧痕あり
37 SP50 土師器 杯 10YR8/8 10YR8/8 銀製盤 底白	杯	10YR8/8 10YR8/8 銀製盤 底白	中・少	(10.2)	2.2	(6.5)				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	口縁部・諸部が温む
38 SP57 土師器 杯 10YR8/3 10YR8/4 銀製盤 底白	杯	10YR8/3 10YR8/4 銀製盤 底白	中・少	(11.4)						回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	3.6	口縁部・板状圧痕あり
39 SP61 土師器 小皿 底白	小皿	10YR8/2 10YR8/2 底白	中・少	(9.3)	2.9	(4.2)				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	口縁部・板状圧痕あり
40 SP61 土師器 杯 10YR8/2 10YR8/2 銀製盤 底白	杯	10YR8/2 10YR8/2 銀製盤 底白	中・少	(6.8)	1.2	6.2				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
41 SP61 漆器器 壺 Nf/灰	壺	Nf/灰	中・少	(25.0)						回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	1.8	口縁部・板状圧痕あり
42 SP66 土師器 小皿 10YR7/3 10YR8/3 銀製盤 底白	小皿	10YR7/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・多	6.2	0.7	5.2				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	8.8	完形品・板状圧痕あり
43 SP70 土師器 小皿 10YR7/2 10YR8/2 銀製盤 底白	小皿	10YR7/2 10YR8/2 銀製盤 底白	中・少	6.3	0.8	6.0				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	5.6	板状圧痕あり
44 SP82 土師器 小皿 10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	小皿	10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・少	(6.1)	0.9	(5.6)				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
45 SP83 土師器 小皿 10YR8/2 10YR8/2 銀製盤 底白	小皿	10YR8/2 10YR8/2 銀製盤 底白	中・少	(7.0)	1.3	(6.8)				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	2.8	板状圧痕あり
46 SP91 素生土器 壺 10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	壺	10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・多	(12.7)						横形	横形	横形	横形	横形	横形	2.8	口縁部・内縁部・ハラカリ・凹部・縦部・横部
47 SP96 土師器 小皿 10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	小皿	10YR8/3 10YR8/3 銀製盤 底白	中・多	6.6	1.2	5.4				回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	回転形	8.8	完形品

## 土器調査表 (3)

報文 番号	報告書 古墳名	種類	容積	色 調	外面 内面	石 瓦 瓦	赤色 灰白 灰	施 工	角閃石 雲母 砂粒	□ 深 度 (cm)	層 高 (cm)	法 量 (cm)	量 その他の 寸法 (cm)	調 整			現存率	備 考
														外 部	内 部	内 部		
48	SP96	瓦器	輪	N3/暗灰 N4/灰 N4/暗灰 N3/灰 N3/灰	5YR6/8 10YR2/2					相・少	(13.2)			(持付) -(持付) -(持付)	-(持付) -(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	1/8	総底が窓か (板状窓か)
49	SP99	土師器	小皿	7.5YR8/8 7.5YR7/8	中・足	施・並	中・少	(6.6)	1.0	(4.7)					口縁部 口縁部 口縁部	口縁部 口縁部 口縁部	3/8	総底が窓か (板状窓か)
50	SP103	土師器	杯	7.5YR6/3 7.5YR6/3 7.5YR5/1 7.5YR5/1	施・並	中・少	(11.0)	3.1	6.6					-(持付) -(持付) -(持付)	-(持付) -(持付) -(持付)	7/8	総底が窓か (板状窓か)	
51	SP114	土師器	皿	7.5YR6/1 7.5YR6/1 7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(10.1)	3.3	6.1					-(持付) -(持付) -(持付)	-(持付) -(持付) -(持付)	8/8	完形品・板状窓あり	
52	SP132	須恵器	こね缺	N7.5YR6/1 N7.5YR6/1	中・少									-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	口縁部 口縁部	8/8	完形品・板状窓あり
53	SP177	土師器	小皿	7.5YR7/8 7.5YR7/8	施・並	中・少	(6.4)	1.2	5.2					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	8/8	完形品・板状窓あり	
54	SP192	土師器	小皿	7.5YR6/8 10YR6/1 7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(5.8)	1.3	6.0					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	7/8	完形品・板状窓あり	
55	SP199	土師器	杯	10YR8/2 10YR8/2 7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(10.8)	2.7	(5.0)					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	3/8	板状窓あり	
56	SP199	土師器	杯	7.5YR8/2 7.5YR8/2 7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(11.2)	2.7	(7.0)					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	3/8	板状窓あり	
57	SP199	土師器	杯	10YR8/3 10YR8/3 7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(10.3)	3.3	(6.0)					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	4/8	板状窓あり	
58	SP199	須恵器	輪	7.5YR6/1 7.5YR6/1	施・並	中・少	(12.0)							-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	5/8	西村産か	
59	SP199	土師器	足盤	10YR6/4 10YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR6/4	施・並	中・少	(22.3)							-(持付) -(持付) -(持付) -(持付)	-(持付) -(持付) -(持付) -(持付)	1/8	ハケメは無い・外縁部以下に盛り付け着	
60	SP199	土師器	土蓋	5YR7/8 5YR7/8	施	周・少								-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	8/8	外縁部以下に盛り付け着	
61	SP206	土師器	輪	7.5YR6/4 10YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR6/4	中・多	中・並	中・多							合持付 合持付 合持付 合持付	合持付 合持付 合持付 合持付	8/8	合持付と内面に嵌が付着	
62	SP222	土師器	小皿	10YR8/3 10YR8/3 7.5YR6/4 7.5YR6/4	施・並	中・少	(7.4)	0.9	7.2					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	8/8	完形品・板状窓あり	
63	SP232	土師器	小皿	2.5YR6/1 2.5YR6/1 5YR1/1 5YR1/1	施・並	中・少	(6.0)	1.1	4.9					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	7/8	口縁部 口縁部 口縁部 口縁部 付着	
64	SP232	土師器	小皿	10YR6/2 10YR6/2 7.5YR6/4 7.5YR6/4	施・並	中・多	(8.2)	0.7	6.2					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	5/8	口縁部	
65	SP232	土師器	杯	7.5YR6/4 7.5YR6/4	中・多	施・多	(8.2)	2.4	(6.8)					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	8/8	板状窓あり	
66	SP287	土師器	杯	10YR8/1 10YR8/1	施・並	中・少	(11.0)	2.7	2.6					-(持付) -(持付)	-(持付) -(持付)	3/8	板状窓あり	

## 土器観察表 (4)

番号	報告書名	種類	特徴	色	調査	施土	土	外觀	内面	表面	角閃石	赤色粒	赤色粒	砂母	砂粒	口径 (cm)	径高 (cm)	注記 (cm)	注記 (cm)	内部	調査	備考
67	SP254	土師器	小皿 7.5YR8/4 7.5YR4/1 褐色	灰 浅白 7.5YR6/3 7.5YR3/3 褐色																全様 8.8	完形品・板状直角あり	
68	SP310	原毛器	碗 NS/灰 NS/灰	NS/灰 7.5YR4/1 7.5YR3/3 褐色																底板 3.8	底板が落ちる	
69	S008	土師器	土瓶 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																外側 2.8	外側に深い溝がある	
71	SK02	土師器	小皿 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
72	SK02	土師器	小皿 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
73	SK02	土師器	小皿 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
74	SK02	土師器	小皿 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	完形品・板状直角あり	
75	SK02	土師器	小皿 1.5YR3/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
76	SK02	土師器	灰 1.5YR8/1 褐色	灰 灰白 7.5YR8/2 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
77	SK02	土師器	蓋台 1.5YR7/6 褐色	灰 灰白 7.5YR7/6 7.5YR3/2 褐色																蓋部 2.8	蓋部	
78	SK02	土師器	土釜 1.5YR6/3 褐色	灰 灰白 7.5YR6/3 7.5YR2/2 褐色	印・多 少	印・少	口縁部 2.8	外側以下に黒い跡がある														
80	SK04	土師器	小皿 1.5YR7/6 褐色	灰 灰白 7.5YR7/6 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	板状直角あり	
81	SK07	土師器	小皿 1.5YR8/3 褐色	灰 灰白 7.5YR8/3 7.5YR3/2 褐色																会合 8.8	完形品・板状直角あり	
82	SK09	土師器	小皿 1.5YR8/6 褐色	灰 灰白 7.5YR8/6 7.5YR3/2 褐色																口縁部 2.8	全体に善波が進む	
83	SK12	須先器	灰 NS/灰	灰 灰白 7.5YR6/6 7.5YR3/2 褐色																縫合部 2.8	縫合部	
85	B 区合器	弦生土器	差 1.5YR6/6 褐色	灰 灰白 7.5YR6/6 7.5YR3/2 褐色	中・並 少	縫合部 2.8	縫合部 3 条															
86	A 区合器	弦生土器	差 1.5YR7/4 褐色	灰 灰白 7.5YR7/4 7.5YR3/2 褐色	中・並 少	口縁部 2.8	全体的に善波が密しい															
87	A 区合器	弦生土器	差 1.5YR6/3 褐色	灰 灰白 7.5YR6/3 7.5YR3/2 褐色	中・並 少	口縁部 2.8	全体的に善波が密しい															
88	A 区合器	弦生土器	差 1.5YR6/6 褐色	灰 灰白 7.5YR6/6 7.5YR3/2 褐色	多 少	口縁部 2.8	口縁部 3 条															
89	B 区合器	弦生土器	差 1.5YR6/6 褐色	灰 灰白 7.5YR6/6 7.5YR3/2 褐色	中・並 少	口縁部 2.8	口縁部 3 条															
90	A 区合器	弦生土器	差 1.5YR6/6 褐色	灰 灰白 7.5YR6/6 7.5YR3/2 褐色	中・並 少	口縁部 2.8	縫合部 3 条															

土器観察表 (5)

観察者 / 古墳名		種類		色調		石英、赤色粒	粘土	砂粒	口径 (cm)	高さ (cm)	径 (cm)	その他の特徴	調査	特殊率	備考	
番号	区画	外面	内面	表面	底面				(1.2)	(1.2)	(1.2)					
91	B 区包含層	須磨器	杆縫	SP96/1 青灰	N7/灰				中・多			口縫部、周縫部	口縫部、周縫部	1/8	1号墳内回廊 (S003) からの泥入人頭	
92	A 区包含層	須磨器	杆縫	N7/灰	N7/灰				細・少			口縫部、周縫部	口縫部、周縫部	1/8	口縫部	
94	B 区包含層	土師器	小皿	10YR8/2 灰白	N7/灰				中・少	6.8	1.0	5.3	口縫部、周縫部	口縫部	7/8	板状圧痕あり
95	B 区包含層	土師器	杯	7.5YR8/3 浅黄褐色	N7/灰				中・多	10.6	2.5	6.0	口縫部、周縫部	口縫部、周縫部	4/8	板状圧痕あり
96	B 区包含層	土師器	杯	10YR8/2 灰白	N7/灰				中・多	10.0	2.6	6.2	口縫部、周縫部	口縫部	3/8	板状圧痕あり
97	B 区包含層	土師器	杯	7.5YR8/2 灰白	N7/灰				中・少	10.2	2.7	5.8	口縫部、周縫部	口縫部	8/8	板状圧痕あり・底部に黒斑あり
98	B 区包含層	土師器	杯	10YR8/3 深黄褐色	10YR8/3 深黄褐色				中・少	11.0	3.0	7.5	口縫部、周縫部	口縫部	6/8	板状圧痕あり
99	B 区包含層	土師器	杯	7.5YR8/2 深黄褐色	10YR8/3 深黄褐色				中・少	10.4	2.5	6.3	口縫部、周縫部	口縫部	5/8	板状圧痕あり
100	B 区包含層	土師器	小皿	7.5YR8/4 浅黄褐色	5YR8/4 浅黄褐色				中・少	5.9	1.1	5.2	口縫部、周縫部	口縫部	8/8	完全品・板状圧痕あり
101	A 区包含層	土師器	小皿	7.5YR8/6 灰	7.5YR8/6 灰				中・少	6.8	0.8	6.1	口縫部、周縫部	口縫部	7/8	板状圧痕あり
102	B 区包含層	土師器	杯	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白				中・少	10.0		(6.9)	口縫部、周縫部	口縫部	3/8	全体削減が著しい
103	B 区包含層	土師器	杯	7.5YR8/4 浅黄褐色	5YR8/6 浅黄褐色				中・少	11.0	2.69	7.0	口縫部、周縫部	口縫部	7/8	板状圧痕あり
104	B 区包含層	土師器	杯	10YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白				中・少	10.4	2.45	6.1	口縫部、周縫部	口縫部	8/8	板状圧痕あり
105	B 区包含層	土師器	台付杯	7.5YR8/2 灰白	N7/灰				中・少	11.2	3.7	(8.1)	口縫部、周縫部	口縫部	4/8	板状圧痕あり
106	B 区包含層	青瓷	杯 (皿)	5Y5/2 青	5Y5/2 青			無				無	口縫部、周縫部	口縫部	7/8	板状圧痕あり
107	A 区包含層	青瓷	碗	5CY7/1 青	5Y7/1 青				細・少			4.4	口縫部、周縫部	口縫部	4/8	内面裏込みに捺刷記文・越州窓窓?
108	B 区包含層	白瓷	碗	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白			無	(15.1)				口縫部、周縫部	口縫部	1/8	内面・綿糸文あり・白磁 V 線
109	B 区包含層	白瓷	碗	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白			無				(6.8)	口縫部、周縫部	口縫部	2/8	白磁 V 線あり
110	B 区包含層	土師器	足釜	10YR4/1 灰灰	2.5Y8/3 浅黄				中・多	(21.4)			口縫部、周縫部	口縫部	2/8	外側底筋辺りに焼付膏

土器類叢表 (6)

番号	備考	古名	種類	形状	色	圓	外	内	石英・赤色粒	角閃石	斜長石	長石	口	直	高	底	造	その他の	外部	内部	貯水率	備考
111	A 区包含層	土師器	羽釜	罐	7.5YR4/3	SYR8/4							中・多	(19.2)				柱脚・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
112	B 区包含層	土師器	羽釜	罐	2.5YR5/8	2.5YR6/8							中・多					3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		筒形が付着 筒形に焼け付着
119	1号墳内周深	須恵器	平釜	SPB6/1	N6/灰	青瓦							中・多	11.9	5.2			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
120	1号墳内周深	須恵器	甕	N6/灰	N6/灰								中・少	(26.0)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
121	1号墳内周深	須恵器	甕	N6/灰	N6/灰								中・少	(14.6)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
122	1号墳内周深	土師器	甕	7.5YR6/4	15YR6/4	15YR6/4	中・立	並	細・少	中・少			中・少	(15.2)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
123	1号墳内周深	土師器	甕	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	中・立	並	細・少	中・多			中・少	(12.9)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
124	1号墳外周深	土師器	小口甕	5YR6/4	5YR6/4	5YR6/4	中・立	並	細・少	中・少			中・少	(9.5)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
125	1号墳内周深	土師器	小口甕	5YR7/4	5YR7/4	5YR7/4	中・立	並	細・少	中・少			中・少	(13.5)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
126	1号墳内周深	土師器	小口甕	10YR7/4	10YR7/4	10YR7/4	中・立	並	細・少	中・少			中・少	(7.7)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
127	1号墳内周深	土師器	甕(少焉)	5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4	中・立	並	細・少	中・多			中・多	(14.2)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
128	1号墳内周深	須生土器	甕	7.5YR5/4	15YR5/3	15YR5/3	中・多	中・多	細・少	中・多			中・多	(13.0)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
129	1号墳内周深	須生土器	甕	7.5YR8/2	2.5YR7/4	2.5YR7/4	中・立	並	細・少	中・多			中・多	(13.0)	4.3			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
130	1号墳内周深	須生土器	甕	5YR5/1	5YR5/1	5YR5/1	中・立	並	細・少	中・多			中・多	(13.0)	4.3			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
131	1号墳外周深	須生土器	高杯(仰)	7.5YR5/4	15YR5/6	15YR5/6	中・立	並	細・少	中・多			中・少	(13.0)	4.3			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
193	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N5/灰	N5/灰								中・少	(14.0)	4.2			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
193	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N5/灰	N5/灰								中・少	(12.3)	(12.3)			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
194	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N5/灰	N5/灰								中・少	(10.4)				3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
195	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N5/灰	N5/灰								中・少	(11.7)	2.2			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
196	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N7/灰白	N7/灰白								中・少	(11.7)	2.2			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		
197	2号墳周深	須恵器	杯蓋	N6/灰	N6/灰								中・少	(11.7)	2.2			3脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3 脚柱・3	口縁部 底片	筒形		

土器調査表 (7)

報文番号	報告書古名	種類	器種	色 黒	内面	石英 長石	赤色粒 角閃石 雲母	砂粒	口径 (cm)	底面 (cm)	底面 径 (cm)	その他の 底面 (cm)	外 部	内 部	検定手 数	備 考
188	2号埋周縁 須世器	縁環	杯	SPBS/1 青灰	杯身	N/S	N/S			中・少 (0.7)	(4.6)		目録付 底盤付		2/8 入り事 底盤付	
199	2号埋周縁 須世器	縁環	杯	N/S	N/S	N/S	N/S			中・少 (0.6)	5.3	(4.0)	目録付 底盤付		4/8 口録付 底盤付	
200	2号埋周縁 須世器	縁環	杯	SPBS/1 青灰	杯身	N/S	N/S			中・少 (1.24)			目録付 底盤付		口録付 底盤付	
201	2号埋周縁 須世器	縁環	杯	N/S NS/灰 NS/白	杯身	N/S	N/S			中・多 (13.5)	5.1	9.2	目録付 底盤付		1/8 底盤付 少えり張 底盤付	
202	2号埋周縁 須世器	縁環	杯	N/S	N/S	N/S	N/S			中・少 (14.0)	4.2		目録付 底盤付		口録付 底盤付	
203	2号埋周縁 須世器	甌	甌	N/T	甌身	T/T	T/T			細・少 (12.0)			目録付 底盤付		口録付 1/8	
204	2号埋周縁 須世器	甌	甌	N/S	N/S	N/S	N/S			中・少 (9.6)			目録付 底盤付		底盤付 底盤付 底盤付 底盤付	
205	2号埋周縁 須世器 (少)	甌	甌	SPBS/1 青灰	甌身	N/S	N/S			中・少 (6.6)			目録付 底盤付		底盤付 底盤付 底盤付 底盤付	
206	2号埋周縁 須世器	甌	甌	N/S	N/S	N/S	N/S			中・少 (6.2)			目録付 底盤付		底盤付 底盤付 底盤付 底盤付	
207	2号埋周縁 須世器	甌	甌	SPBS/1 青灰	甌身	N/S	N/S			中・多 (15.0)			明 目録付 底盤付		明 目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
208	2号埋周縁 土師器	甌	甌	SPBS/6 青灰	甌身	N/S	N/S			16.0			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
209	2号埋周縁 土師器	甌	甌	SPBS/4 青灰	甌身	N/S	N/S			中・多 (21.2)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
210	2号埋周縁 土師器	甌	甌	SPBS/8 青灰	甌身	N/S	N/S			中・少 (15.4)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
211	2号埋周縁 土師器	甌	甌	10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2	甌身	N/S	N/S			中・多 (15.7)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
212	2号埋周縁 土師器	甌	甌	2.5YR6/6	甌身	N/S	N/S			中・多 (28.2)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
213	2号埋周縁 土師器	甌	甌	5YR6/6	甌身	N/S	N/S			中・少 (22.0)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
214	2号埋周縁 土師器	甌	甌	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	甌身	N/S	N/S			中・少 (6.9)	8.7		目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	
215	2号埋周縁 土師器	甌	甌	5YR7/6 5YR7/6 5YR7/6	甌身	N/S	N/S			中・多 (23.6)			目録付 底盤付 底盤付 底盤付		目録付 底盤付 底盤付 底盤付	

## 土器観察表 (8)

番号	古文書名	種類	質地	色調			底	土	石器	角閃石 長石 斜長石	蛋白	砂粒	□通器	高底	注	量	測量	備考
				外面	内面	裏面												
216	2号墳圓錐	土鍋器	高灰	5YR4/2 灰褐色	5YR6/6 鐵褐色	5YR5/8 淡黃	中・多	中・多		(16.0)							外輪郭 口縫部 1/8	
217	2号墳圓錐	土鍋器	高灰	10YR3/2 黑褐色	10YR6/6 鐵褐色	2.5YR7/3 淡黃	中・少	中・少									外部 口縫部 1/8	接合部で弱離・全体に黒色斑点
218	2号墳圓錐	浮生土器	高灰(陶)	7.5YR6/4 1.5YR5/6	7.5YR5/6 1.5YR5/6	中・少	中・少	中・少		(12.2)							外輪郭 口縫部 1/8	円柱の穿孔・凹繩2条・混入品・黒色が進ぐ
219	2号墳圓錐	須恵器	要	5YR3/1 薄青灰 5YR6/1 青灰	5YR3/1 薄青灰 5YR6/1 青灰	5YR3/1 薄青灰 5YR6/1 青灰	中・少	中・少		(6.3)	20.2					口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	自然釉・実唇1条・液状文・実唇2条	
301	3号墳圓錐	須惠器	盤	N7/灰白	N7/灰白					(11.8)	14.4	4.1				外輪郭 口縫部 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部は外方へ折り返す	
302	3号墳圓錐	須惠器	要	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					(16.6)						口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	
303	3号墳圓錐	須惠器	要	N7/灰白	N7/灰白					(14.6)						口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	
304	3号墳圓錐	土匙器	小柄丸底 茎	5YR6/6 鐵褐色	5YR6/6 鐵褐色	中・少				(10.4)						口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	
305	5号墳圓錐	土匙器	高灰	7.5YR8/6 淡黃褐色	7.5YR8/6 淡黃褐色	中・少	中・少	中・少		(5.8)						口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	
306	6号墳圓錐	須惠器	平底	5YR6/1 青灰	5YR6/1 青灰											口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	口縫部 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m 1.5m	

石器観察表

編 番 号	報告書 名	器 種	長 さ (mm)	幅 (mm)	法 量 (mm)	厚 さ (mm)	重 さ (g)	材 質	備 考
84	C区S801	圓長刮片	83.0	54.0	13.0	45.69		サスカイト	田石器 先端と基部が幅 有基式
114	B区包含層	石鑿	30.8	15.0	5.1	2.28		サスカイト	
115	B区包含層	石鑿	37.5	16.5	4.0	2.33		サスカイト	完形品・有基式・弦生
116	C区包含層	石鑿	67.5	46.0	14.0	36.54		サスカイト	打撲石頭の先端か?
117	B区包含層	打撲石斧	114.0	70.0	20.0	243.15		サスカイト	
118	B区包含層	スクレーフィー	116.0	57.0	14.0	84.64		サスカイト	石塊丁の可能性有り

鉄器観察表

編 番 号	報告書 名	器種	長 さ (mm)	幅 (mm)	法 量 (mm)	厚 さ (mm)	重 さ (g)	材 質	銅 金	備 考
70	S008	刀子	71.5	15.0	9.0	13.27		鉄	全体が錆に覆われている	
113	B区包含層	鋼鏡	23.0	23.0	1.0	2.39	銅	無	北本館「原始元器」	



# 写 真 図 版

図版 1 別宮北遺跡 1



A区全景（西から）

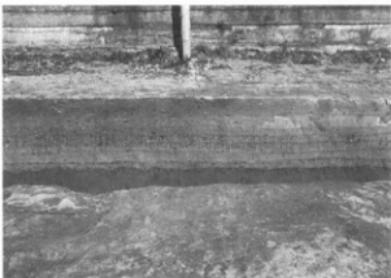


B区全景（西から）

図版2 別宮北遺跡2



A区北壁土層断面（南東から）



A区北壁土層断面（南から）



B区南壁土層断面（北西から）



B区中世遺構検出状況（西から）

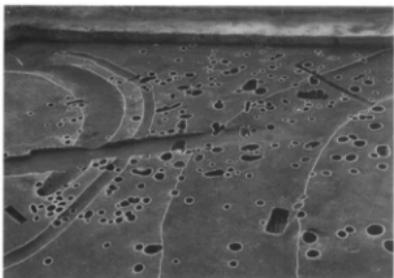


B区中世遺構完掘状況（北から）

図版3 別宮北遺跡3



B区中世遺構検出状況（南から）



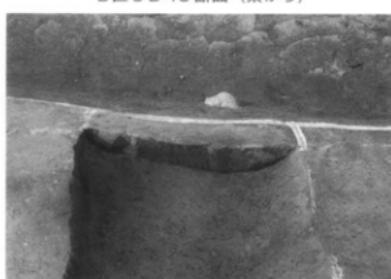
B区中世遺構完掘状況（北から）



B区SD 18断面（東から）



A区SD 20全景（南から）



A区SD 20断面（南から）



B区中世土器出土状況（西から）



B区中世土器出土状況（南から）



B区中世土器出土状況（東から）

図版 4 別宮北遺跡 4



C区全景（北東から）



C区全景（北東から）



C区南壁土層断面（北西から）

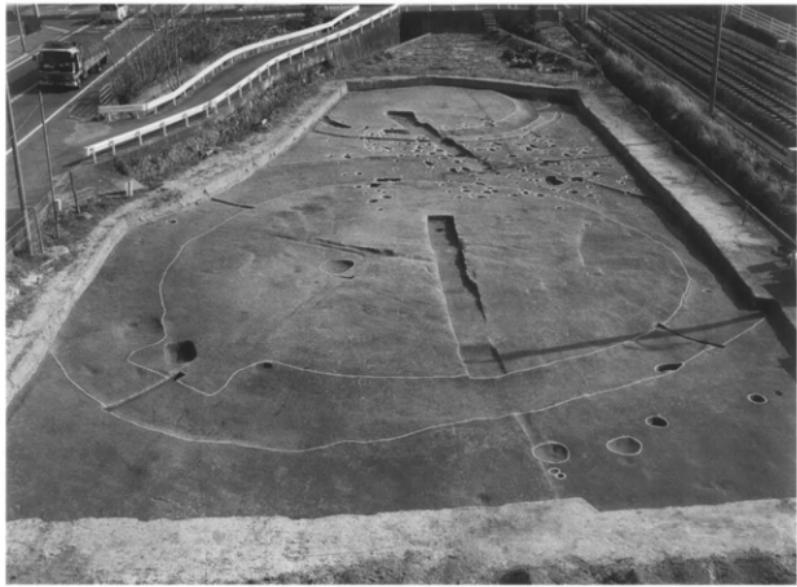


C区 S R 01 検出状況（北西から）



C区 S R 01 完掘状況（北西から）

図版 5 別宮北古墳群 1



B 区 1・2 号墳完掘全景（西から）

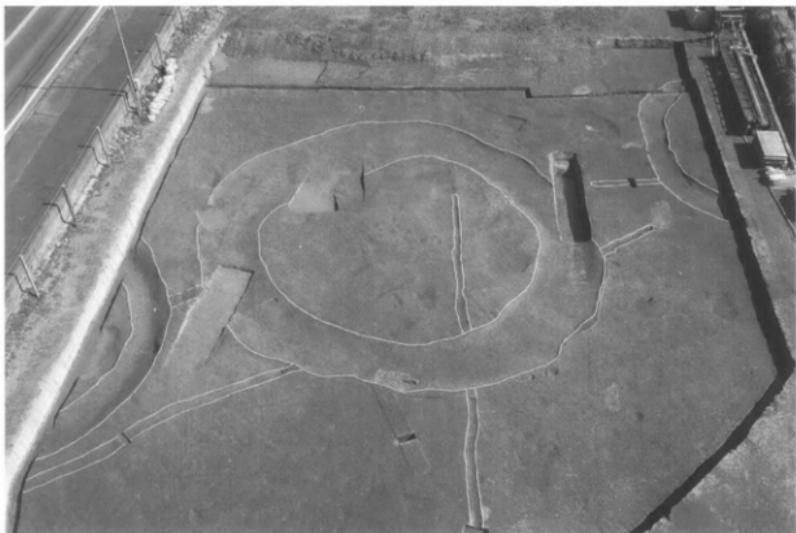


B 区 1・2 号墳完掘全景（東から）

図版 6 別宮北古墳群 2



A区3～5号墳完掘全景（東から）

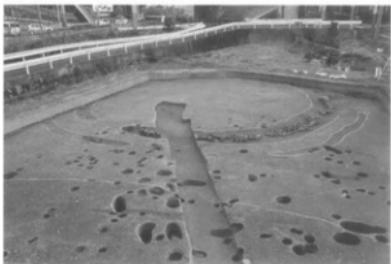


A区3～5号墳完掘全景（西から）

図版 7 別宮北古墳群 3



1号墳検出状況（南西から）



1号墳埴輪出土状況（南西から）



1号墳埴輪出土状況（南東から）



1号墳完掘状況（北西から）



1号墳完掘状況（西から）



1号墳須恵器出土状況（西から）



1号墳須恵器出土状況（東から）

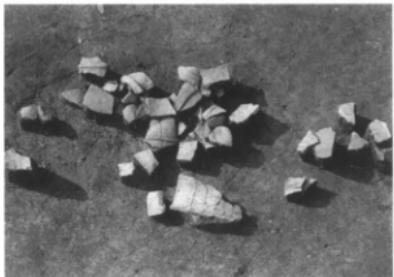


1号墳須恵器出土状況（東から）

図版 8 別宮北古墳群 4



1号埴輪輪出状況（北から）



1号埴輪輪出状況（北東から）



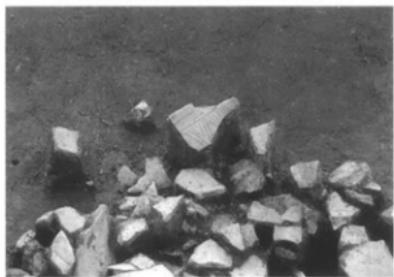
1号埴輪輪出状況（北東から）



1号埴輪輪出状況（北東から）



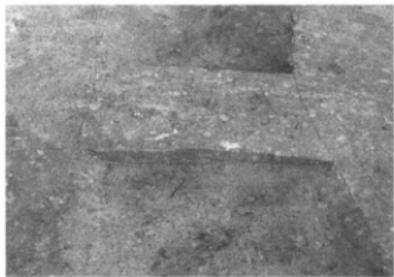
1号盾形埴輪輪出状況（東から）



1号盾形埴輪輪出状況（北東から）

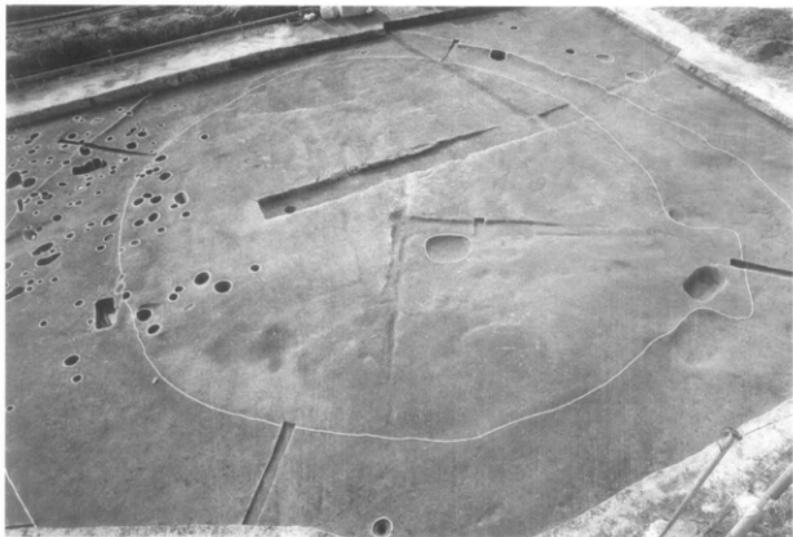


1号墳内周溝土層断面（東から）



1号墳外周溝土層断面（南から）

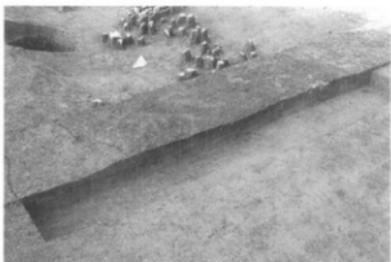
図版9 別宮北古墳群5



2号墳完掘全景（北東から）



2号墳周溝土層断面（南から）



2号墳周溝土層断面（南から）



2号墳周溝土層断面（北東から）



2号墳造出検出状況（南東から）

図版 10 別宮北古墳群 6



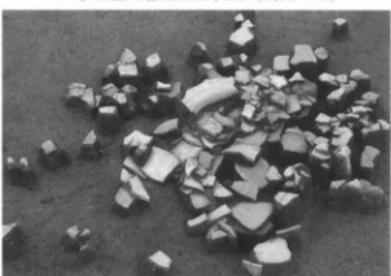
2号墳出土埴輪状況（南東から）



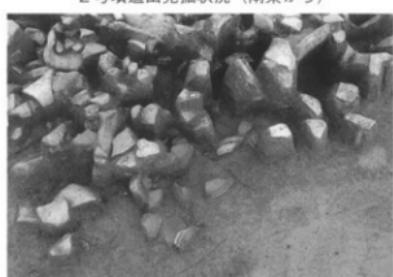
2号墳出土埴輪状況（南西から）



2号墳出土埴輪状況（北西から）



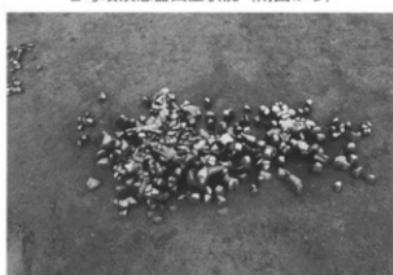
2号墳須恵器出土状況（北西から）



2号墳須恵器出土状況（南西から）



2号墳人物埴輪出土状況（北西から）



2号墳出土埴輪状況（南から）



2号墳出土埴輪状況（北から）

図版 11 別宮北古墳群 7



2号墳馬形埴輪出土状況（北から）



2号墳馬形埴輪出土状況（北から）



2号墳馬形埴輪出土状況（北西から）



3号墳完掘状況（西から）

図版 13 別宮北古墳群 9



3号墳検出状況（東から）



3号墳周溝土層断面（南から）



3号墳須恵器出土状況（北から）



3号墳土器出土状況（南西から）

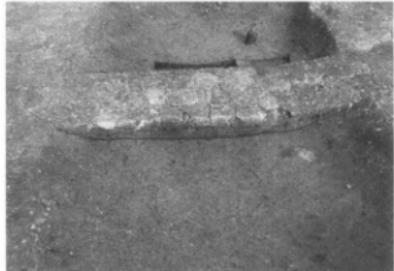


4号墳完掘状況（北西から）

図版 14 別宮北古墳群 10



4号墳検出状況（北東から）



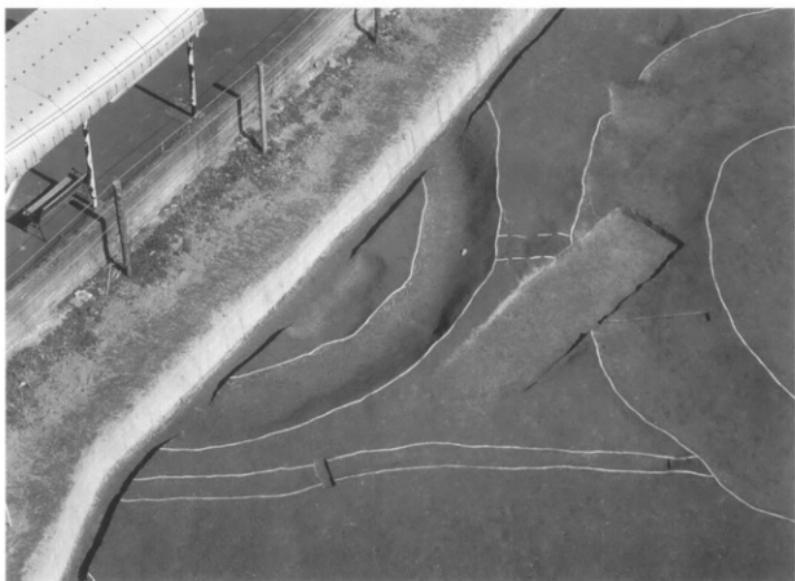
4号墳周溝土層断面（西から）



4号墳陸橋部完掘状況（東から）

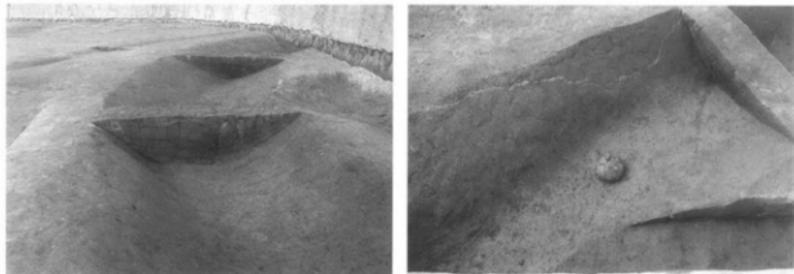


4号墳周溝土層断面（北西から）



5号墳完掘状況（南西から）

図版 15 別宮北古墳群 11



5号墳周溝土層断面（南東から）

5号墳土師器出土状況（北から）



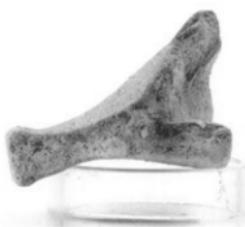
3～6号墳検出状況（南西から）



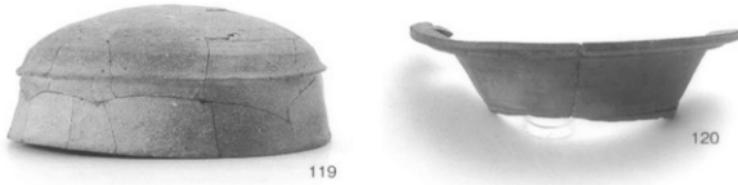
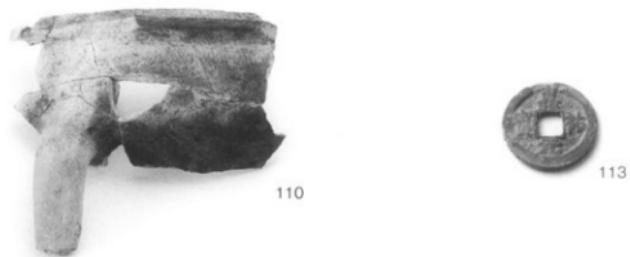
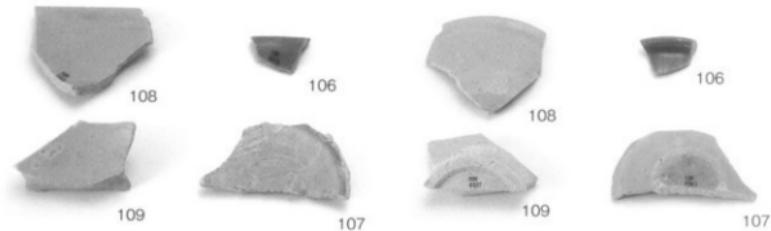
6号墳完掘状況（南西から）

6号墳周溝土層断面（南西から）

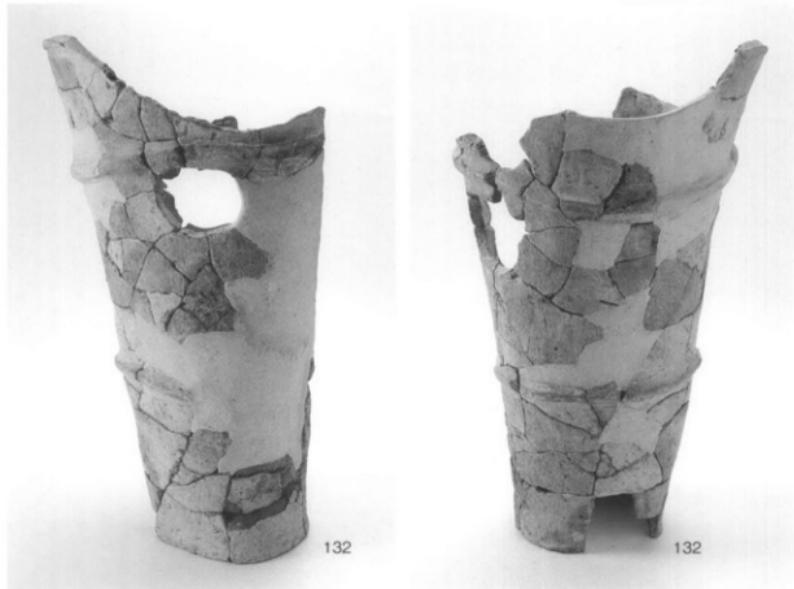
図版 16 遺物写真 1



図版 17 遺物写真2



図版 18 遺物写真 3



図版 19 遺物写真 4



133



133



134



134



135

図版 20 遺物写真 5



図版 21 遺物写真 6



图版 22 遗物写真 7



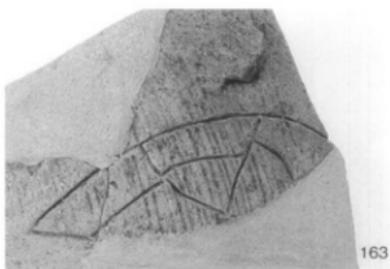
162



162



163



163



173



188

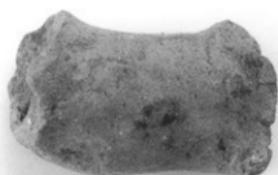


188



188

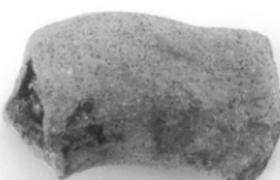
图版 23 遗物写真 8



189



189



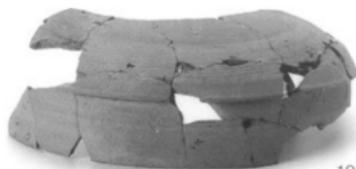
189



189



189



193



193



197

図版 24 遺物写真 9



199



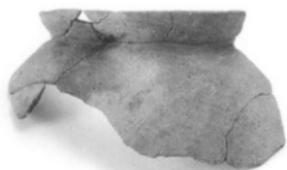
199



200



201



209



212



214

図版 25 遺物写真 10



220



220



221

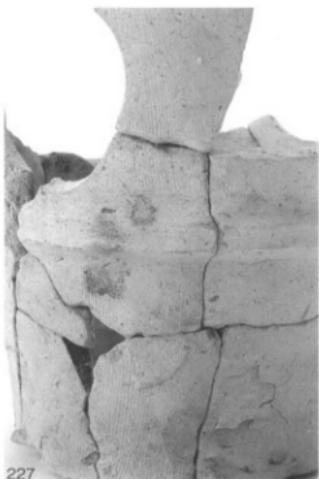


220



221

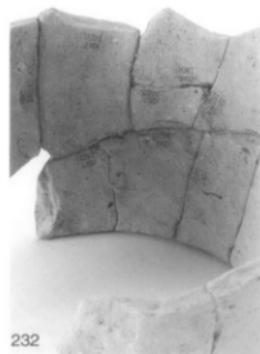
図版 26 遺物写真 11



図版 27 遺物写真 12



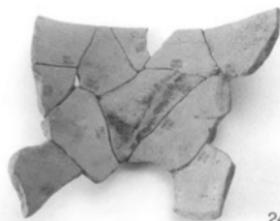
232



232



245



245



246



246



246



260



267



267



268



268

図版 29 遺物写真 14



277



277



277



277



277

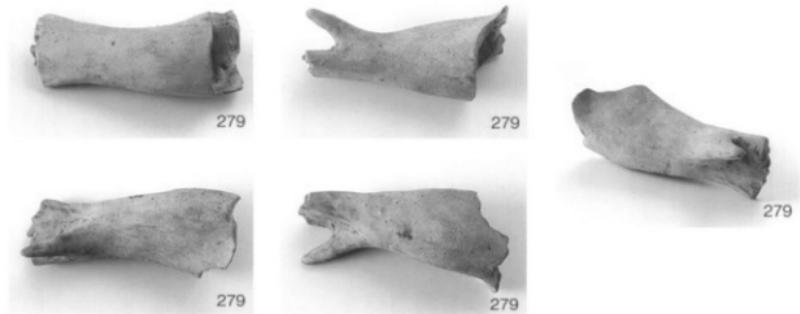
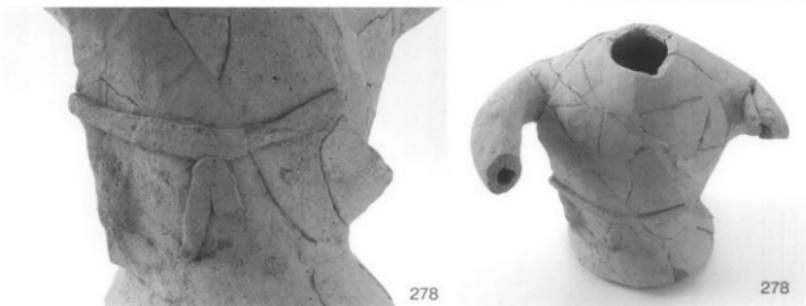
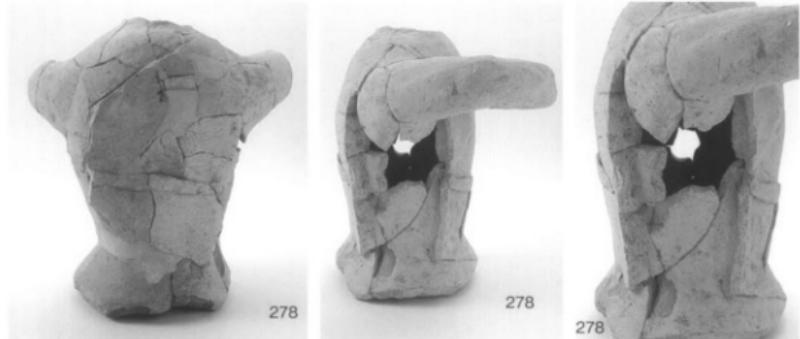


278



278

図版 30 遺物写真 15



図版 31 遺物写真 16



280



280



280



280



281



281



281



281



282



282



282



283



283



283

図版 32 遺物写真 17



284



285



284

図版 33 遺物写真 18



285



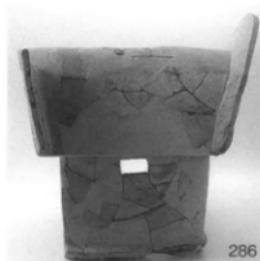
285



285



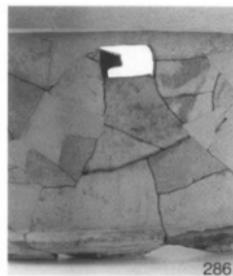
286



286



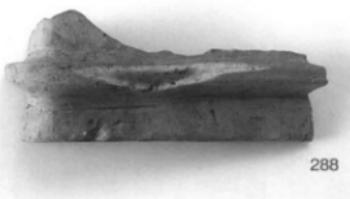
286



286



286



288



288

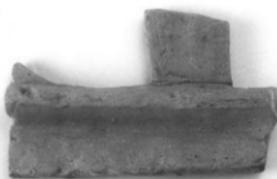


288



288

図版 35 遺物写真 20



289



289



295



295



295



301



305

報告書抄録

一般国道 11 号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

**別宮北遺跡・別宮北古墳群**

平成 22 年 9 月 10 日 発行

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒 762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4

電話 (0877)48-2191 (代表)

発行 香川県教育委員会

国土交通省四国地方整備局

印刷 (株)美巧社

